

## 21世紀に向けて,より魅力と活力に溢れる玉川大学・ 玉川学園女子短期大学の教育創造のための基礎調査

玉 川 学 園



# 目 次

I. 調査実施概要 .....	2
II. 調査結果および考察 .....	8
1. 入試・広報	
問 1 本学受験を決めた時期はいつごろですか〔Q5〕 .....	12
問 2 本学受験を決めた“きっかけ”はなんですか〔Q6〕 .....	14
問 3 本学受験を決めた“理由”はなんですか〔Q7〕 .....	16
問 4 入学時に期待していたことはなんですか〔Q10〕 .....	18
問 5 本学への進学相談を受けた場合あなたは本学を勧めますか〔Q11〕 .....	20
問 6 本学のイメージはあなたの周囲ではどのようなだと思いますか〔Q12〕 .....	22
問 7 本学の“学費”は教育内容や施設・設備と比べてどのように思いますか〔Q13〕 .....	24
2. 教務	
問 8 本学の教育において“数量的”に不足していたと感じたものはなんですか 〔Q14〕 .....	28
問 9 卒業後本学を訪ねたことがありますか〔Q15〕 .....	30
問 10 本学の卒業生として誇れることはなんですか〔Q16〕 .....	32
問 11 卒業生の立場から本学の教育に期待することはなんですか〔Q17〕 .....	34
問 12 授業において自分が打ち込める科目はありましたか〔Q18〕 .....	36
問 13 意見や考えを求められる授業はありましたか〔Q19〕 .....	38
問 14 授業内容の理解に努力しましたか〔Q20〕 .....	40
問 15 資格取得につながる科目はありましたか〔Q21〕 .....	42
問 16 授業等において熱意を感じる先生はいましたか〔Q23〕 .....	44
問 17 卒業研究担当教員(短大は担任)の指導に満足しましたか〔Q24〕 .....	46
3. 学生生活	
問 18 不安や悩みを相談した相手は誰ですか〔Q25〕 .....	50
問 19 アルバイトはしていましたか〔Q26〕 .....	52
問 20 クラブ・サークル活動に参加していましたか〔Q27〕 .....	54
問 21 コスモス祭・収穫祭にどのような立場で参加しましたか〔Q28〕 .....	56
問 22 昼食はどのようにとっていましたか〔Q29〕 .....	58
問 23 空き時間によく利用した場所はどこですか〔Q30〕 .....	60
問 24 印象に残っている行事はなんですか〔Q31〕 .....	62
問 25 在学中、資格取得や語学などの学校に通っていましたか〔Q22〕 .....	64

#### 4. 就職

問 26 志望就職先を選択するときに重視したことはなんですか〔Q32〕	68
問 27 就職活動時に参考にした情報源はなんですか〔Q33〕	70
問 28 就職関係の資料や情報提供は充実していましたか〔Q34〕	72
問 29 就職指導や就職ガイダンスは充実していましたか〔Q35〕	74
問 30 就職指導の教職員の対応は適切でしたか〔Q36〕	76
問 31 就職指導の観点から重要だと感じたものはなんですか〔Q37〕	78
問 32 就職活動を終えて自分に不足していたと感じたものはなんですか〔Q38〕	80
問 33 当時の就職先に現在も勤務していますか〔Q39〕	82

#### 5. 生涯学習

問 34 もう一度学びたい分野はありますか〔Q40〕	86
問 35 もう一度学ぶとすれば考えられる手段はなんですか〔Q41〕	88
問 36 現在取得している資格をグレードアップしたいですか〔Q42〕	90
問 37 継続的学習を行う場合障害になると思われることはなんですか〔Q43〕	92
問 38 本学公開講座についてどのような“地理的条件”であれば参加したいですか 〔Q44〕	94
問 39 本学公開講座についてどのような“時間的条件”であれば参加したいですか 〔Q45〕	96
問 40 現在興味・関心のあることはなんですか〔Q46〕	98

#### 6. 満足度

問 41 大学で学んだことが現在の仕事や生活に役立っていると思いますか〔Q47〕	102
問 42 大学生生活の満足度は100点満点中どのくらいですか〔Q48〕	104

III. 調査票	108
----------	-----

〔 〕 数字は、調査票設問番号

## . 調査実施概要

本調査は、1987～1991年度の卒業生を対象に実施したものである。したがって、時代の流れと共に現状は当時と違っている場合も当然想定される。玉川学園がどのように変化してきているかを改めて知ること、教育改善へのひとつの手掛かりになるのではないだろうか。是非、そのような視点から本調査結果をご覧ください。幸いです。

# 「21世紀に向けて、より魅力と活力に溢れる玉川大学・ 玉川学園女子短期大学の教育創造のための基礎調査」

## 1. 調査目的

今、日本の教育が大きく変わろうとしている。玉川大学・玉川学園女子短期大学（以下本学と表記する）においてもこれまで様々な改革を進めてきているが、まだまだ検討すべき事項が残されており、今後も継続して改革に取り組んで行かなければならない。それには教職員のみならず、現在在籍している学生、保護者、さらには社会人として活躍している「卒業生」からも、将来の本学のあるべき大学像について意見をいただきたいと考えた。

そこで、卒業生を対象に、自己点検・自己評価の観点からも分析し、今後の教育活動に役立たせることを目的とするアンケート調査を実施することとした。

なお、本調査は玉川学園教育研究活動等点検調査委員会における点検調査の一方策として位置づけるものとする。

## 2. 調査内容

### 調査項目

- 入学に関する事項（入学試験、入試広報、情報、期待、イメージと実際）
- 教育に関する事項（カリキュラム、授業、教員、担任）
- 生活に関する事項（学生生活、友人、課外活動、施設・設備）
- 就職に関する事項（職業、将来、情報、相談）
- 現在に関する事項（仕事、生涯学習、公開講座、卒業生としての意識）

### 調査対象

- 1987～1991年度本学卒業生から抽出した2,500名  
卒業してある程度の社会経験を積み、大学の現状よりかけ離れすぎない等を考慮し、卒業後5～10年の者を対象とした。（平成7年度より施行の現行カリキュラム履修者ではない）

### 実施方法

- 郵送調査法
- マークシート方式

### 実施時期

- 1998年9月8日送付、10月14日返送分をもって締め切った。

### 調査票回収状況

- 宛先不明等による返送数 90 件を除き，最終的な調査対象数は 2,410 件，回収数 606 件。（回収率 25.1％）

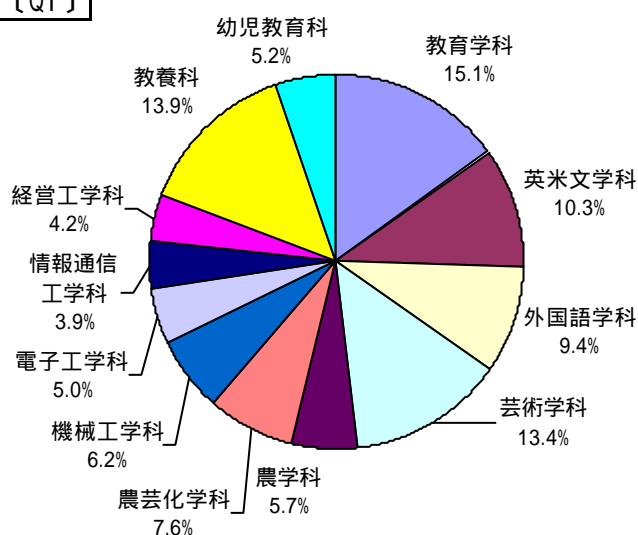
### 3. 回答者プロフィール

	卒業生数	送付数	回収数（回収率％）	男性	女性	不明
教育学科	1,161	279	90（32.3）	30	60	
英米文学科	1,190	288	61（21.2）	14	47	
外国語学科	1,010	235	56（23.8）	12	44	
芸術学科	1,104	233	80（34.3）	13	66	1
農学科	615	169	34（20.1）	23	10	1
農芸化学科	553	156	45（28.9）	33	12	
機械工学科	531	171	37（21.6）	36	1	
電子工学科	490	154	30（19.5）	25	4	1
情報通信工学科	375	115	23（20.0）	16	7	
経営工学科	527	162	25（15.4）	20	5	
教養科	1,583	342	83（24.3）	-	83	
幼児教育科	434	106	31（29.2）	-	31	
〔無効票〕			11			
計	9,573	2,410	606			

卒業生数は，1987～1991 年度の卒業生数。

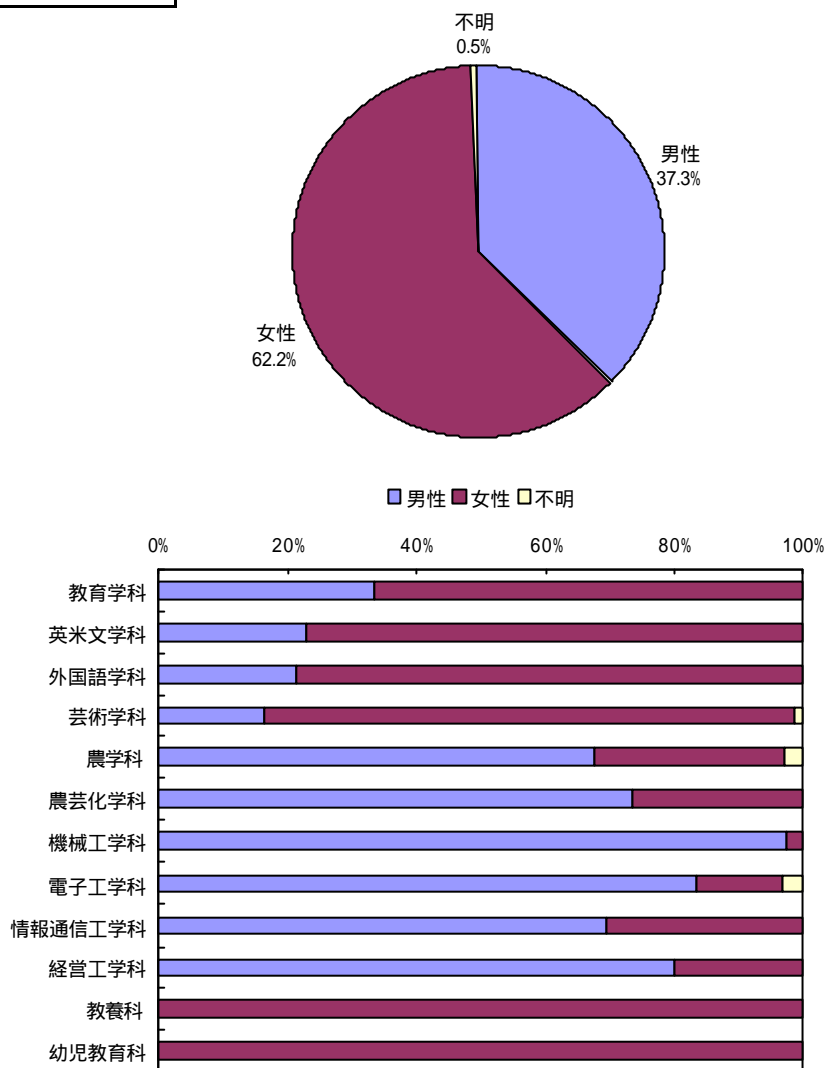
### F1 卒業学科を教えてください〔Q1〕

	(人)
教育学科	90
英米文学科	61
外国語学科	56
芸術学科	80
農学科	34
農芸化学科	45
機械工学科	37
電子工学科	30
情報通信工学科	23
経営工学科	25
教養科	83
幼児教育科	31



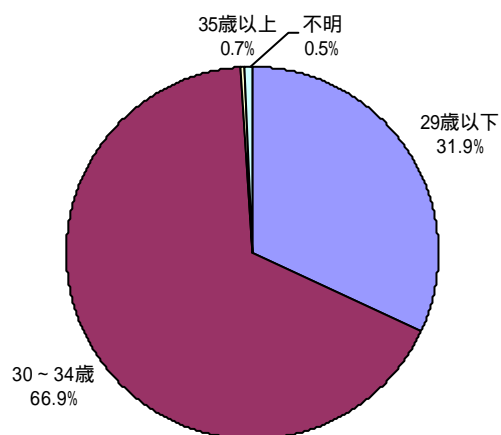
F2 性別を教えてください〔Q2〕

	(人)
男性	222
女性	370
不明	3



F3 年齢を教えてください〔Q3〕

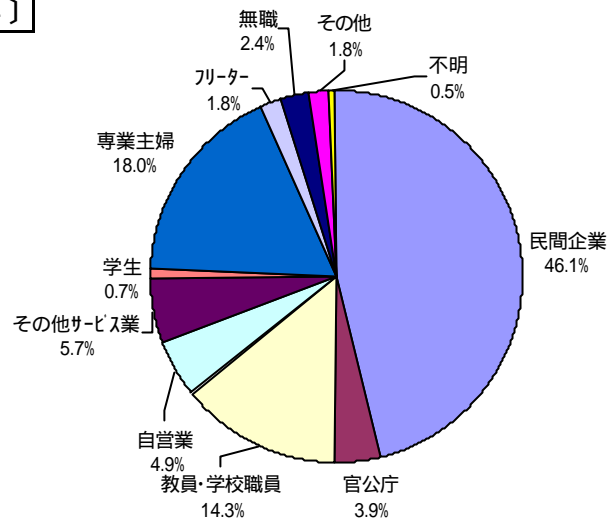
	(人)
29歳以下	190
30～34歳	398
35歳以上	4
不明	3





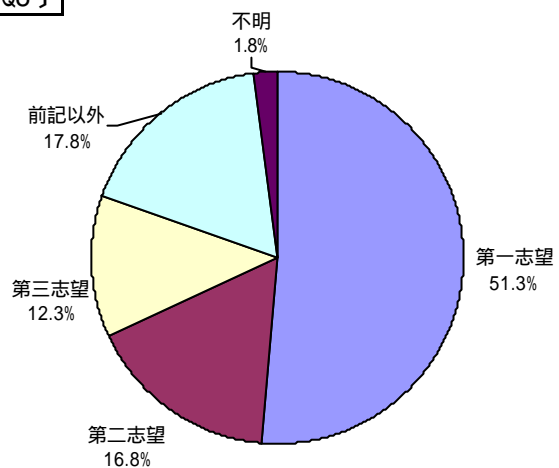
#### F4 職業を教えてください〔Q4〕

	(人)
民間企業	274
官公庁	23
教員・学校職員	85
自営業	29
その他サービス業	34
学生	4
専業主婦	107
フリーター	11
無職	14
その他	11
不明	3

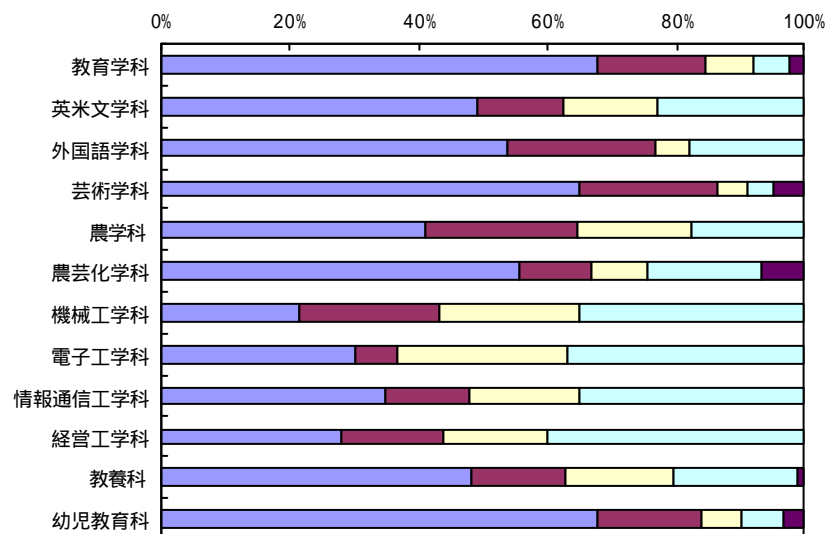


#### F5 本学の志望順位はどこですか〔Q8〕

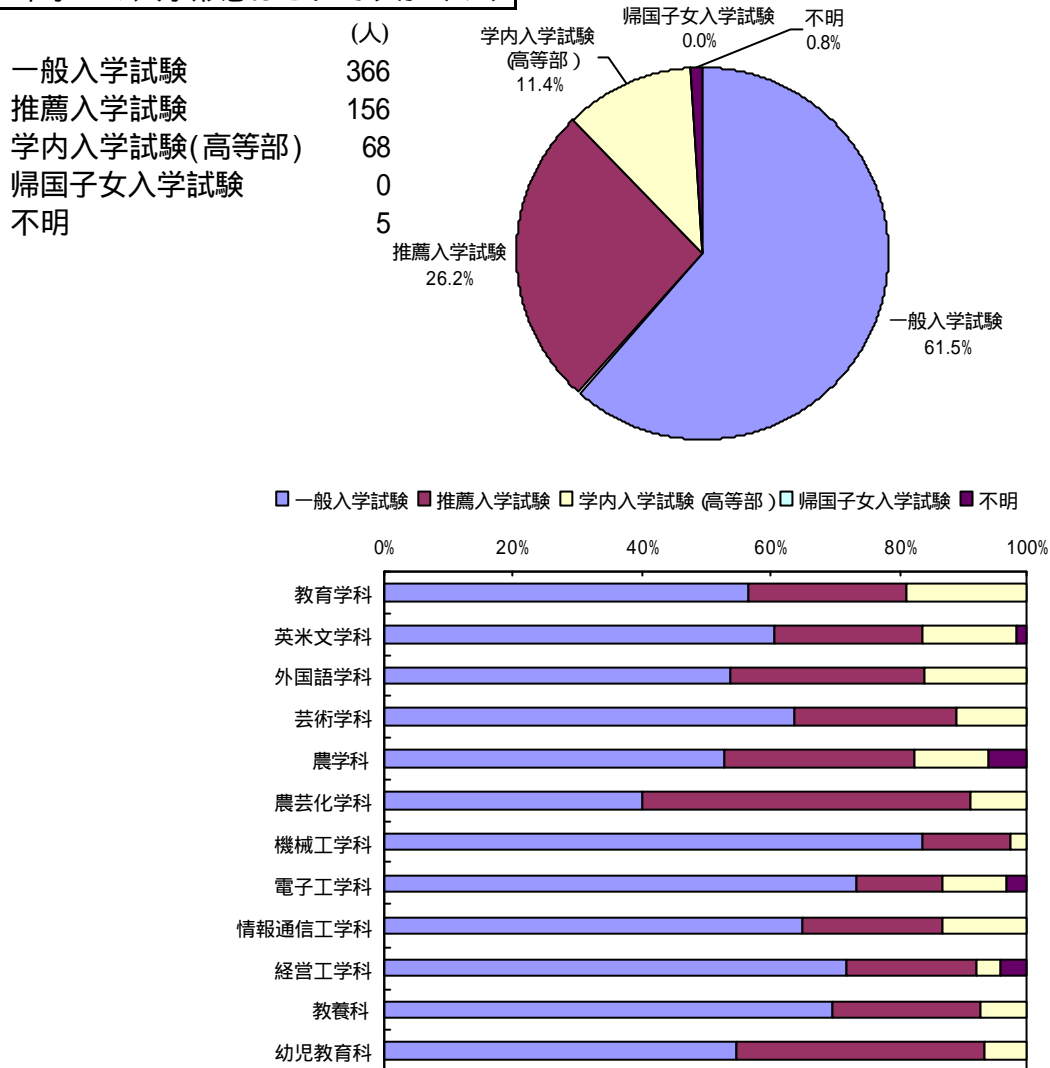
	(人)
第一志望	305
第二志望	100
第三志望	73
前記以外	106
不明	11



■ 第一志望 ■ 第二志望 □ 第三志望 □ 前記以外 ■ 不明



F6 本学への入学形態はどれですか〔Q9〕



今回の調査は、最終的な調査対象数2,410件に対して、回収数606件（有効回答数595件）で回収率25.1%という結果になった。一般的なアンケート調査の場合、回収率は15～20%と言われていることからすれば、それを上回る結果であったと言える。しかし、調査対象が卒業生であった（予測回収率40%）ことを考えると、この回収率にはいささか不安を覚える。

しかし、最低500件以上のサンプル数を確保できたこと、また、そのような中で回答していただいたこともあってか、質の高い回答であったことなどを考え合わせると、今回の調査目的は達せられたと言えるのではないかと。

本学の志望順位からみても、回答を寄せていただいた方の約52%は第一志望であったことから、積極的な回答内容であったことが推察できる。

学科別に見てみると、教育学科、芸術学科、幼児教育科の回収率が高く、これらの学科は第一志望率もまた、70%近い高率であった。

## ・調査結果および考察

## 調査結果および考察

### 概 要

卒業後 5～10 年の層を対象に、回収率 25.1%というアンケート結果をまとめた結果の概要を述べておく。詳細は以下の諸データを参照されたい。第 3 節 (p.6) で述べたように、質の高い(恐らく好意的な部分の多い)回答であることを念頭に、各部署での検討と対応の資料としていただきたい。

設問から分析まで、教育研究活動等点検調査委員会の各専門分科会による分担的な担当を行ったが、各項目は相互に関連しているものであり、各部署の対応は全体を踏まえたものであることを願っている。

### 1. 入試・広報

本学に対するイメージは、「全人教育，高所得者層の学校」ということである。受験を決めた理由(問 3)で「校風」，「自然環境」をあげたものが多いことは，全人教育を含めて大いに宣伝する価値があろう。また高級感を，限定的でなく前向きにとらえれば，これも『売り』のポイントになり得る。奨学金などの充実によって，高級感をより広い層に味わってもらう制度を主張できるとよい。玉川教育の内容の一般的な広報・啓蒙は重要であるが，受験生を対象とする点では「高校 2 年生」をターゲットにアピールする必要がある。

### 2. 教務

本学の教育に求める第 1 位は「社会人としてのマナー」である。上記入学時のイメージとしての全人教育とも対応しているといえよう。誇れる特徴として「自然環境」の他に「教養行事」の評価が非常に高い(問 24 にも繰り返される)こともまた，結びついているのではないだろうか？期待する第 2 位に「国際感覚」があげられている。これは 21 世紀のグローバルエイジを本学の卒業生に担って欲しいという期待値であろう。自分のことを振り返れば，「語学力」の不足を感じた率が最も高くなっている。このギャップを埋める方策を求めねばならない。

教員免許を中心とする教育学科，幼児教育科を含めて，「資格取得につながる科目数」には不満があるようで，大学教育の目的とは別に，現実的な成果が見えるようなアピールには検討の余地があろう。

「教員による指導(卒業研究，担任)の満足度」が，「大学教育の満足度」に対応しているような結果(問 17 と問 42)があるので，教員の指導力の開発(いわゆるファカルティ・ディベロップメント)には常に配慮が必要である。

### 3．学生生活

問 10 で誇れるものに「友人」があげられている。これに結びつくクラブ・サークル活動には約 7 割が参加していた。近年ではサークルの方が数的に優勢になっているが、大学としての参与を積極的にしていくことが、学生生活の充実度を上げることにつながるだろう。

問 8 で不足していた第 1 位は「コンピュータ関連施設」であったが、この面は近年急速に改善されている。第 2 位に「食堂」があげられている。昼食(問 22)や空き時間(問 23)を学内食堂に依存していた状況が明らかで、厚生施設としての位置づけを明確にして対応する必要があるだろう。

### 4．就職

出口としての就職は個人の事情によって左右され、学科の特質によっても異なるので、対応の難しさはあるが、問 31 の指摘のように、「求人開拓の強化・情報の提供」と「個人指導の徹底」が、大学の提供すべきサービスであろう。個人指導は担任制度の活用とも結びつくはずである。「就職ガイダンス、各種の講習、模擬面接」などの試みにも一定の評価が得られており、アンケート対象者の卒業後に独立部署となった就職センターの活動が期待されるところである。

### 5．生涯学習

「外国語」を学び直したいというのは過半数の希望である。「通信教育」や「公開講座」も手段としての希望が高い。ただし、これらの実現には「時間」がネックになっている実情もはっきりしている。これらの点や、現在の興味・関心事項にはやや具体的な回答もあるので、卒業生の意向は継続学習センターが対応することになるだろう。

### 6．満足度

7 割程度の卒業生が大学での成果が役立っていると感じ、「80点」を付けている。合格ラインを 70 点とみると 85%、ほぼ同率で「進学相談を受けた時には勧める」という回答率となる(問 5)。内容、学科別などについてはなお検討の余地があり、各部署での対応をお願いしたい。

## 総 評

数的には合格点、あるいはそれ以上の評価を得た調査内容と思われるが、冒頭でも述べたように、回答という行為の段階で好意的な層を掬っている傾向があるので、割り引いて受け止める必要があるだろう。少数の意見はまとめの中から読み取るのは難しく、批判は見逃されやすいことも否めない。

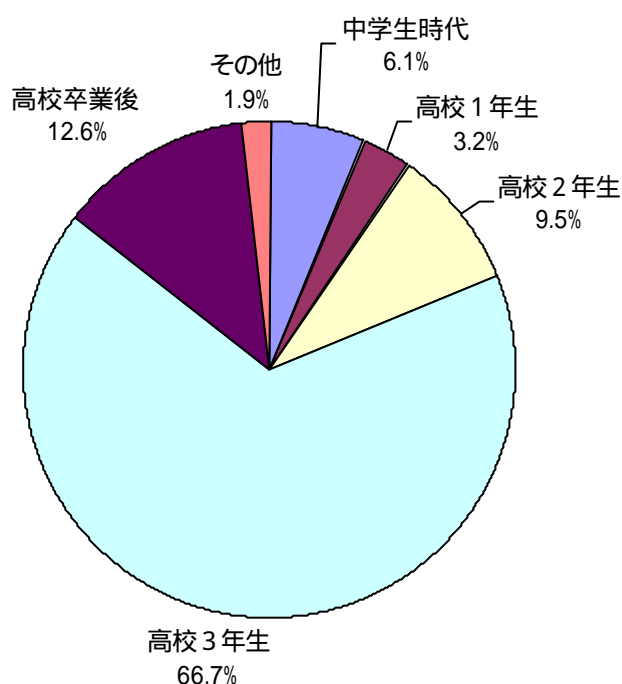
折しも、大学審議会が 1998 年 10 月に『21 世紀の大学像と今後の改革方策について - 競争的環境の中で個性が輝く大学 - 』という答申を発表した。このアンケートはまさにその一環を、特定の側面から照らすことになったものと言える。

学科によって特定の傾向が示されている場合も少なくないが、関係部署にあってはその目で分析をやり直すなどして、対応に結びつける必要が感じられる。そのようにして、『21 世紀の玉川大学・玉川学園女子短期大学』を創って行く資料として活用されることを願っている。

## 1 . 入 試 ・ 広 報

問1 本学受験を決めた時期はいつごろですか

### 高校3年生の時期

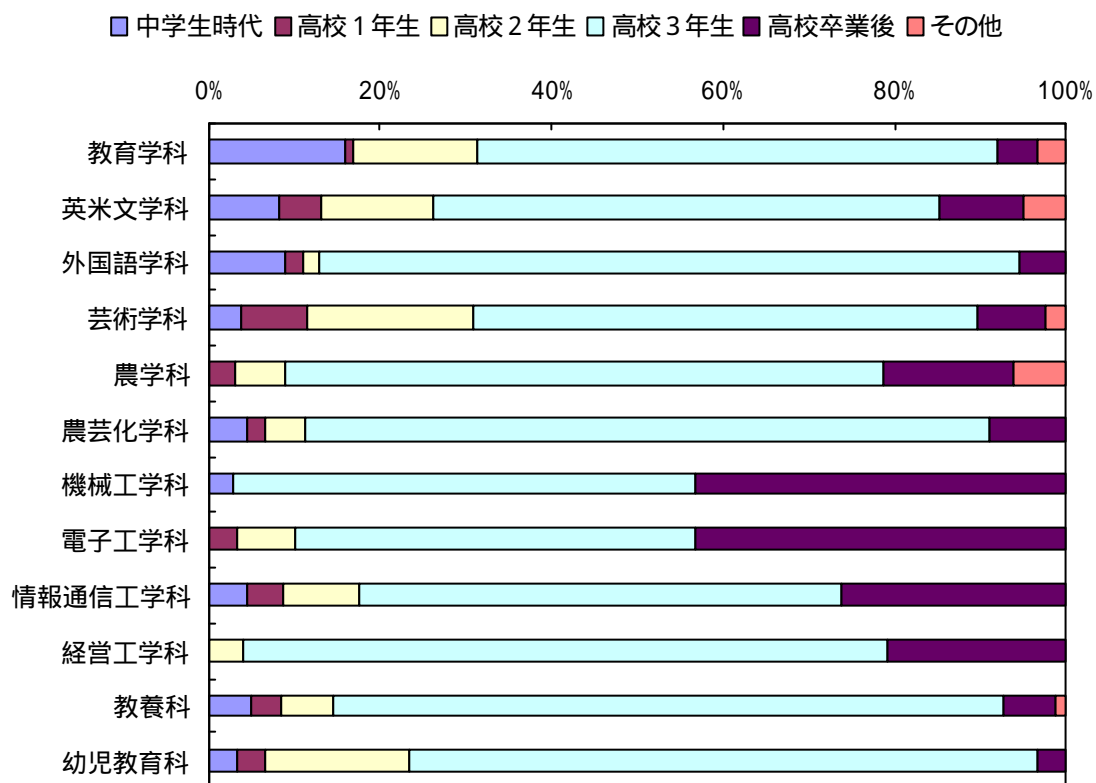


本学への受験を決意した時期について尋ねたところ、「高校3年生」の時が66.7%を占めていた。また、高校3年生の時期をピークとしてその前後に「高校2年生」が9.5%、「高校卒業後」が12.6%と続いている。特に、工学部に浪人の率が高いことが顕著である。

自分の進路を考える時期や環境などを考え合わせると、高校3年生からの志望校選択は普通であり、特に男子は女子と比べると高校3年生の夏過ぎになる傾向は過去から一般的にあった。しかし、この短期間での志望校選択は遅すぎるとの意見もあるし、今後の少子化に伴う入試制度などの変革により、高校生の意識も変化を見せるであろう。

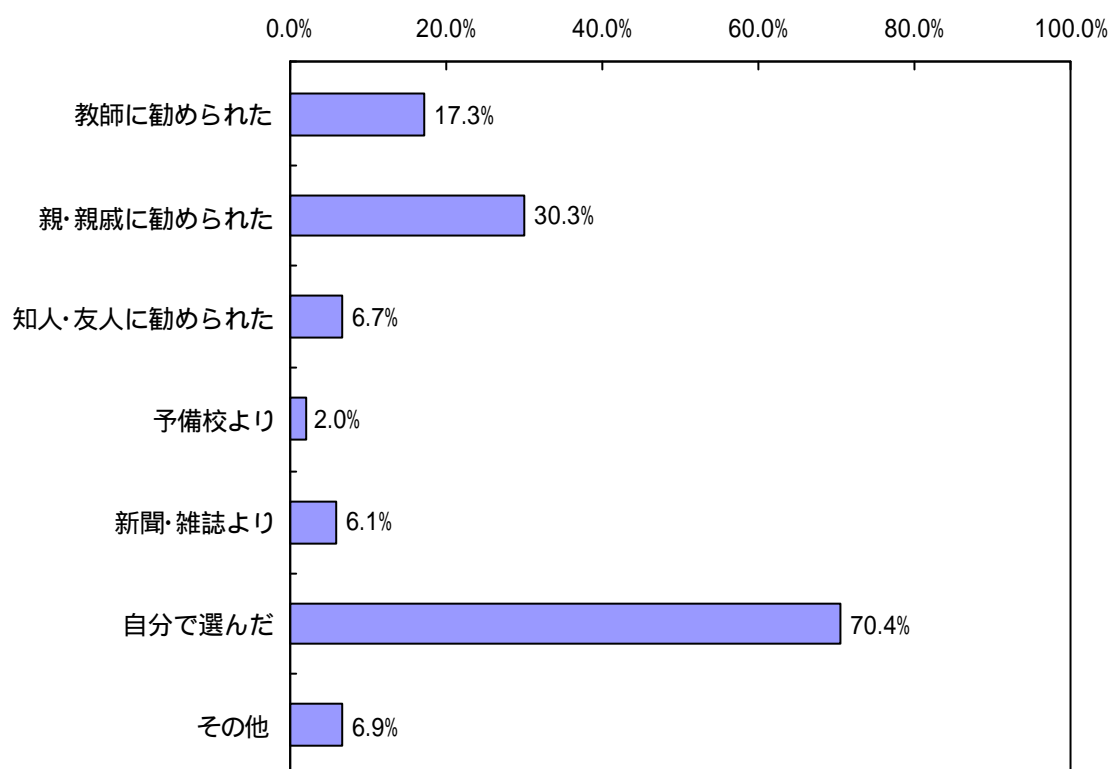
また、決定時期が3年生になってからであっても、それ以前に受験対象校候補としてあげている時期があるのだから、高校2年生を対象に玉川の情報を提供することは、大学を選択する土俵にのせてもらえる可能性が増えることにもなり、高校2年生への働きかけは重要である。





問2 本学受験を決めた“きっかけ”はなんですか（複数可）

### 自分自身で選んだ

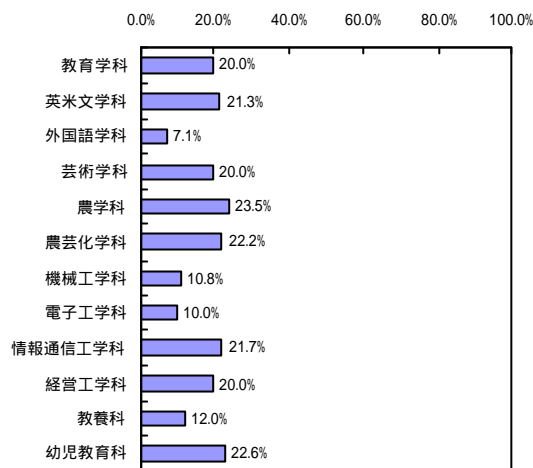


本学への受験を決意したきっかけについて尋ねたところ、「自分で選んだ」が70.4%を占めていた。また、「親・親戚に勧められた」が30.3%、「教師に勧められた」が17.3%とそれぞれ続いている。

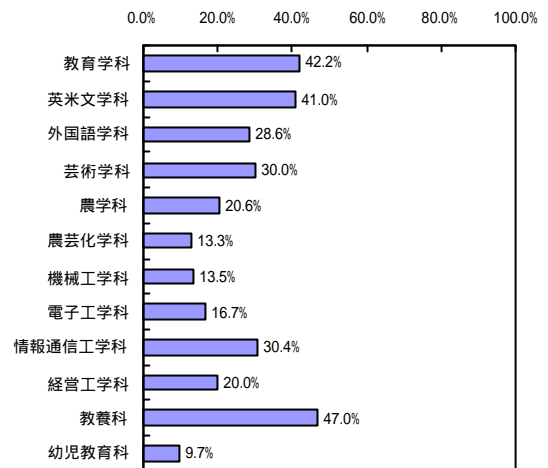
自分で選ぶ率は工学部に次いで、幼児教育科が高いのが目立った。これに対して親・親戚の影響によるものは、教育学科、英米文学科、教養科がずば抜けて高いと言える。予備校の勧めが非常に低いですが、他の大学の状況はどうだろうか？自分で選ぶ時の情報源が何かを聞くべきであった。それが予備校でないのであれば、予備校に対する働きかけの方向性を考える必要があるのかもしれない。

最近の受験指導は、高校自体が非常に強化しているようである。教師に勧められて決める者も少なくないこと、自分で選ぶにあたっては、情報把握に基づくことを考えると、進学選択のための情報提供を効率的に行うには、高等学校を対象にし、前問にあるように高校2年生に合わせるのが良いということになる。

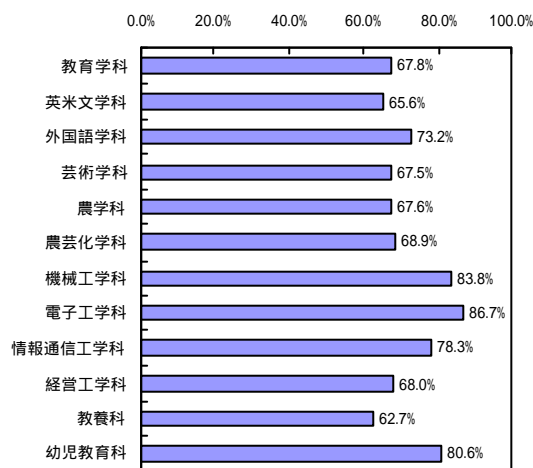
教師に勧められた



親・親戚に勧められた



自分で選んだ

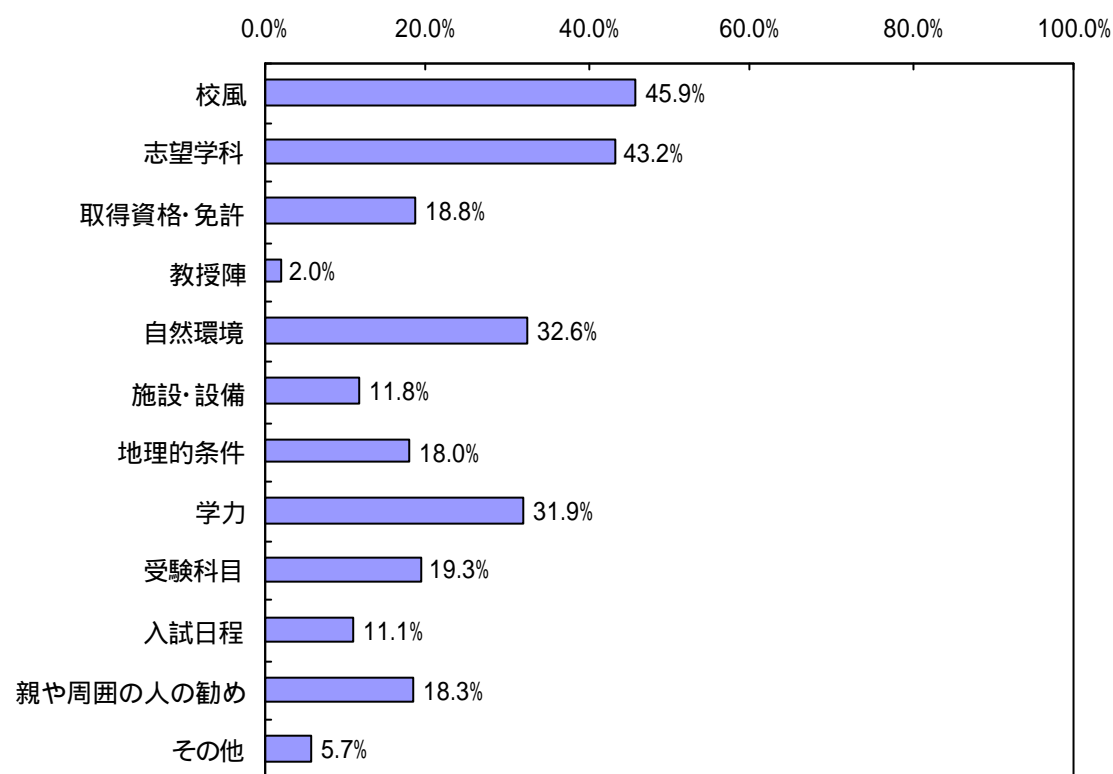


### <「その他」の意見>

創設者の本を読んだ、推薦入試制度があった、学校訪問をして良い印象を受けた、兄や姉が通学していたなど

問3 本学受験を決めた“理由”はなんですか（複数可）

玉川の校風や志望の学科が合った



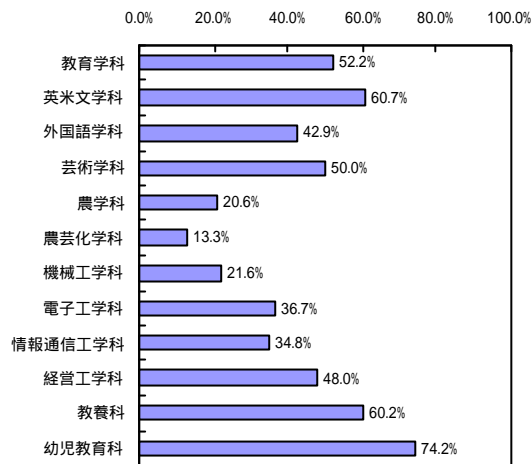
本学への受験を決意した理由については、「校風」が45.9%で「志望学科」が43.2%、「自然環境」が32.6%、「学力」が31.9%とそれぞれ続いている。学科で見ると理由は大きく異なっており、教育学科と幼児教育科は「取得資格・免許」が主で、機械工学科と経営工学科では50%を越えて「学力」となっており、偏差値に合わせて受験している学生が過半数を超えていることを示している。

校風を評価したものは、親などの影響の強い教育学科、英米文学科、教養科が高いほかに、幼児教育科がずば抜けているのが目立つ。芸術学科、農学部は、進路志望と一致度が高いのが特徴と言える。

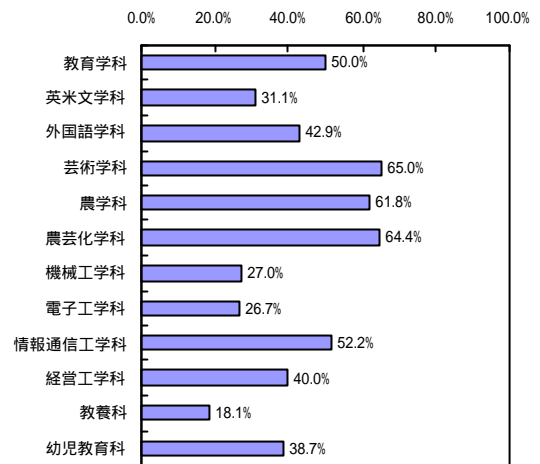
校風、自然環境をあげた人が多いことは、少なくとも一度はキャンパスを訪れたことがあることと一致するのではないかとそれがわかるような設問が必要であった。また、『コスモスカンパニー』（本学に関心のある高校生・受験生を対象とした会員組織）のような仕組みは、それなりに意義が高いのかもしれないが、費用対効果などさまざまな角度から検討が必要となる。

「学力」31.9%という平均値は、これを低く評価した教育学科、芸術学科、幼児教育科が属する回答者が多かったため、低めに表れている。クロス集計値の各学科の値を平均すると、35%となる。これを大きく越えている工学部では、例えばF5(p.5)や問12などで示される、志望順位、学習意欲の低さと対応しているのであろう。

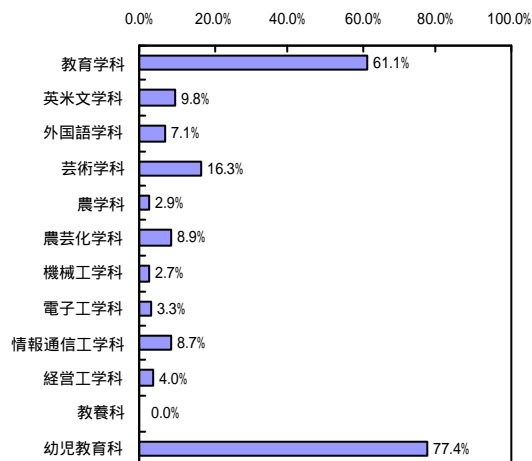
校風



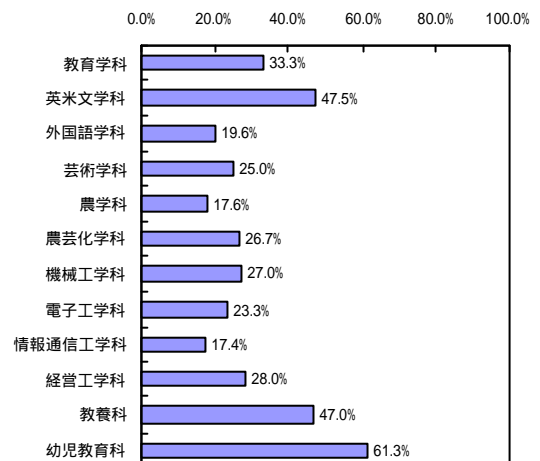
志望学科



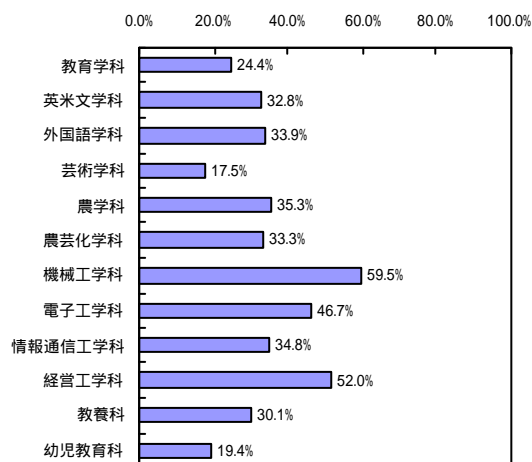
取得資格・免許



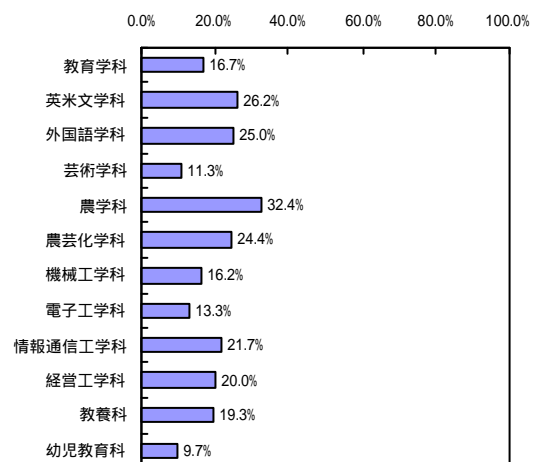
自然環境



学力

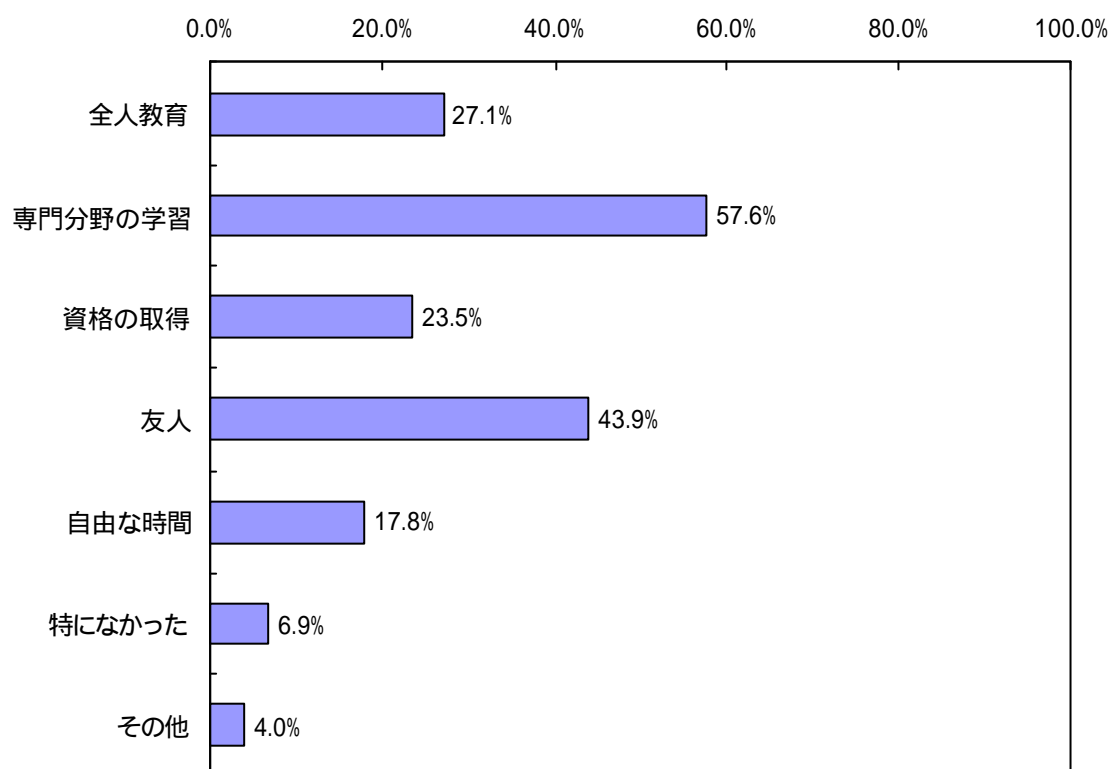


受験科目



問4 入学時に期待していたことはなんですか（複数可）

全人教育は専門分野の学習や友人関係の次に期待されている



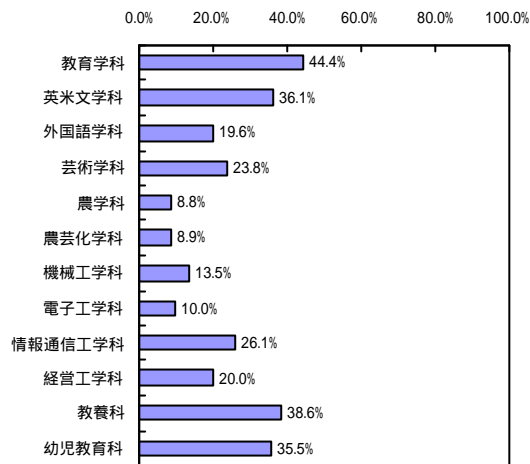
入学する時点で、大学生活に期待していたことを全般的に尋ねたところ、「専門分野の学習」が57.6%、「友人」が43.9%を占めていた。また、「全人教育」が27.1%、「資格の取得」が23.5%とそれぞれ続いている。

専門分野や友人を求めてというのは、大学生一般の意識で、特筆すべきことではないとすれば「専門分野の学習と友人関係」のほか「全人教育」が高かった、という表現ができるであろう。ただし、全人教育への期待は総じて理科系には低いようで、特に農学部で低いのが目立っている。

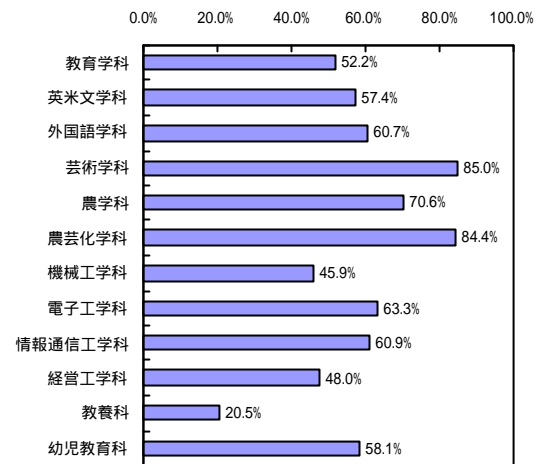
「資格の取得」の目標は教育学科と幼児教育科で明確に表れていて問3と同様である。芸術学科が26%もあるのは、何を意味しているのであろうか。この内容が、学芸員などとして示されているものであれば、もっと明確に売りだすべき特徴と言えるのかもしれない。

また、「自由な時間」を求めたり、「特になかった」という回答は工学部で高く、学習意欲の低い状況が読み取れる。

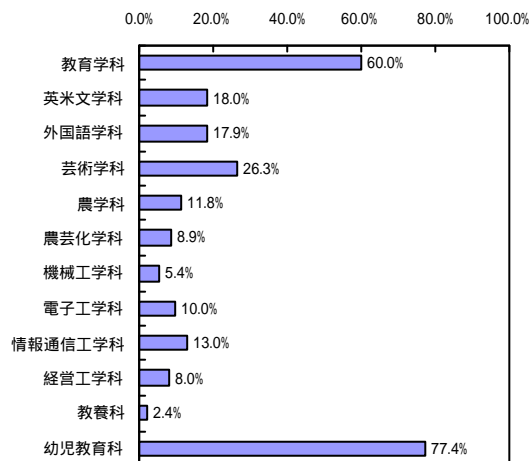
全人教育



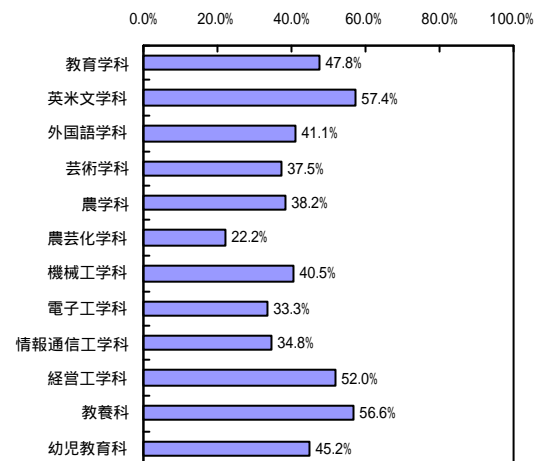
専門分野の学習



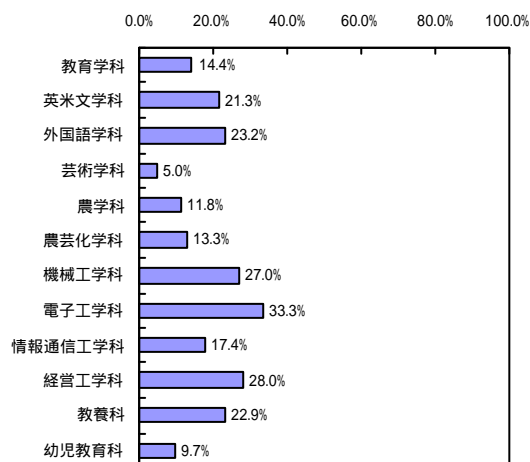
資格の取得



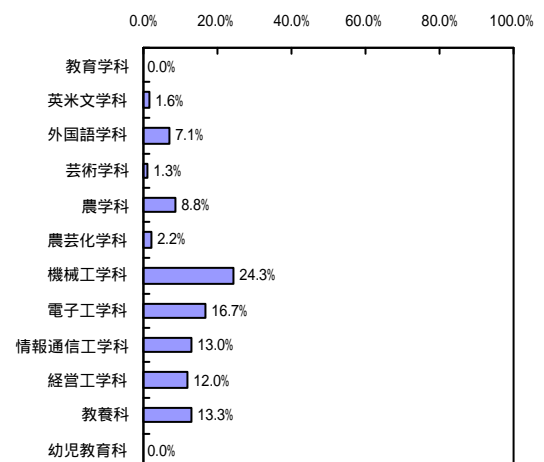
友人



自由な時間

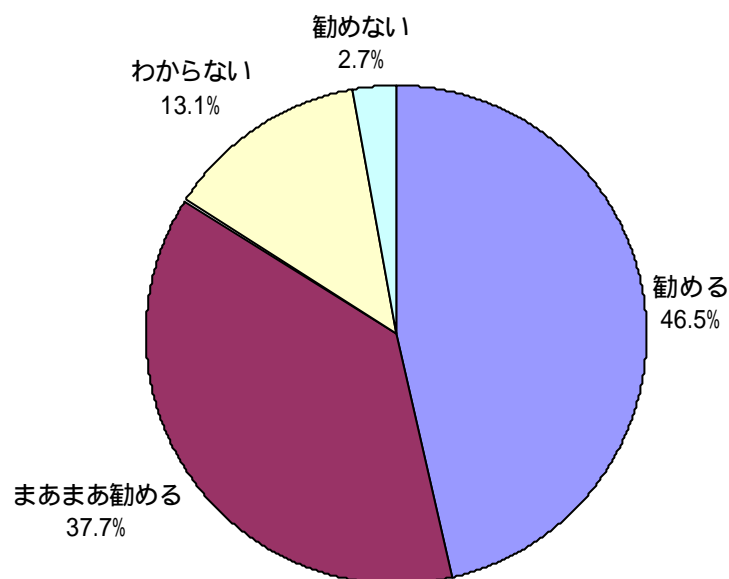


特になかった



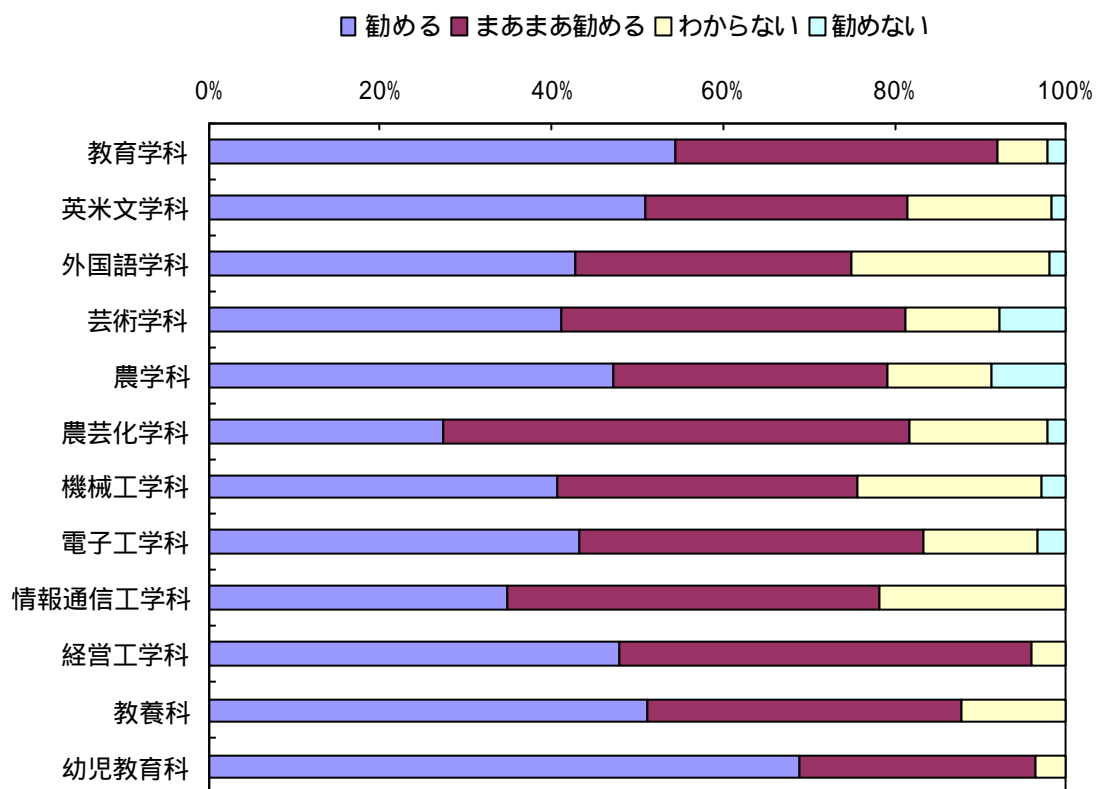
問 5 本学への進学相談を受けた場合あなたは本学を勧めますか

勧めるだろうと考えている人が 84.2%



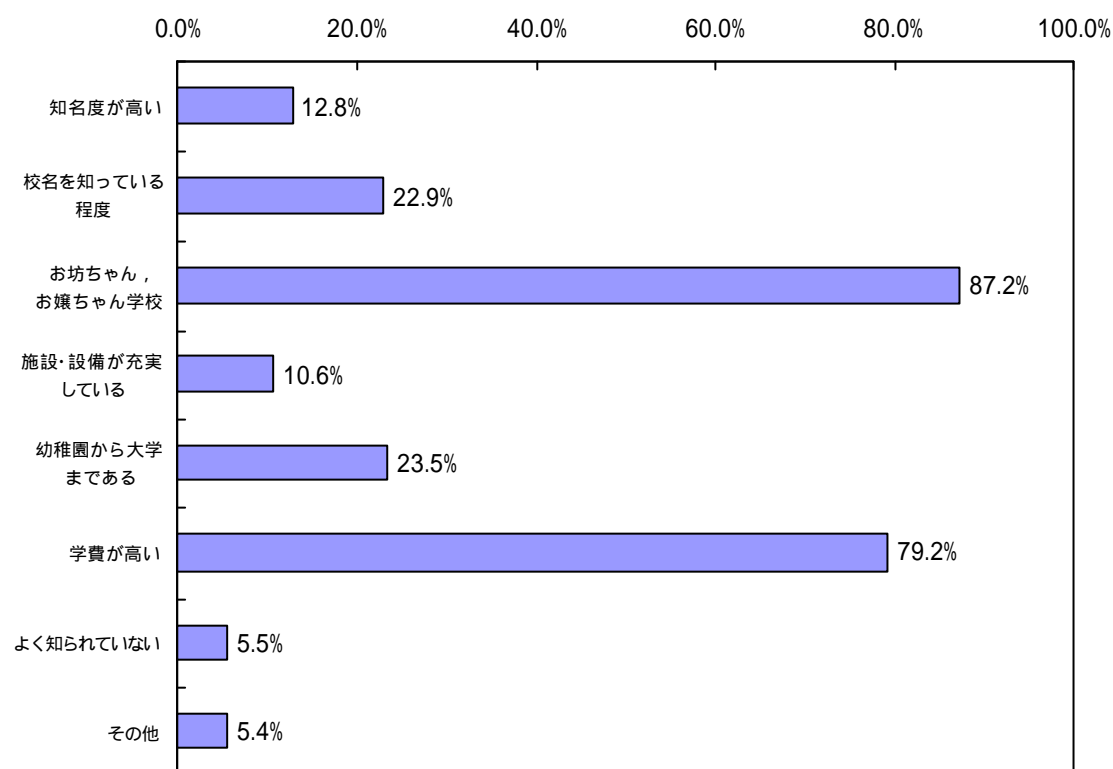
母校である本学への進学について相談を受けた場合について、本学を勧めるかどうかを尋ねてみた。「勧める」が 46.5% で「まあまあ勧める」と答えた人が 37.7%、両方合わせると約 8 割以上が『勧めてもよい』と考えていると言えるであろう。ただし、「勧める」と答えた人が農芸化学科、情報通信工学科に少なかったことが気になる。





問6 本学のイメージはあなたの周囲ではどのようなだと思いますか(複数可)

納付金が高額，高所得者層の学校としてイメージされる

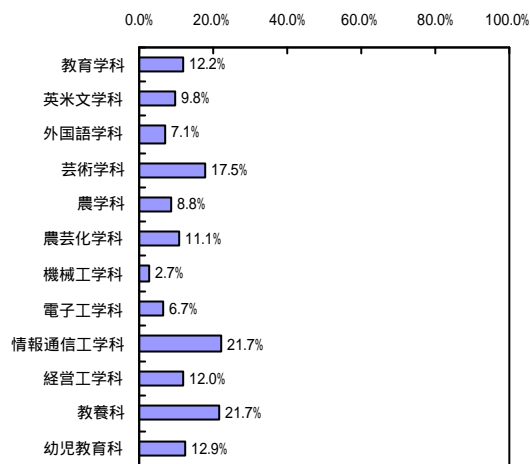


本学のイメージが卒業生の周囲ではどのように捉えられているかを尋ねてみた。「お坊ちゃん，お嬢ちゃん学校」が 87.2%，「学費が高い」が 79.2%と他を圧倒している。また，「知名度が高い」とした情報通信工学科が，「施設・設備の充実」を評価していないのは不思議な感じである。

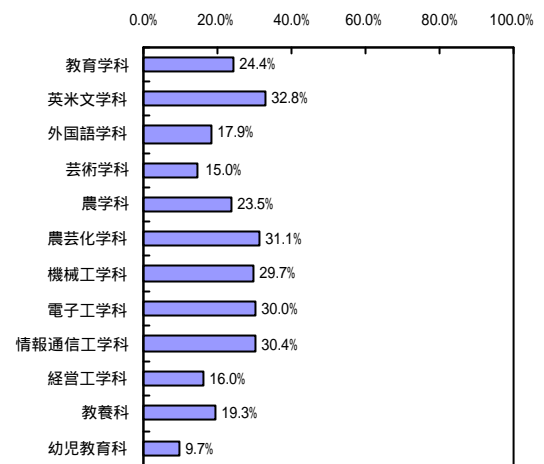
学費が高く，高所得者層の学校というイメージは強いものがあるようだ。自分の家庭が裕福だった層との相関を知りたい。一般に『自分の家庭は裕福でなかったが...』と留保がついているのではないか？次の問7 との関係も議論する上で重要なものであろう。

高所得者層の子供たちが来るというイメージをプラスと評価するべきかどうか？そのような一定の玉川ファン層を意識することも，方策であると思うが，一方で，奨学金などの利用により優秀なら安くもあがるということをアピールすることもまた，方策のひとつであろう。

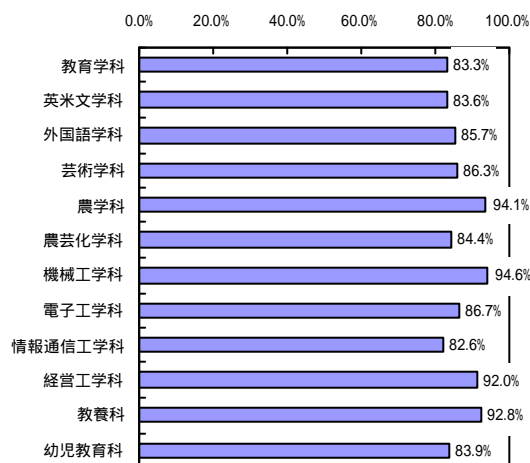
知名度が高い



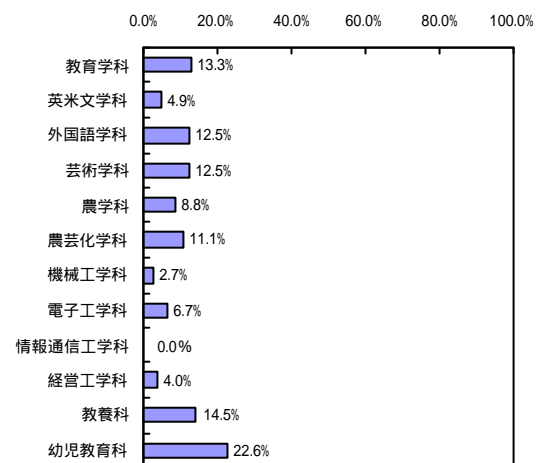
校名を知っている程度



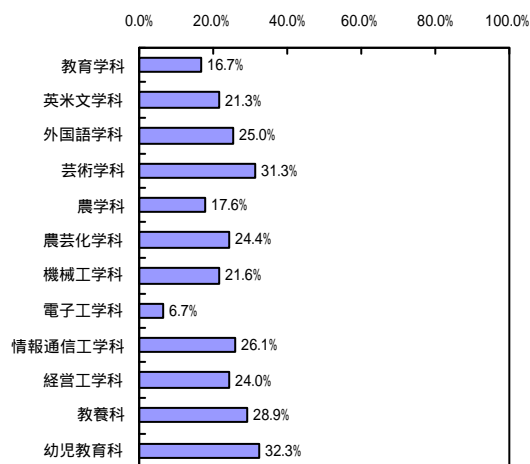
お坊ちゃん、お嬢ちゃん学校



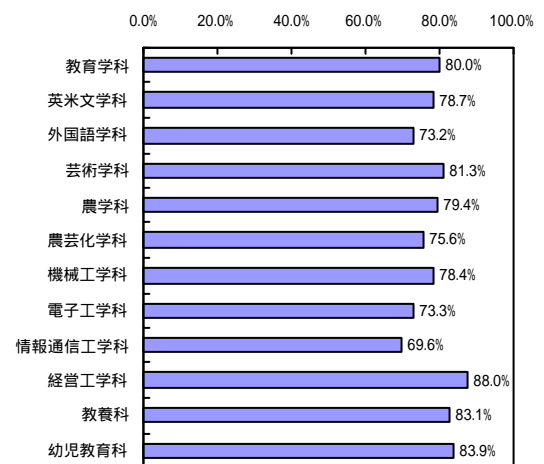
施設・設備が充実している



幼稚園から大学まである

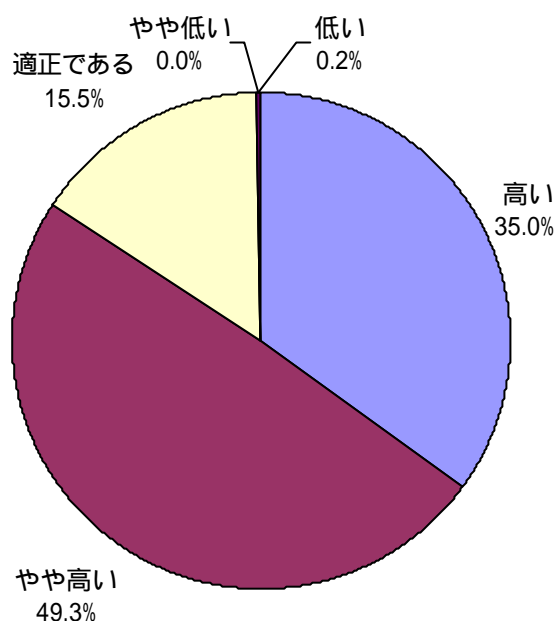


学費が高い



問7 本学の“学費”は教育内容や施設・設備と比べてどのように思いますか

学費に対する教育・教育環境への還元には不満感あり



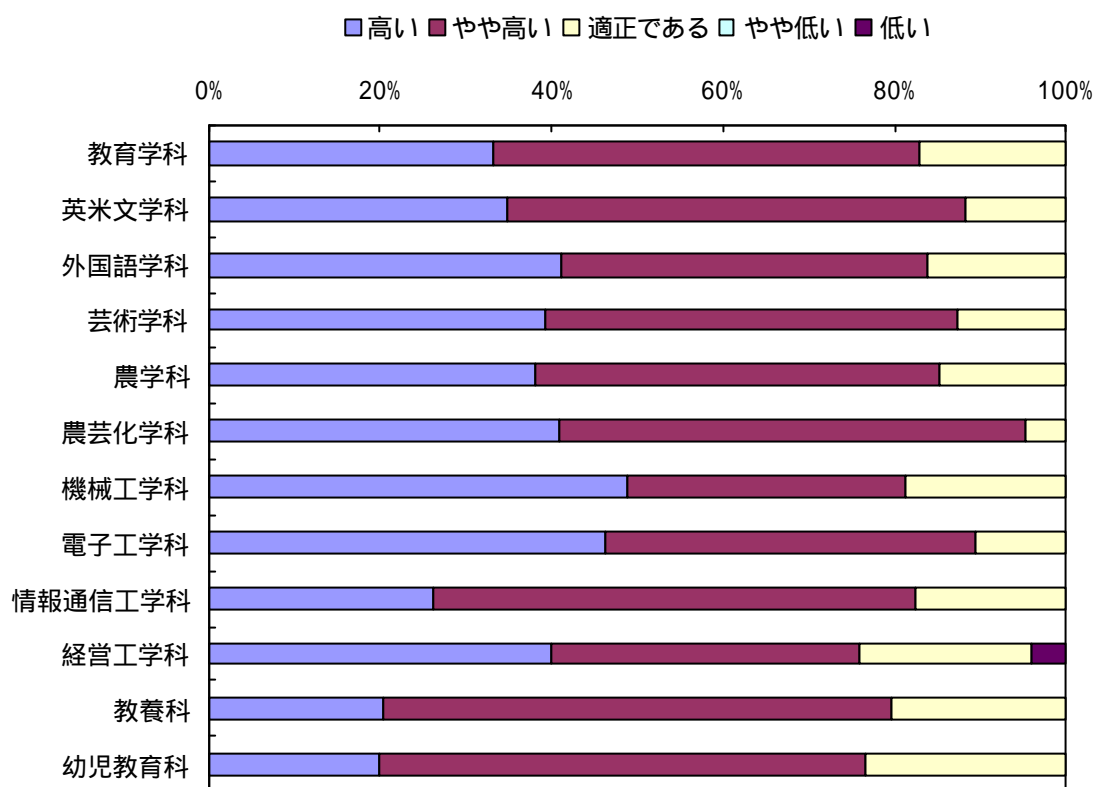
納付金額が学生の受ける教育内容や施設・設備に対比してどのように感じられているかを尋ねてみた。納付金の方が「やや高い」が49.3%で「高い」が35.0%であった。

一般的によいものを安く手に入れることが好まれるのは当然である。

しかし、質的に見合ったものであったかとなると話は違う。いかに満足感を与えるかが今後の検討すべきことであろう。

また、『高め感』を持つ人の中には、自分の家庭が一般的であり、無理して学費を捻出したというイメージを持っている人も多いのではないか。設備などの充実を常日頃からもう一歩、広報しておく必要がある。

設問の最後に総合的な満足度を直接尋ねているが、この結果も併せて見ると興味深いものがある。

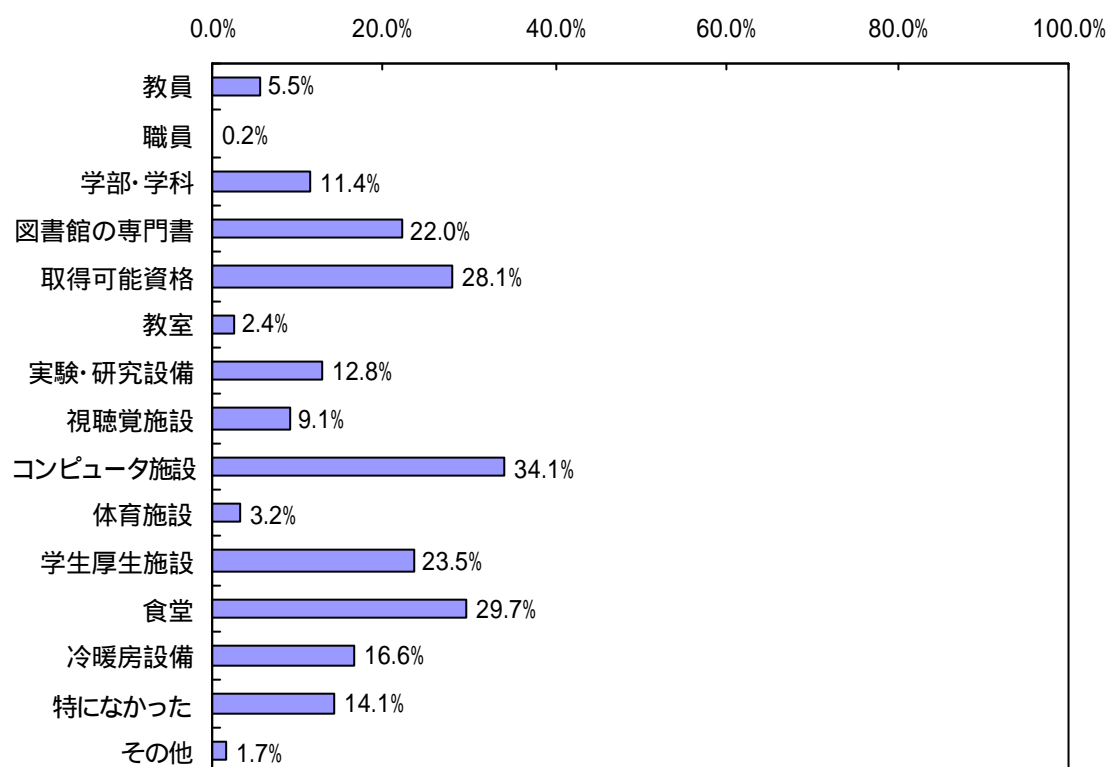




## 2 . 教 務

問 8 本学の教育において“ 数量的 ”に不足していたと感じたものはなんですか（複数可）

1 位情報処理施設，2 位食堂施設，3 位取得可能資格



教育上にて数量的に不足していたと感じたものは何かと尋ねてみた。「コンピュータ施設」が 34.1%と最も多く、「食堂」が 29.7%、「取得可能資格」が 28.1%と続いている。

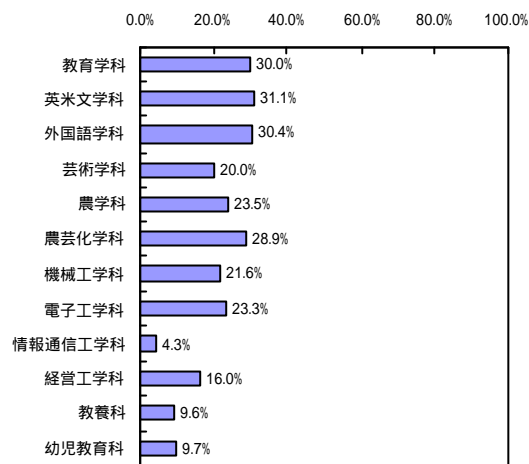
時代的な背景からアンケート対象者の在学中であった 1991 年以前は，コンピュータ関連施設は不備であったが，ここ数年急速に整備されてきている。現在は，全学的に LAN が設けられ，学生全員がメールアドレスを取得できる環境になっており，また各学部でも共用施設が使えるようになっている。

「食堂」については農学部の割合が高く，これは学部と食堂の位置関係に関係があるようだ。また，問 22，23 とも関連しているが，今後は学生のラウンジ的な使用目的を合わせた食堂の活用も必要である。

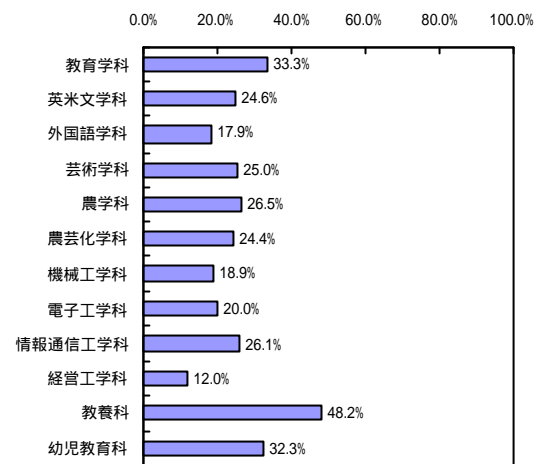
「取得可能資格」では，教養科で高いが，問 3 ではそれを求めていなかったのであるから，卒業後の感想といえよう。これをどのように受け止めるかは今後の問題となろう。続いて，「学生厚生施設」，「図書館の専門書」があげられる。このあたりの充実の必要性がうかがわれる。「冷暖房設備」の要望が意外に低いが，近年では整備されてきたことを付言しておきたい。



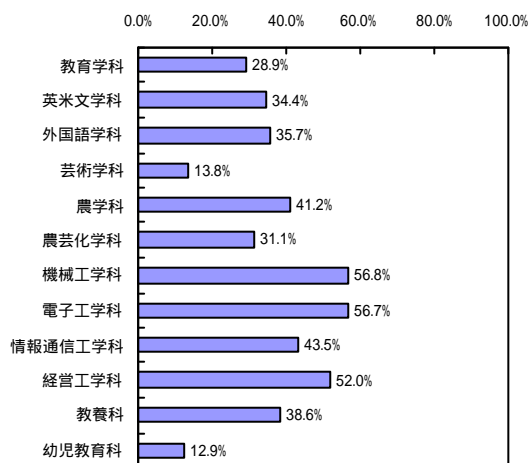
図書館の専門書



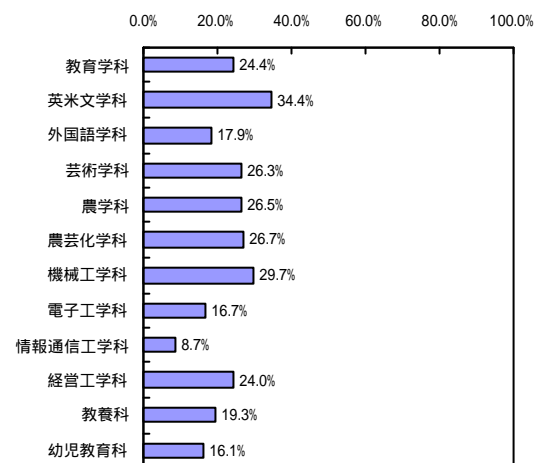
取得可能資格



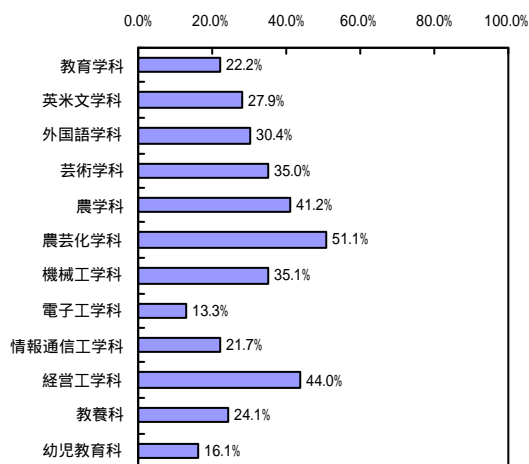
コンピュータ施設



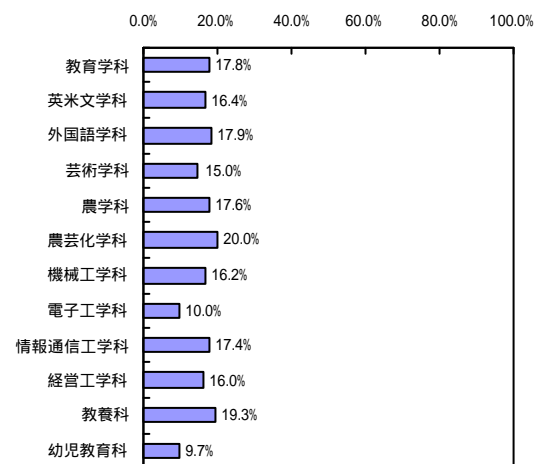
学生厚生施設



食堂

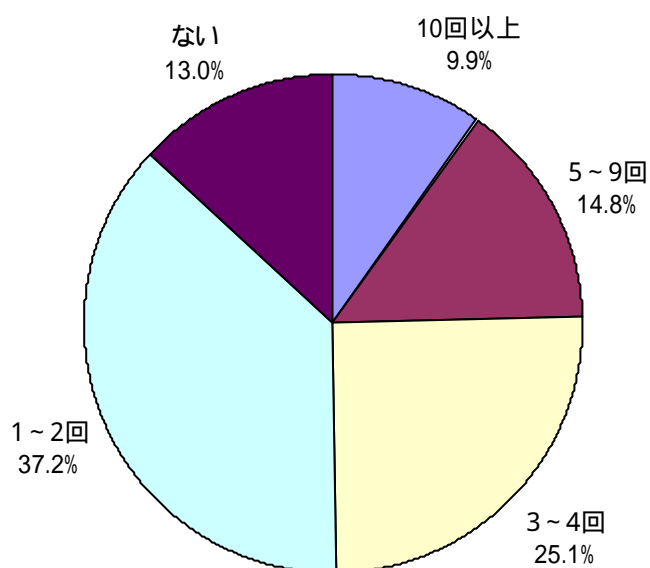


冷暖房施設



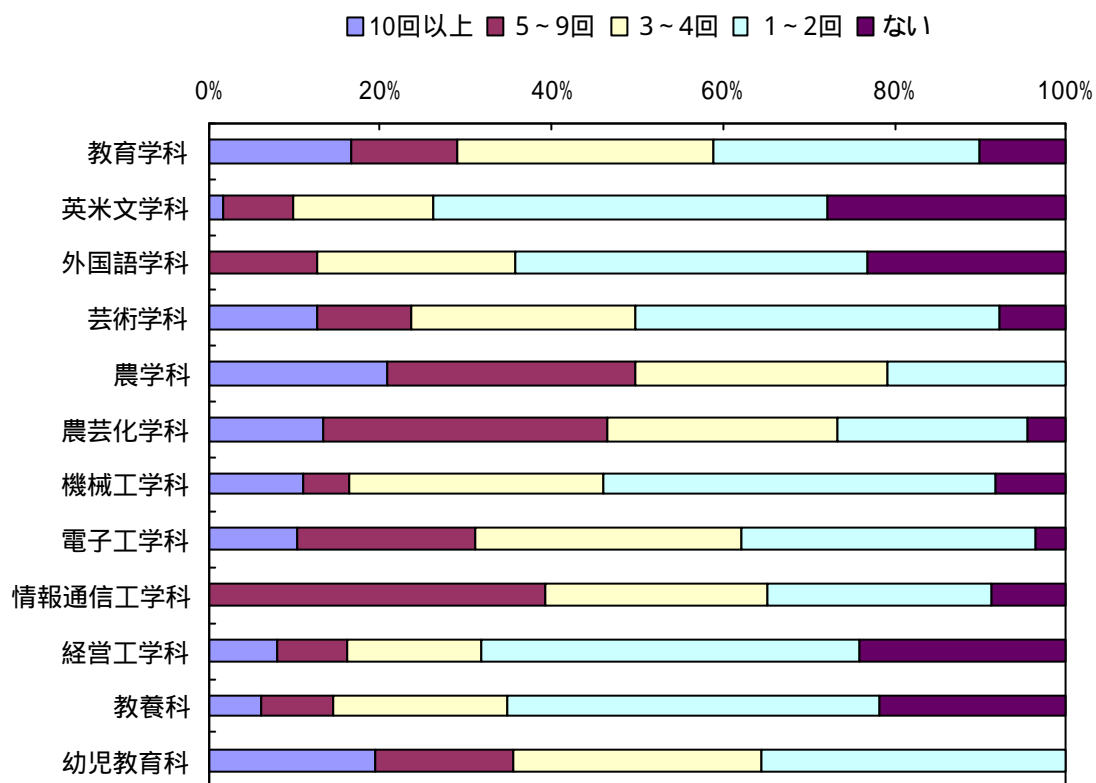
問 9 卒業後本学を訪ねたことがありますか

3 回以上訪ねたことがある人約 5 割



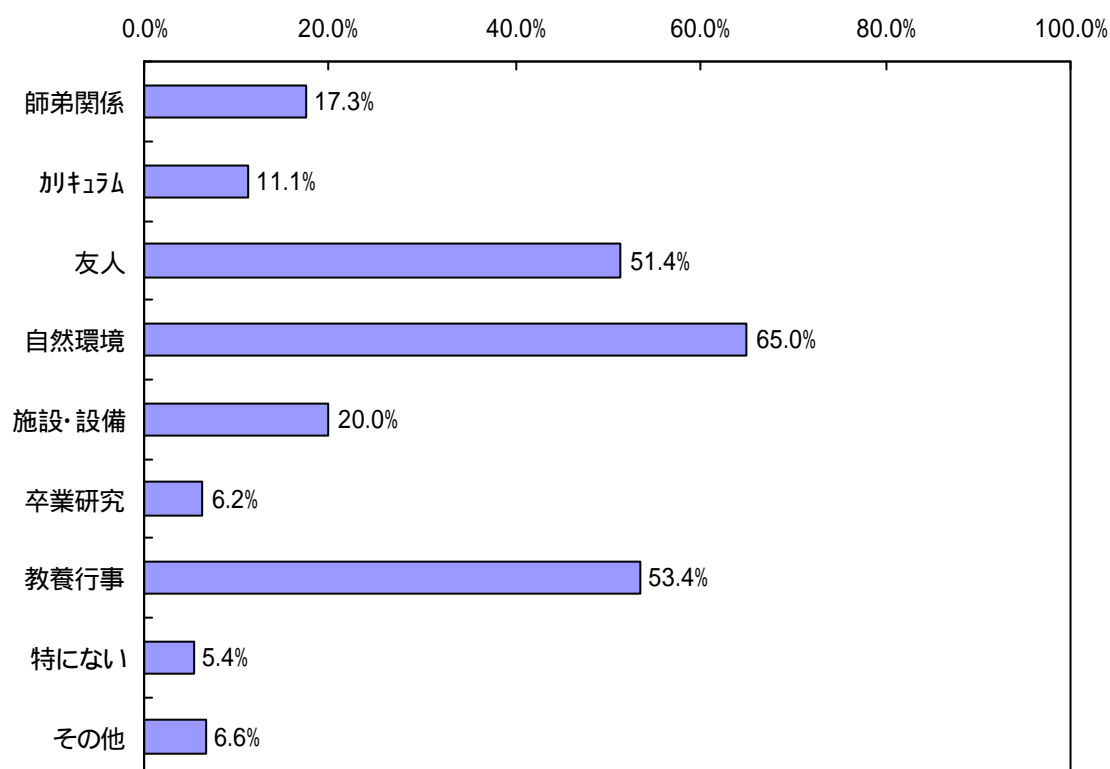
卒業してから現在に至るまで、本学を訪ねてきたことがあったかを回数で訪ねてみた。「1 ~ 2回」が最も多くて 37.2%、次いで「3 ~ 4回」が 25.1%、「5 ~ 9回」が 14.8%、「10回以上」が 9.9%という結果になった。

卒業生が母校（研究室）に顔を出すこと（回帰率）は、大学にとっても重要なことである。「5 ~ 9回」がアンケート対象者としては年に一度訪ねる、「3 ~ 4回」は2年に一度とみなすことができる。そうすると、2年に一度（「3 ~ 4回」）以上がほぼ 5 割、「1 ~ 2回」を含めると 9 割近くが母校を訪ねている結果であった。この傾向は本学として大切にしたいところである。



問 10 本学の卒業生として誇れることはなんですか（複数可）

校地の自然環境，教養(研修)行事，友人



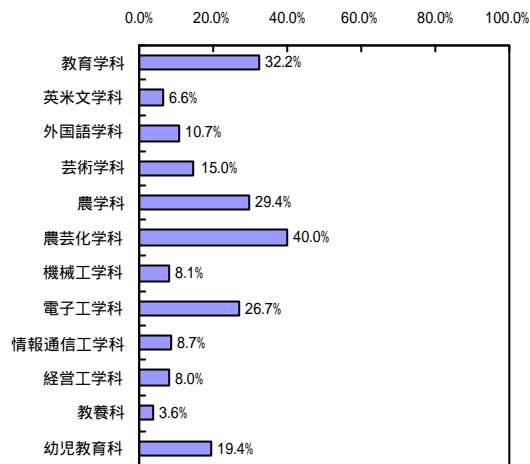
本学の卒業生として誇れることは何かを尋ねたところ，「自然環境」が 65.0%，「教養行事」が 53.4%，「友人」が 51.4% となり，続いて「施設・設備」の 20.0%，「師弟関係」の 17.3%，「カリキュラム」の 11.1% という結果になった。

「自然環境」，「教養行事」，「友人」が飛び抜けている。この傾向は続くだろう。問 24 とも関連するが，2,000 人の『歓喜の歌』（大学音楽祭），体育祭，コスモス祭，収穫祭（現玉川の秋）も，これから本学の目玉として世間にアピールしていくべきである。在学中の学生は何となく参加しているが，卒業後の印象度は高いと思われる。師弟関係は農学部で強い傾向があり，前問の回帰率の高さとも一致する。これは少人数，研究室での卒業研究指導など教員と学生の距離間が近い印象があるようだ。ただし，「施設・設備」に対する評価は農学部が低いのは気になるところである。

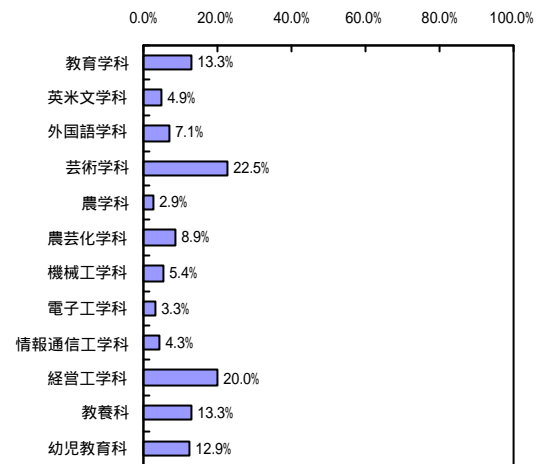
< 「その他」の意見 >

全人教育，第九音楽祭，クラブ活動，校風がよいこと，教育方針，建学の精神など

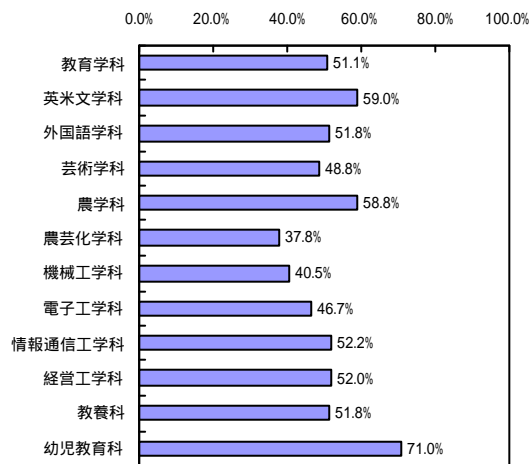
師弟関係



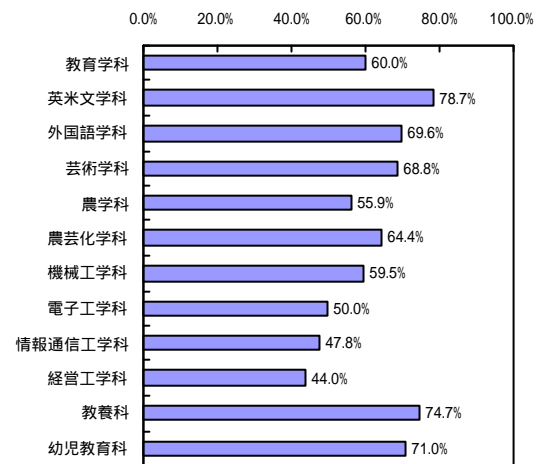
カリキュラム



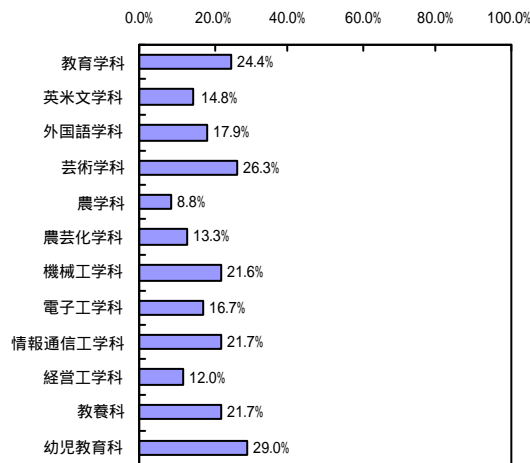
友人



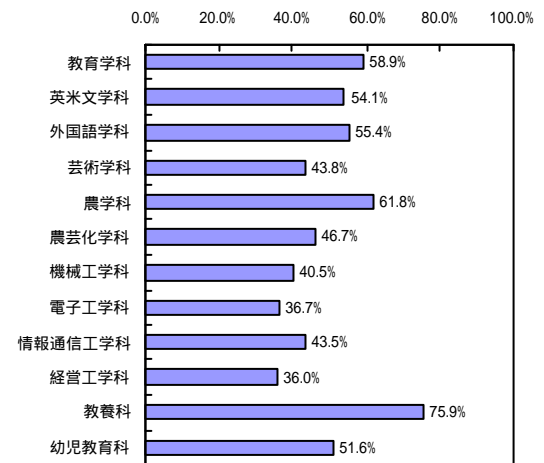
自然環境



施設・設備

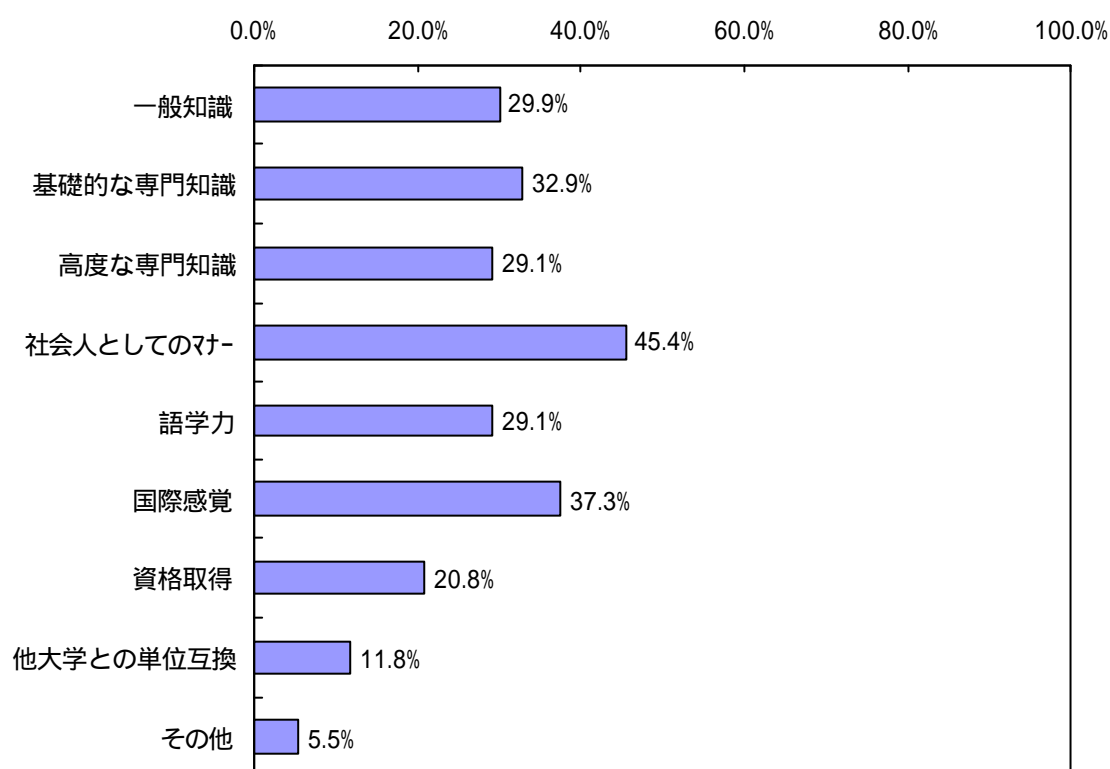


教養行事



問 11 卒業生の立場から本学の教育に期待することはなんですか（複数可）

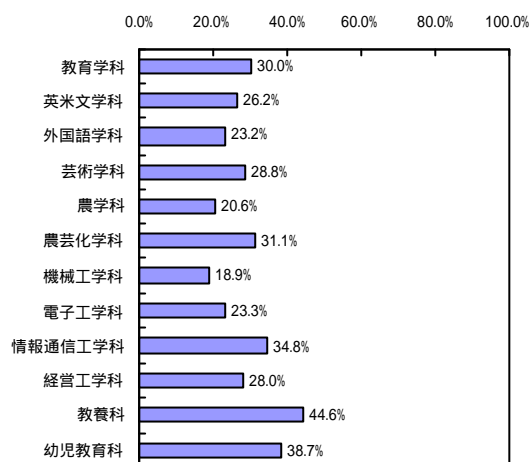
### 社会人としてのマナー



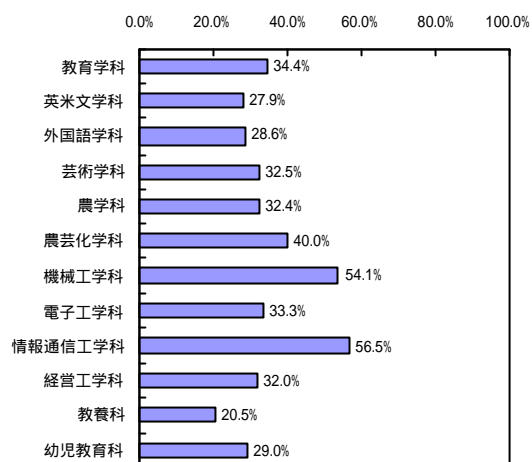
卒業生の立場から本学の教育に期待することについて尋ねてみた。「社会人としてのマナー」が45.4%と最も多く、次いで「国際感覚」が37.3%、「基礎的な専門知識」が32.9%、「一般知識」が29.9%、「高度な専門知識」と「語学力」が29.1%、「資格取得」が20.8%、最後に「他大学との単位互換」11.8%という結果になった。学科別に見ると「基礎的な専門知識」が機械工学科と情報通信工学科では約55%と高く、「高度な専門知識」が芸術学科、農芸化学科、電子工学科で40%、「語学力」が英米文学科、外国語学科、機械工学科で45%を超えている。したがって、学科によって期待するものが違うことから、期待に応える教育内容の検討が望まれていることがうかがえる。

大学教育の質の確保、学生の質の保証が、社会から厳しく求められている現在「社会人としてのマナー」ということが卒業生から本学の教育に期待されている。これは、学生としてのマナーに相い通じるもので、最近、学生の学内での行動（マナー）を見てみると大変乱れている。このあたりのしっかりした指導が社会に出てからも人間的に評価されるであろう。

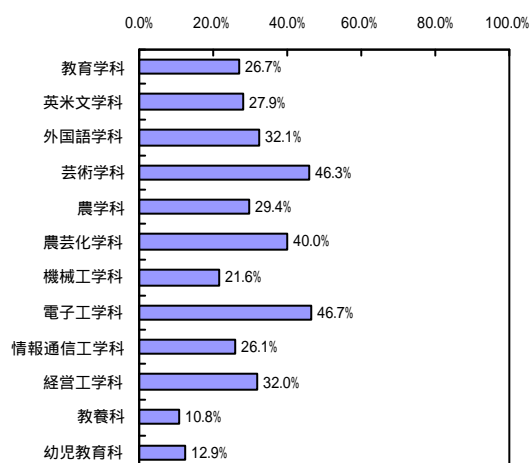
一般知識



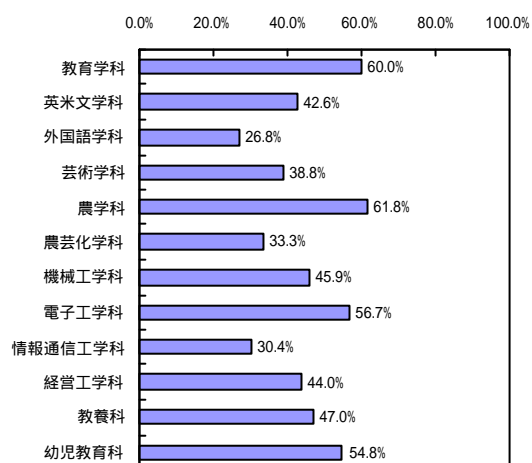
基礎的な専門知識



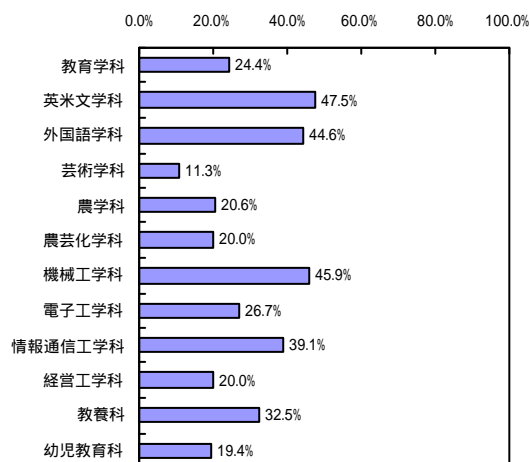
高度な専門知識



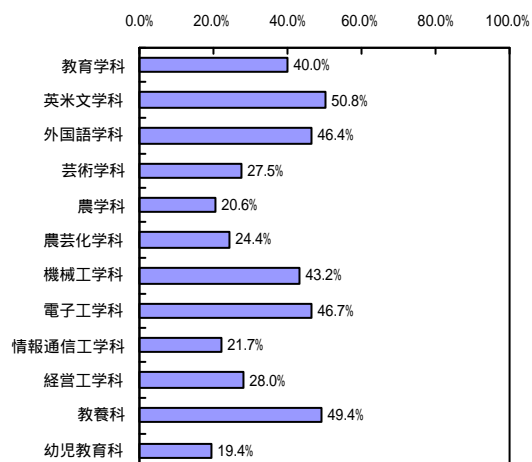
社会人としてのマナー



語学力

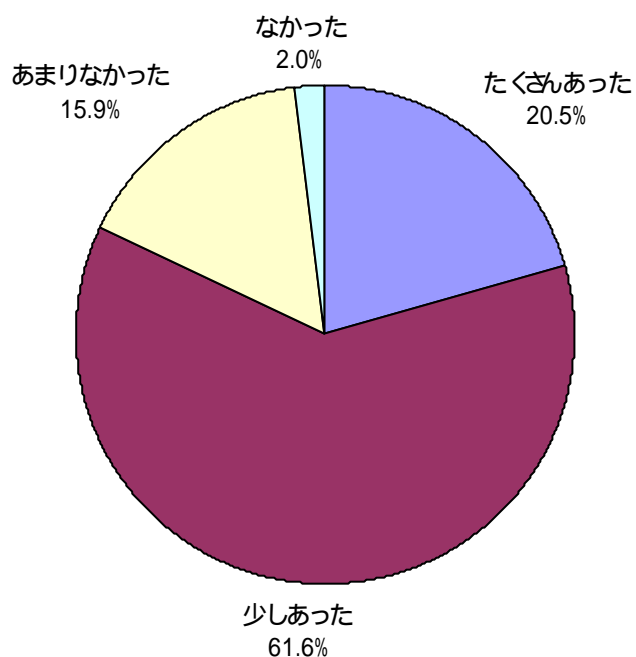


国際感覚



問 12 授業において自分が打ち込める科目はありましたか

少し以上あったと感じた人 82.1%

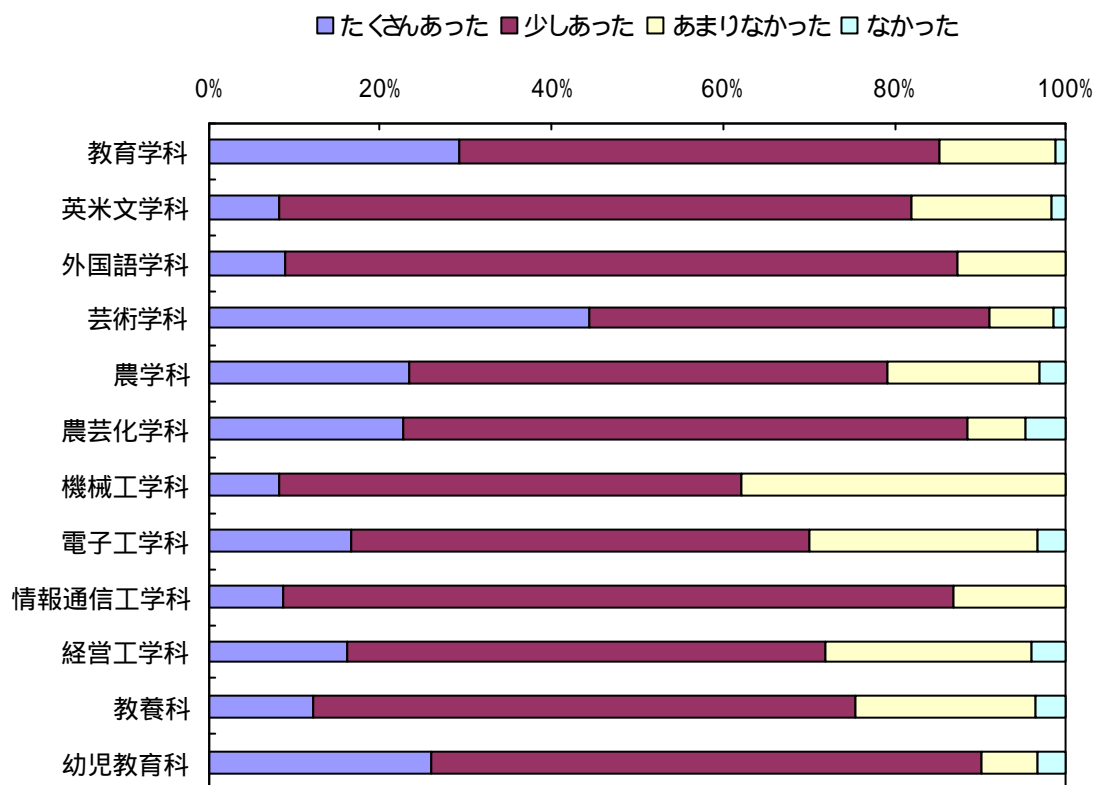


授業において自分が打ち込んで受けられる科目があったかについて尋ねてみたところ、「たくさんあった」が 20.5%、「少しあった」が 61.6%、「あまりなかった」が 15.9%、「なかった」が 2.0%という結果になった。

自分自身が求めている学部・学科に入り、それなりに興味をもって授業に取り組んでいたとみる。一方、「たくさんあった」が 2 割、という数字を意識する必要がある。言い換えれば、何となく授業に出ていたという割合が高いともとれる。

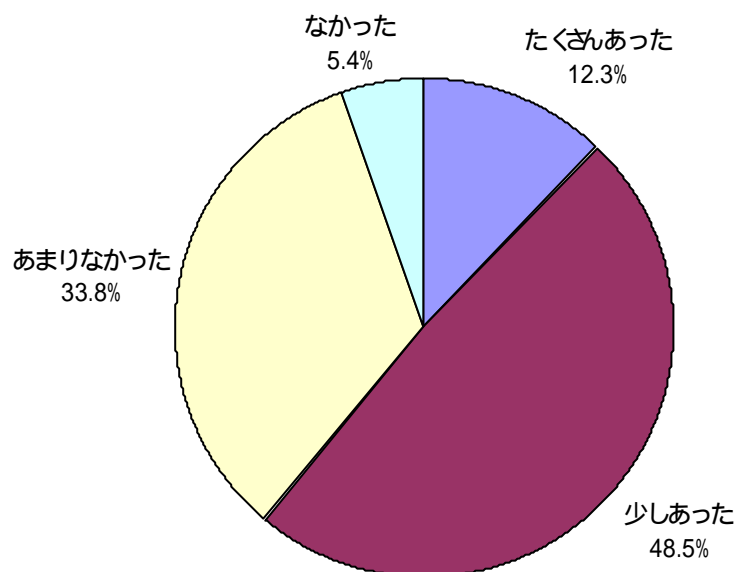
今後の問題として、授業時間中の教育だけではなく、予習・復習の強化を考えていかねばならない。また、専門教育に興味を抱いて入学してくる学生を対象に、1，2 年次生から専門科目を開設するなどの方法もある。





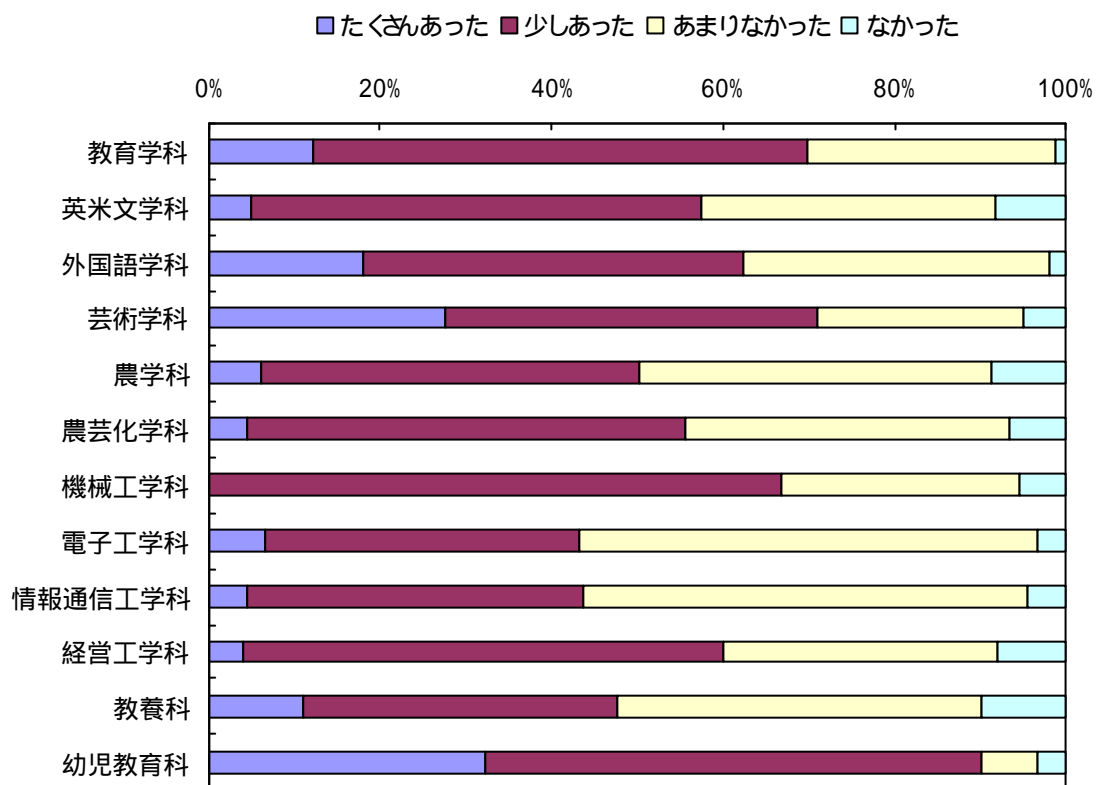
問 13 意見や考えを求められる授業はありましたか

少し以上あったと感じた人 60.8%



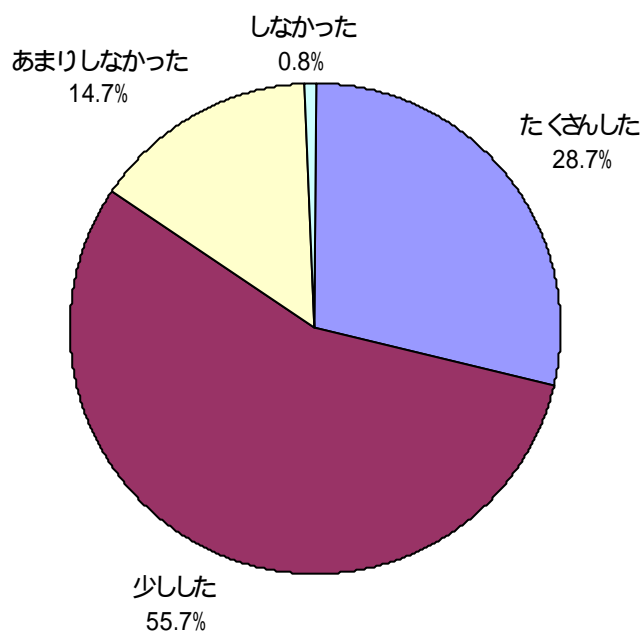
意見や考えを求められる授業，いわゆる対話型の授業があったかについて尋ねてみた。「たくさんあった」が 12.3%，「少しあった」が 48.5%，「あまりなかった」が 33.8%，「なかった」が 5.4% という結果になった。

一般の授業では受講者数によって，かなりその進め方が異なる。少人数科目，研究室ゼミ等の科目では，教員と学生間で活発なキャッチボールがおこなわれていると思われる。全体をみると「少しあった」以上と感じた人が 60.8% あったことは普通（可もなく不可もなく）の結果とみる。



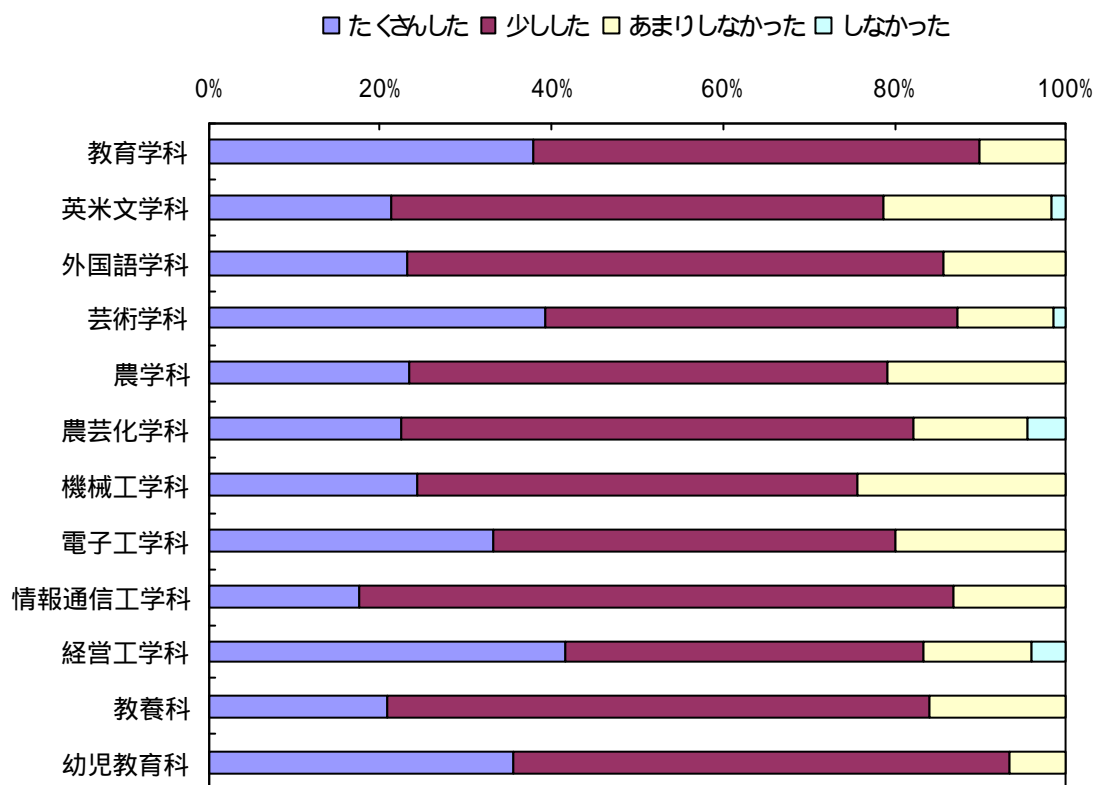
問 14 授業内容の理解に努力しましたか

努力した人 84.4%



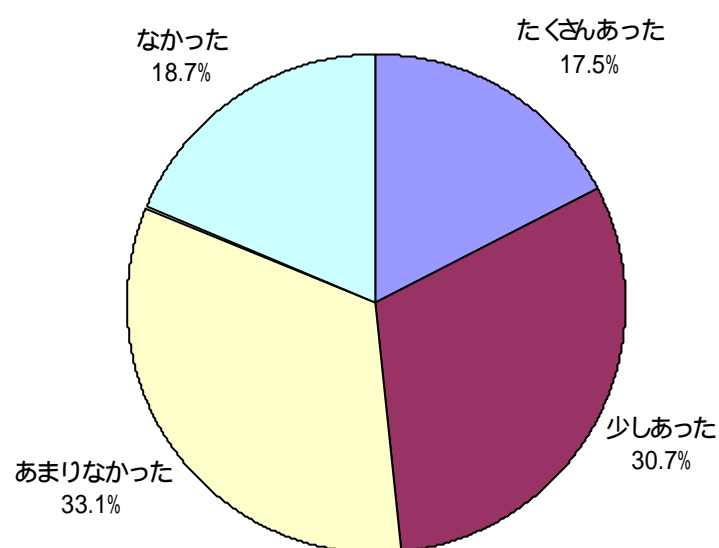
受ける授業内容の理解に努力したかについて尋ねた。「たくさんした」が28.7%、「少しした」が55.7%、「あまりしなかった」が14.7%、「しなかった」が0.8%という結果になった。

『努力した人 84.4%』と出ているが「たくさんした」人は28.7%であった。この割合を実態の数字として見れば、積極的に授業に取り組んでいた人が3分の1ということである。このアンケートの対象者は、現カリキュラム履修者ではなく、1年間4単位と授業内容が広範であったことも、その理由と考えられる。少人数・双方向の教育、フィールドワーク、ディベートなど教育方法の変革も必要ではないか。



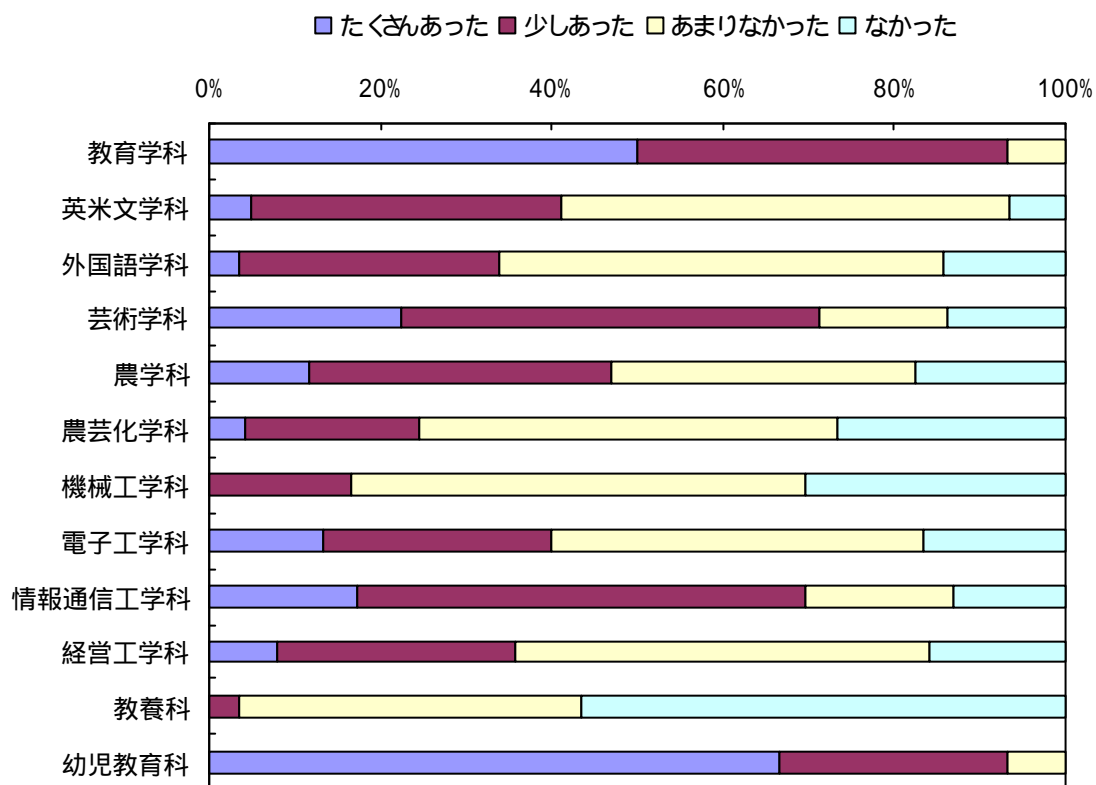
問 15 資格取得につながる科目はありましたか

取得可能な資格数には若干の不満あり



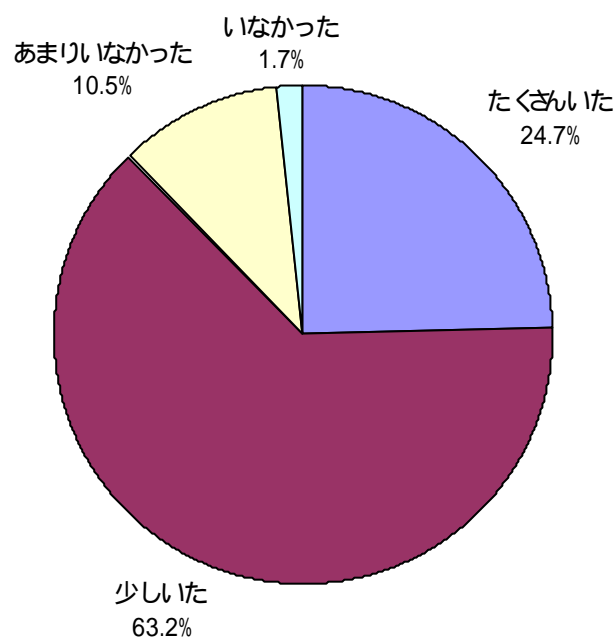
資格の取得につながる科目があったかについて尋ねたところ、「たくさんあった」が17.5%、「少しあった」が30.7%、「あまりなかった」が33.1%、「なかった」が18.7%で、「あまりなかった」と「なかった」を合わせると51.8%という結果になった。

教育学科と幼児教育科に関しては、目的とするところが教員ということから、他学科に比べて非常に高い割合になっている。大学全体としては教員免許が主であり、今後益々資格取得指向が強まると思われるので、本学としては検討しなければならない課題である。



問 16 授業等において熱意を感じる先生はいましたか

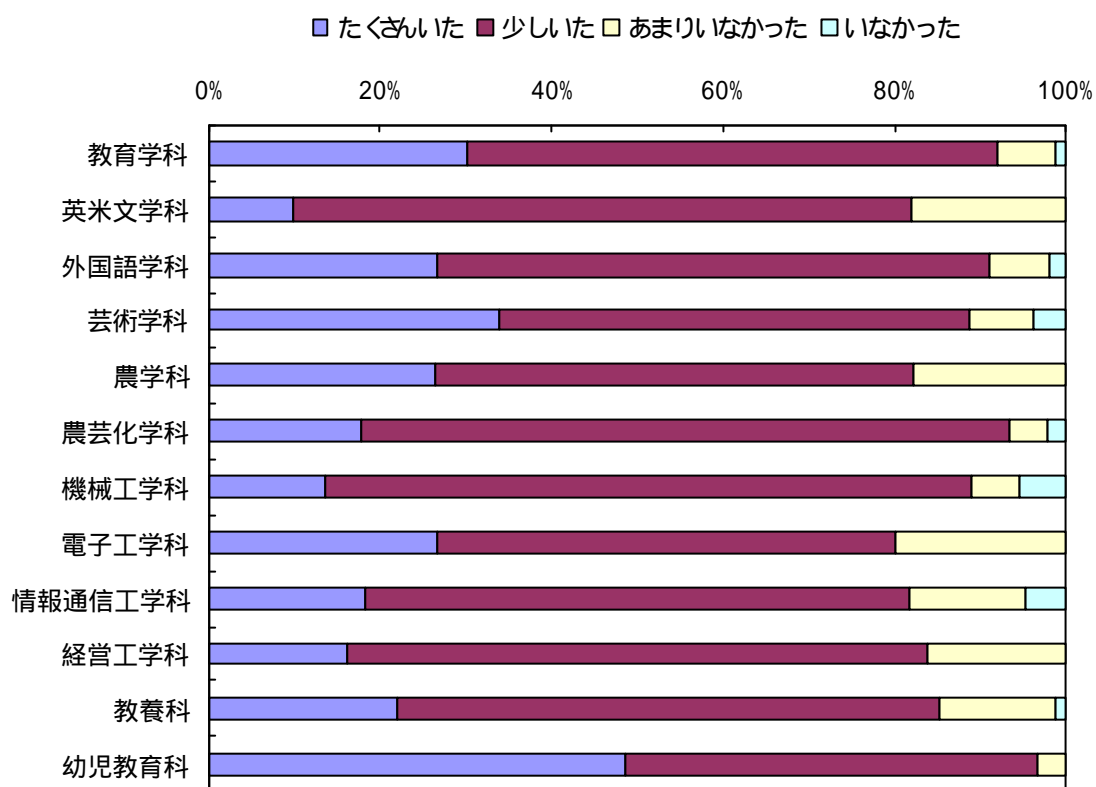
熱意のある先生がいたと感じられた人 87.9%



授業等において熱意のある先生がいたかについて尋ねてみた。「たくさんいた」が 24.7%、「少しいた」が 63.2%、「あまりいなかった」が 10.5%、「いなかった」が 1.7% という結果になった。

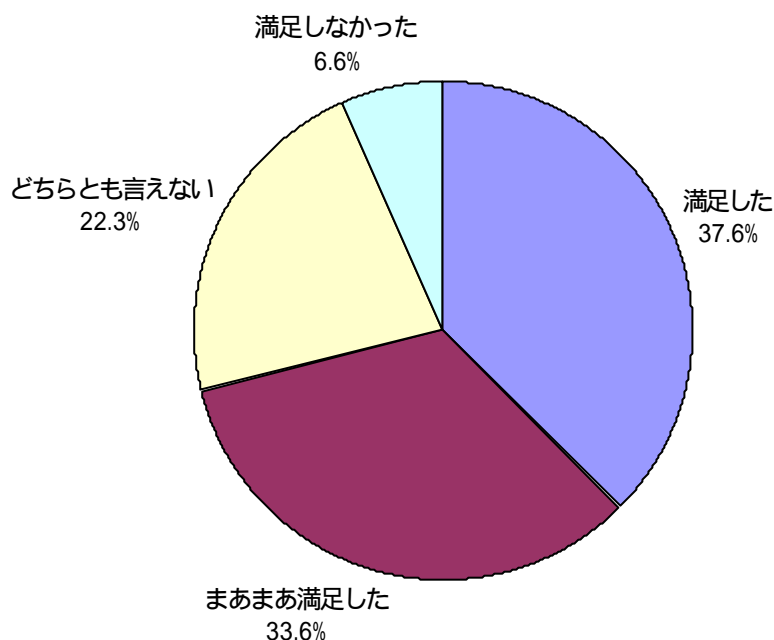
「たくさんいた」が 4 分の 1 であるが、学生の教育を充実する上では当然教員側の熱意というものが伝わらなければならない。改善方法の一つにシラバスの作成とその内容の充実があげられる。教員個人個人が担当科目について、履修する学生に詳細な授業計画を示し、準備学習についての指示を与えるなど、目的に応じて適切なシラバスを作成して取り組むことである（キメ細かな授業の展開）。





問 17 卒業研究担当教員(短大は担任)の指導に満足しましたか

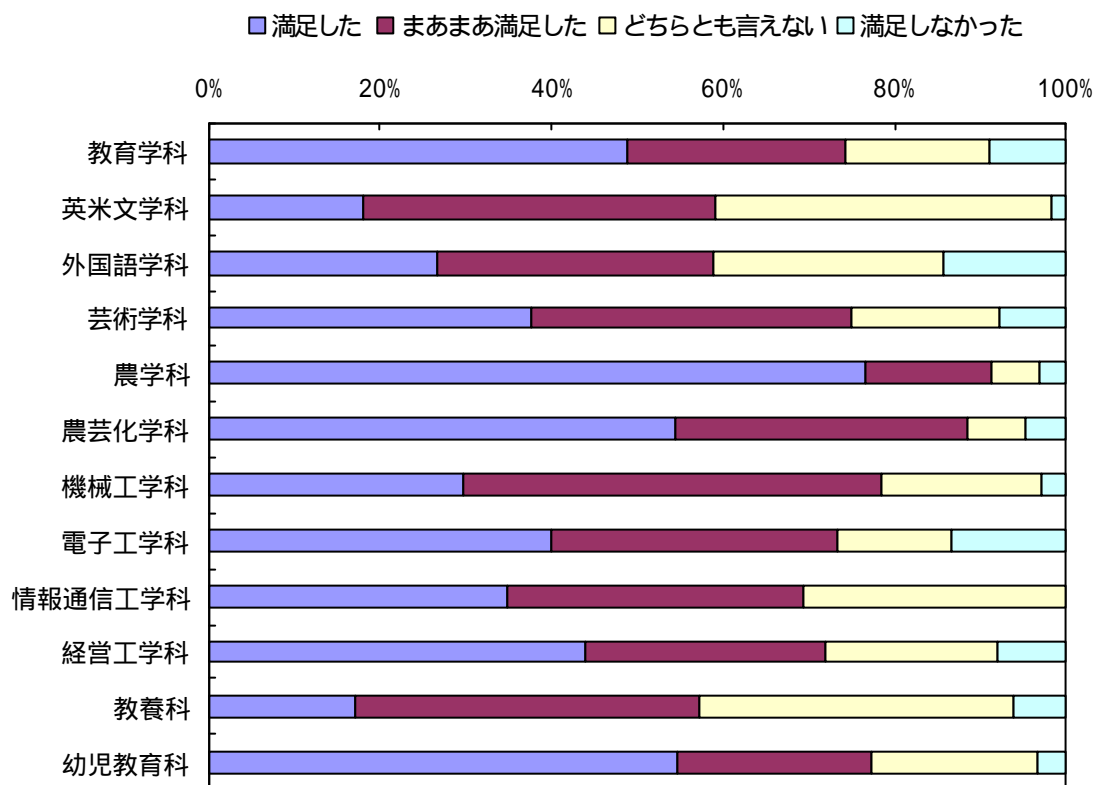
満足感を得られた人 71.2%



卒業研究担当教員(短大は担任)の指導に満足を得られたかについて尋ねてみた。「満足した」が 37.6%、「まあまあ満足した」が 33.6%、「どちらとも言えない」が 22.3%、「満足しなかった」が 6.6%という結果となった。

満足感を得られた人が 71.2%という数字は、最終学年での卒業研究の位置づけが学生にとって高いものであることを意味するだろう。この結果から、本学では何らかの形で卒業研究は続けるべきだ考える。また全学の中でも農学部に、満足感を得られた人が 90%近くいたということは注目すべきところである。

前問の「熱意のある先生がいた」が 87.9%に対し、この設問の割合が下がっているのは、自分の目指した研究室あるいはゼミに入れなかったことが関係しているとも考えられる。

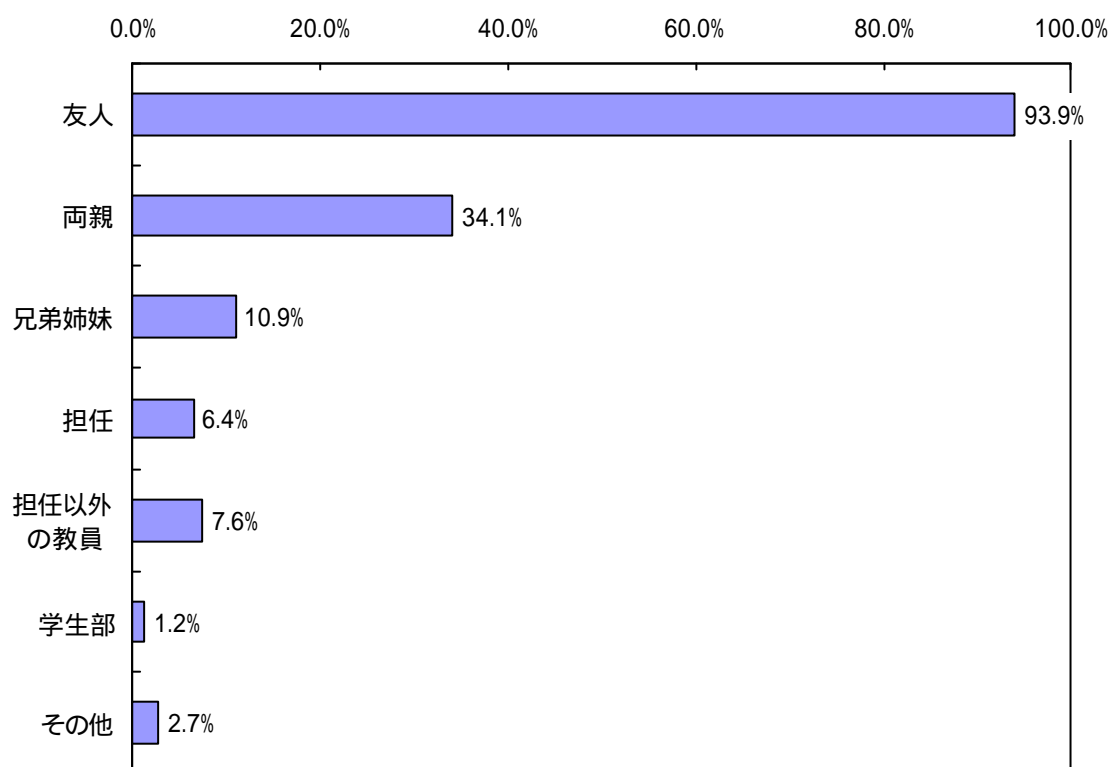




### 3 . 学 生 生 活

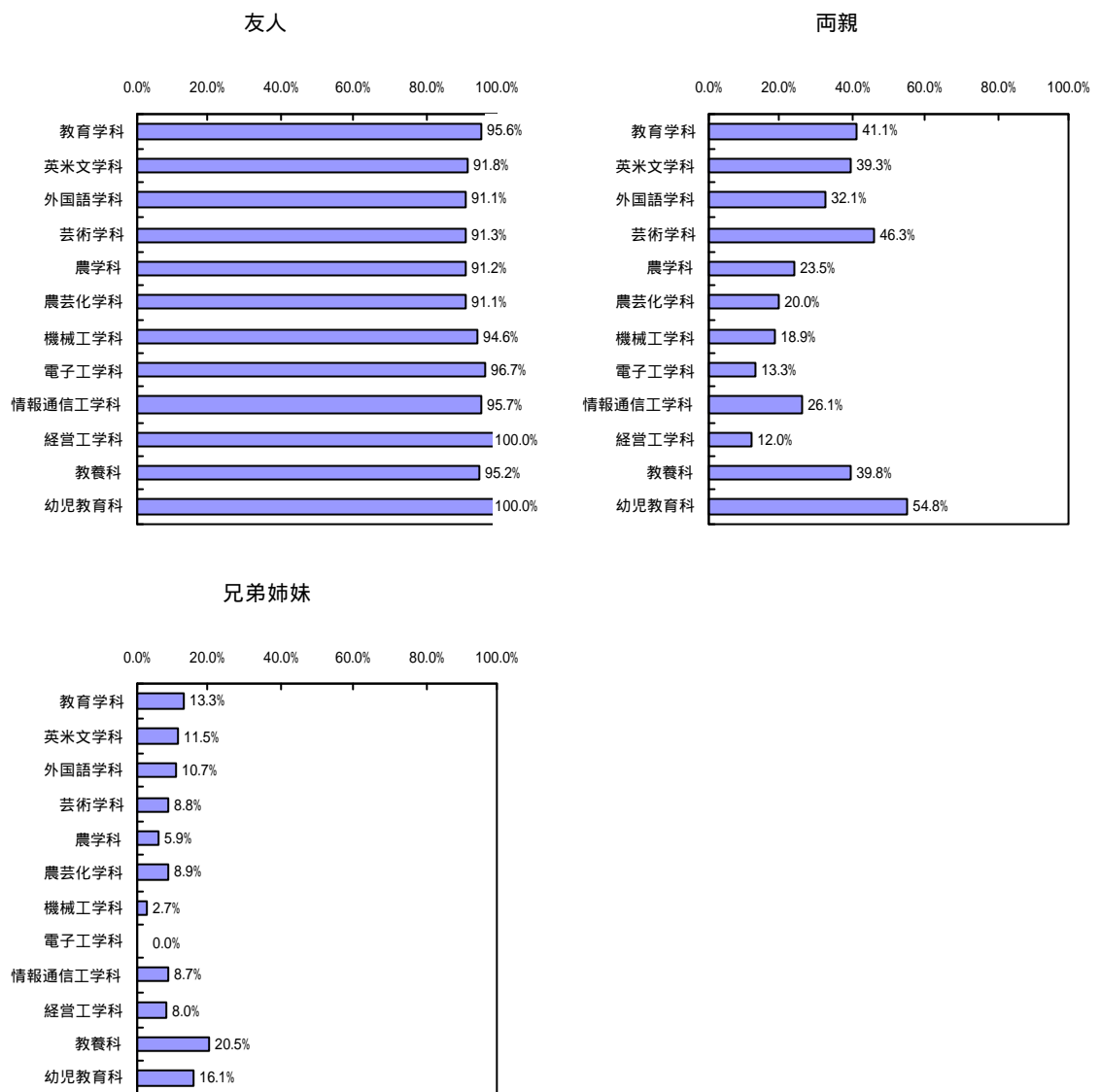
問 18 不安や悩みを相談した相手は誰ですか（複数可）

## 友人



不安や悩みを相談した相手について尋ねたところ、約9割が「友人」と答えている。次いで、「両親」、「兄弟姉妹」となっている。まず、在学中の4年間（2年間）に悩み事を相談できる友達ができたことが考えられ、これは喜ばしいことである。問10で「本学の卒業生として誇れるもの」として、51.4%が「友人」をあげていることから、多くの学生が大学（短大）に入学してからこのような友人に出会ったと考えられる。

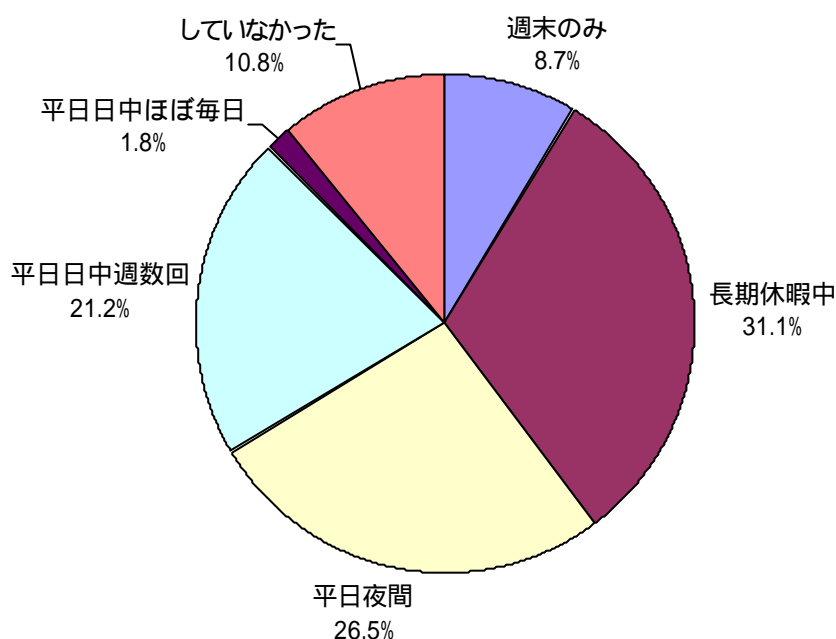
しかし、玉川の特徴であるはずの『師弟同行』ということから考えると、「担任」、「担任以外の教員」を含め教員に相談を持ちかけていたケースが少なかったこともうかがえる。教員が学生の私生活に立ち入ることをすすめるわけではないが、少なくとも授業や進路上の悩みなどについては、相談を持ちかけやすい環境を作ることが今後の課題であろう。なお、調査対象者が卒業した後の平成4年度に学生センターにS A S（Student Advisory Service）が発足した。ここでは、各学部から選ばれた担当教員が様々な相談を受けて学生の援助を行なっているが、その利用者も年々増えてきてい



る。悩みが多くなることは決して喜ばしいことではないが、学生へのサービスが受け入れられていることは評価できる。しかし、理想としては担任とのコミュニケーションがもう少しとれるとよいのではないだろうか。

問 19 アルバイトはしていましたか

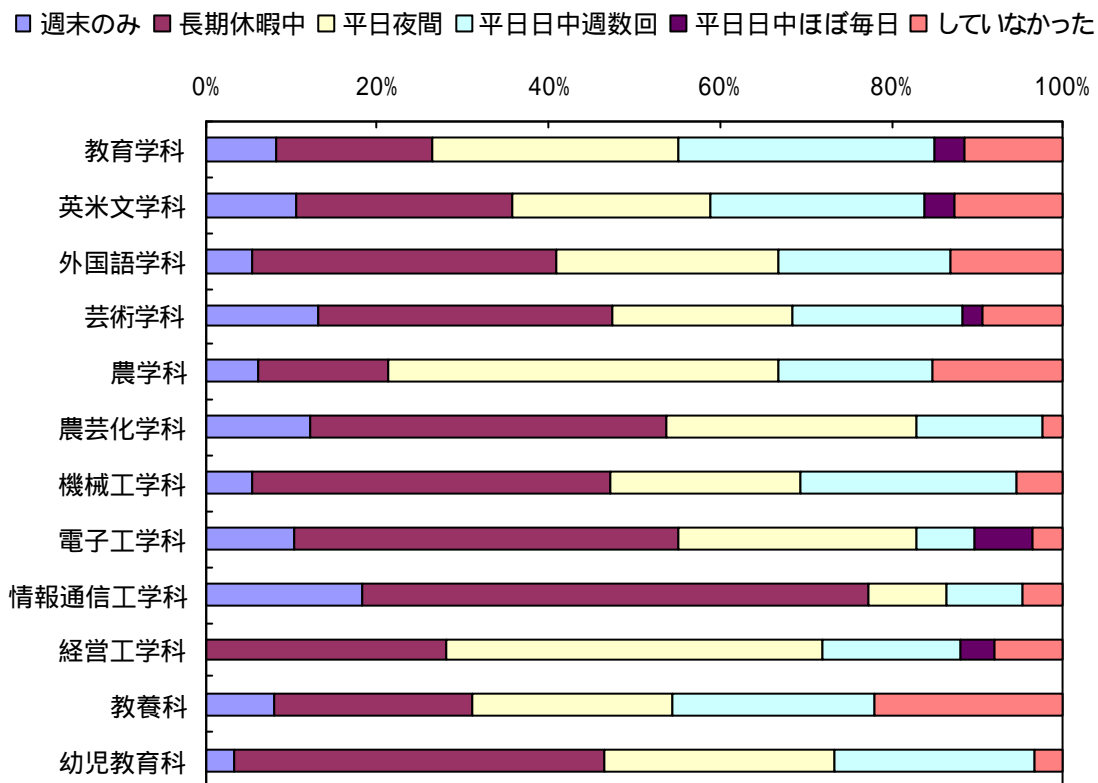
長期休暇と平日夜間が多い



アルバイトの実態を尋ねてみたところ、「していないかった」と答えた人が約 1 割で、残りの約 9 割の人が平日・休暇中を問わずアルバイトをしていたことになる。その内容は「長期休暇中」が 31.1%、「平日夜間」が 26.5%、「平日日中週数回」が 21.2%となっている。

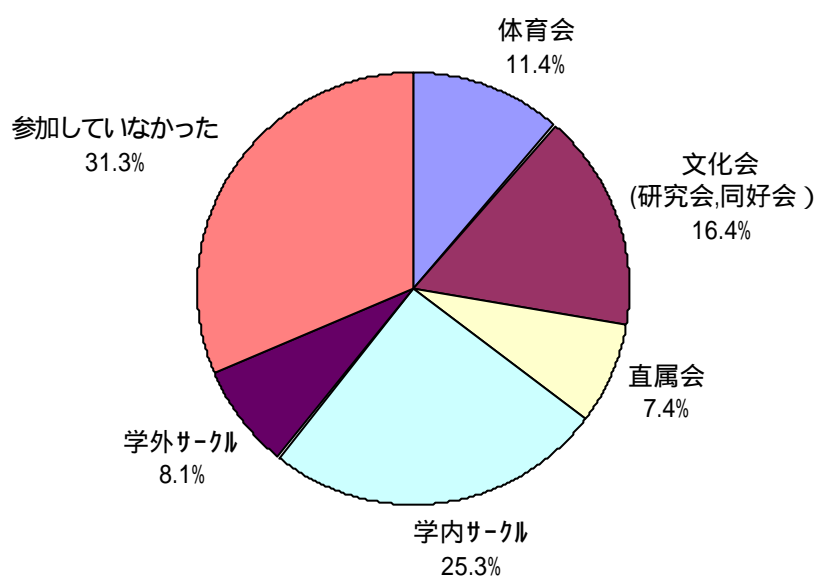
アルバイトを行なっている学生の割合は現在もあまり変わらないと思われるが、今回の調査対象者の在学中に関しては 学期中にアルバイトをしていた割合が 58.2%に及んでおり、実際、授業やクラブ活動とどのように時間配分をしていたのかが気になるところである。また、今回の調査には含まれなかったが、アルバイトを行なう理由、学業への影響なども興味深い。現在のカリキュラムでは選択科目が増えたこともあって、特に 1, 2 年次生の時間割は必ずしも時間帯がまとまっていない。また、通学範囲が広がってきていることにもより、授業終了後のアルバイトを行なうのも困難になってきている。したがって休暇中のアルバイトが占める割合が今後増加することと思われる。





問 20 クラブ・サークル活動に参加していましたか（主とするもの）

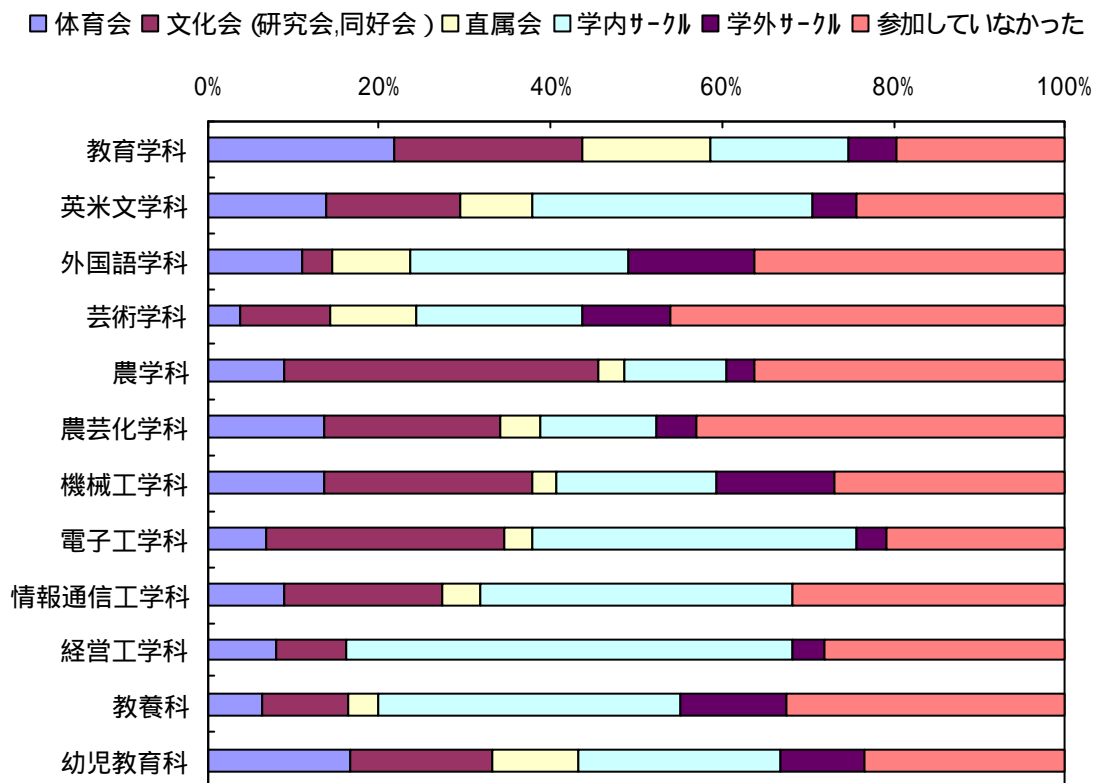
サークル（学内外）が 33.4%



クラブやサークルの活動に参加していたかを尋ねてみた。公認の団体とサークルを合わせると約7割の参加状況である。「学内サークル」が25.3%、「文化会（研究会・同好会）」が16.4%、「体育会」が11.4%、「直属会」が7.4%となっている。

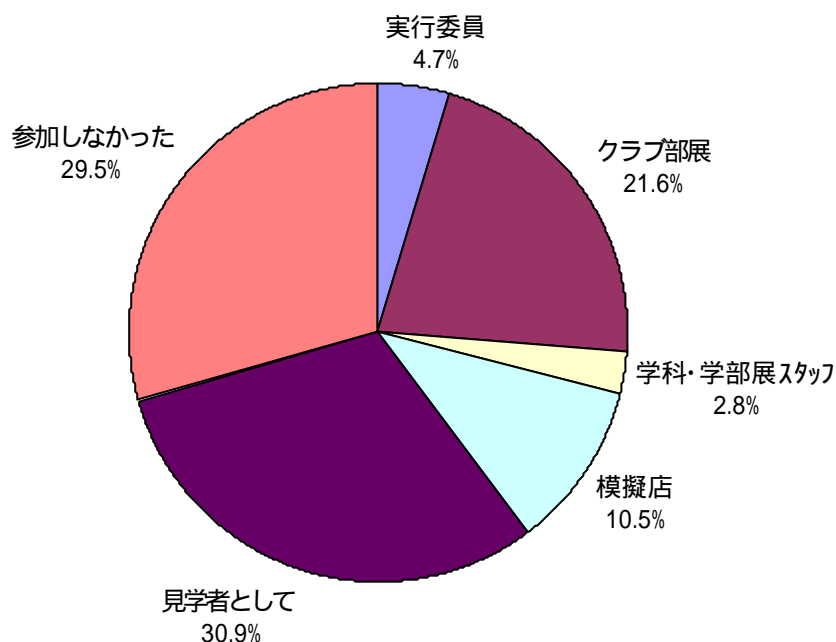
サークルは非公認団体ではあるが、個々の活動内容、形態は様々である。現在、公認のクラブになり活躍しているラクロス、ダンスドリルチームなど公認のクラブと大差ないものから、同じことに興味をもつ数名が集まって好きなことを行なっているサークルもある。玉川では、これまでクラブ活動とサークルがはっきり区別されており、サークルの活動にもいろいろと制約があった。もちろん、学校としての管理責任との関係もあるが、これだけ多くの卒業生がサークル活動に参加していたという現実には再認識する必要がある。

最近では『玉川の秋（コスモス祭）』はサークル単位で参加する団体も多く、また地道な活動を続けクラブに昇格した団体もある。こういった団体には、より積極的に援助をしていくことが大切であると思われる。



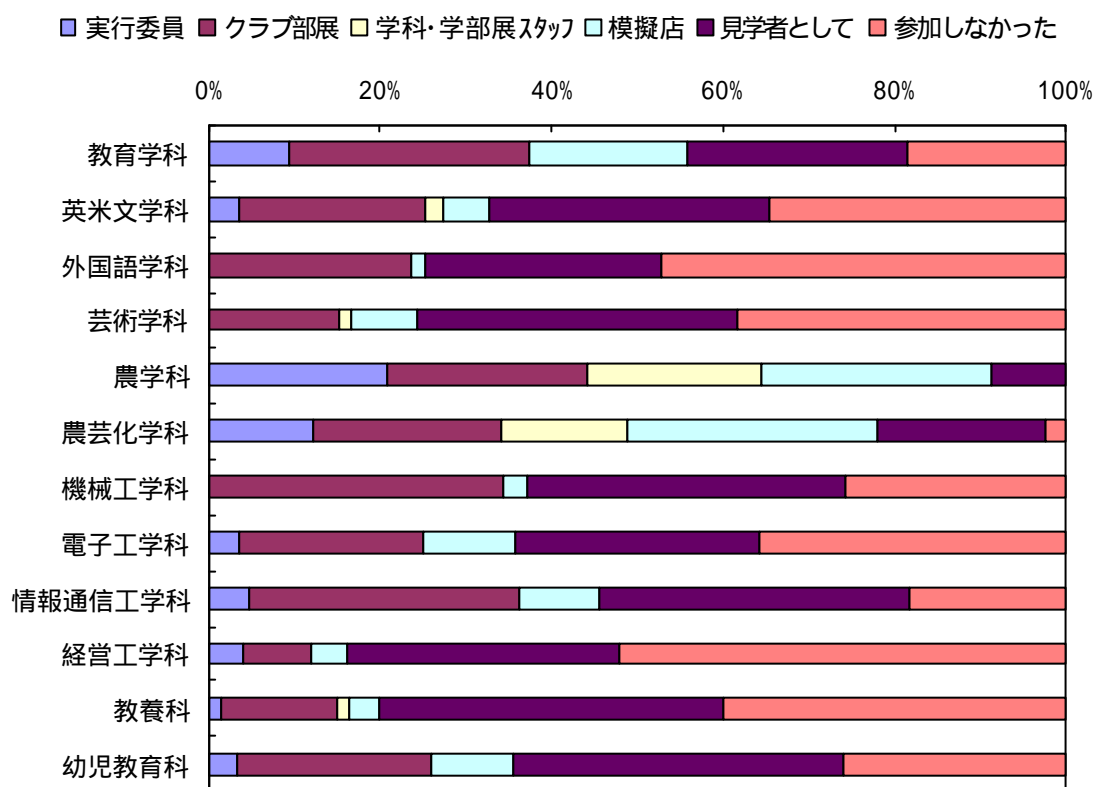
問 21 コスモス祭・収穫祭にどのような立場で参加しましたか（主とするもの）

見学者も含め何らかの形で参加した人 70.5%



コスモス祭・収穫祭にどのような立場で参加したかを尋ねたところ、「クラブ部展」が 21.6%、「模擬店」が 10.5%、「実行委員」が 4.7%、「学科・学部展スタッフ」が 2.8%と、いわゆる実施者側として 39.6%となった。ちなみに「見学者として」が 30.9%ということから、両方合わせて 70.5%が何らかのかたちで参加したことになる。

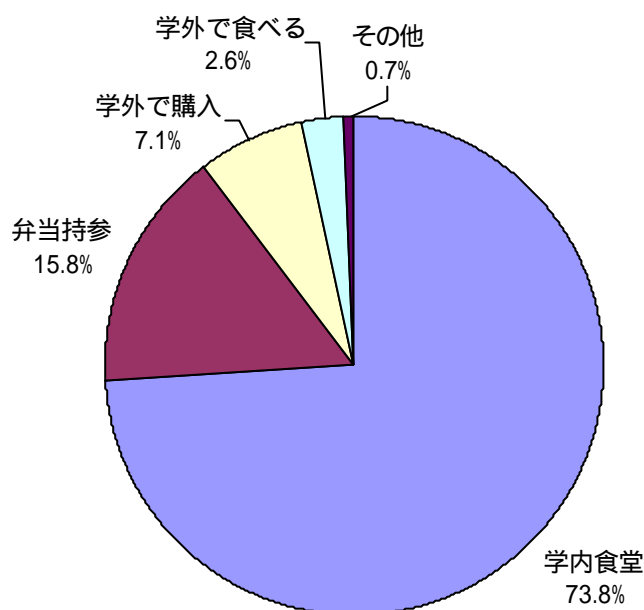
平成 9 年度から「コスモス祭、収穫祭、学科・学部展」が統一され『玉川の秋』となった。元来コスモス祭はクラブ活動の発表の場という認識が強く、クラブ活動の関係者がその中心であった。クラブ活動に参加していない在学生の中には、期間中を『休暇』と考えている者もいるようである。しかしながら実際はかなりの卒業生が学生時代になんらかの形で参加していたことは喜ばしい。また、実際に実行委員やクラブ部員として参加した人々からは『大変よい経験になった』という話を卒業後も耳にする。『玉川の秋』に統一されたことでクラブ部員以外が積極的に参加できる環境が整えら



れつつあるが、今後も特にクラブ活動に参加していない1年次生がより積極的に参加できるように努力が必要である。

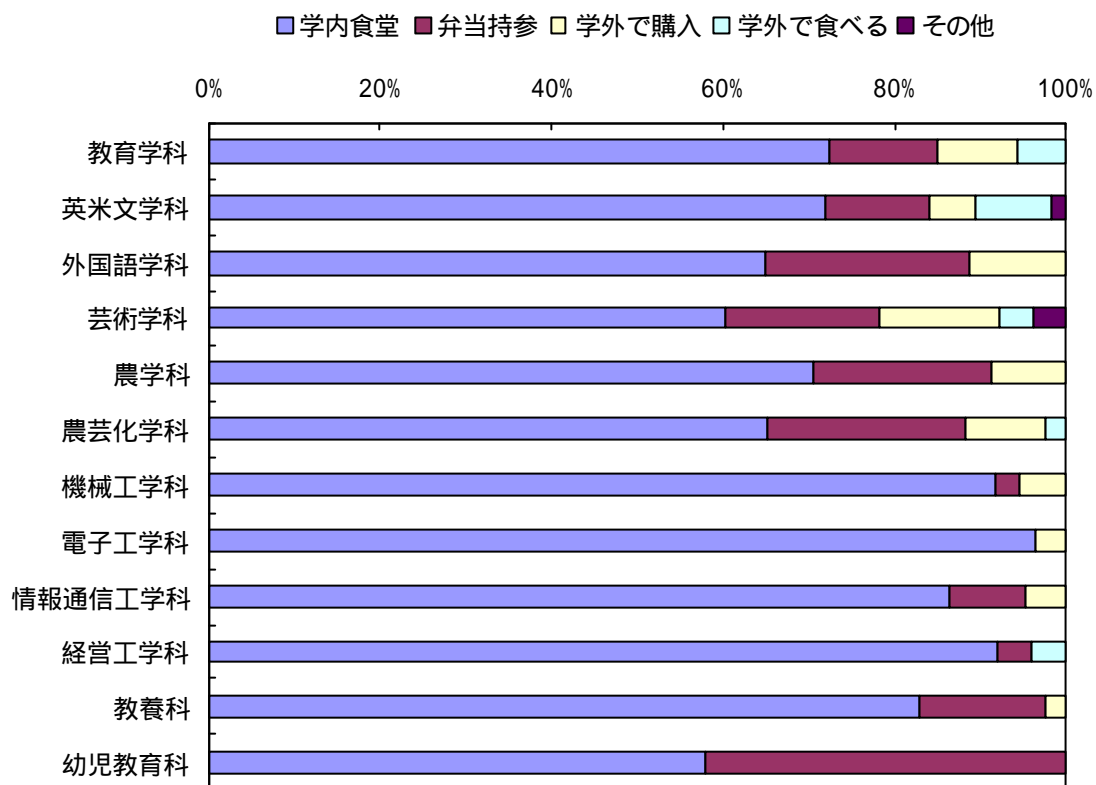
問 22 昼食はどのようにしていましたか（主とするもの）

### 主に学内食堂を利用



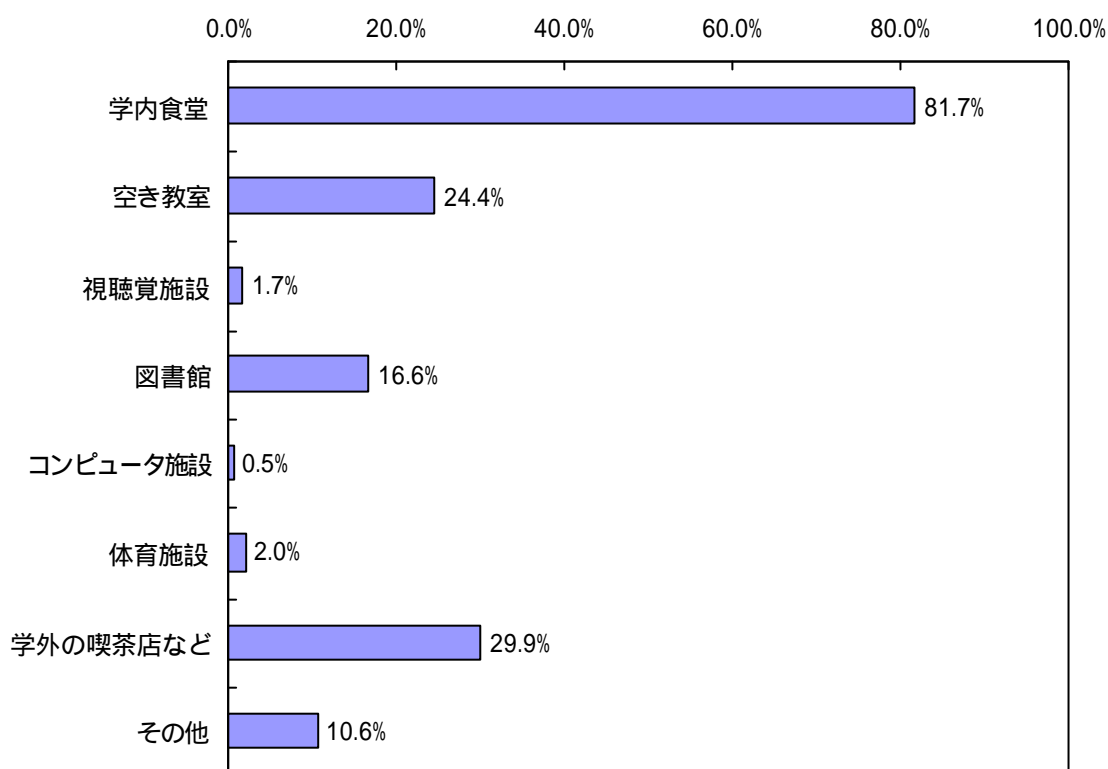
昼食をとる場合、どのようにしていたかを尋ねてみた。「学内食堂」が73.8%と圧倒的に多く、「弁当持参」が15.8%と続いている。ただし、学外へわざわざ食事をするに行く人が約1割いたことも実態として示されている。

このことから、学内の食堂の重要度は一目瞭然である。同時に問8で「食堂」を本学の教育において数量的に不足していたものとして約3割の人があげていることは、食堂の座席数が不足していたという印象によるものであろう。この件に関しては、今回の調査対象者の在学中と、現在とでは多少状況が異なる。平成7年度より現カリキュラムが導入され、それまでの全学一斉の昼休みがなくなり、学生のそれぞれがスケジュールに応じて昼食をとるようになった。これにより学生の昼食時間帯が分散し、混雑が大幅に緩和され利用しやすくなっている。



問 23 空き時間によく利用した場所はどこですか（複数可）

### 主に学内食堂を利用

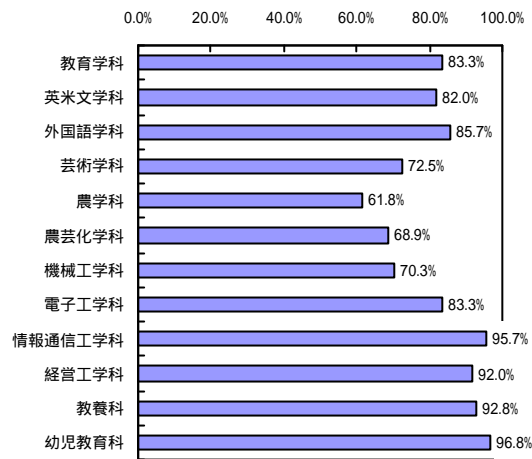


空き時間によく利用した場所について尋ねてみたところ、「学内食堂」が81.7%と圧倒的に多く、「学外の喫茶店など」が29.9%、「空き教室」が24.4%、「図書館」が16.6%と続いている。「図書館」を除いては友達と話をすることが主な利用目的と思われる。また、「その他」では部室(21件)、研究室(9件)という回答が多く、芝生、下宿等他の回答を引き離していた。

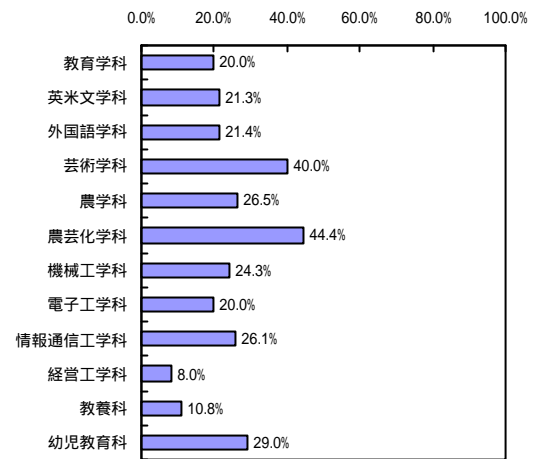
前問でも述べたように、学内の食堂は多くの学生が食事のために利用しているだけでなく、空き時間を過ごすためにかなりの学生がラウンジ的に利用していることが考えられる。同時に、今後このような『学生の居所』が学内に求められていることも示唆している。



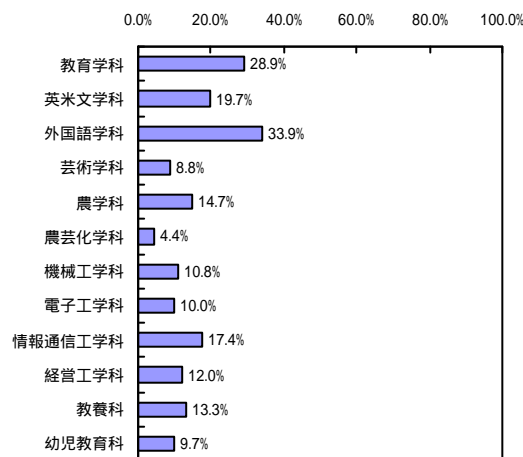
学内食堂



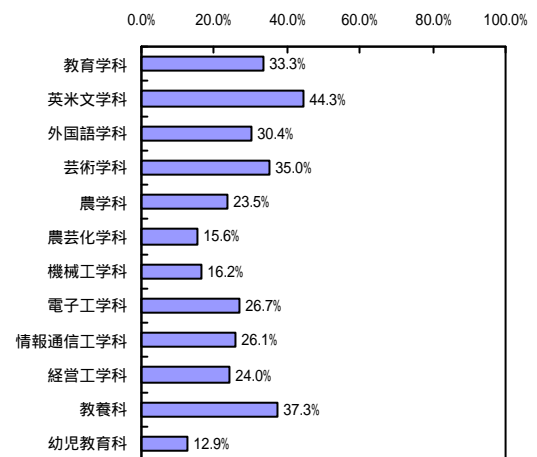
空き教室



図書館

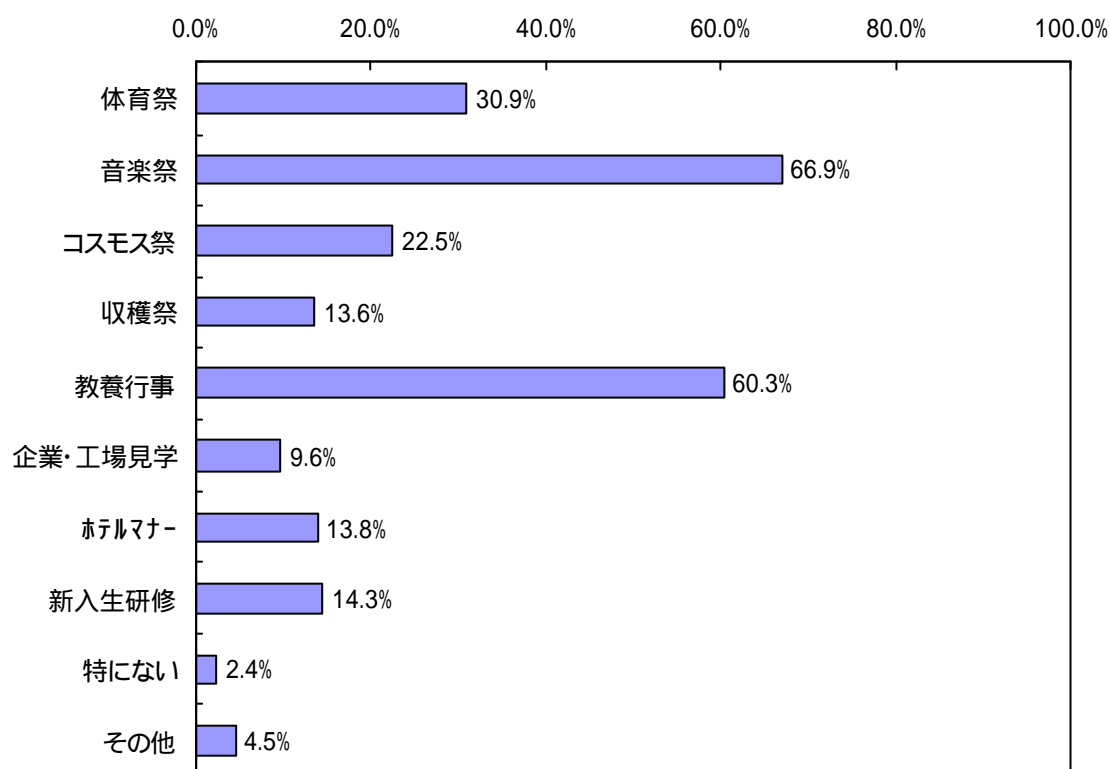


学外の喫茶店など



問 24 印象に残っている行事はなんですか（複数可）

### 音楽祭と教養(研修)行事

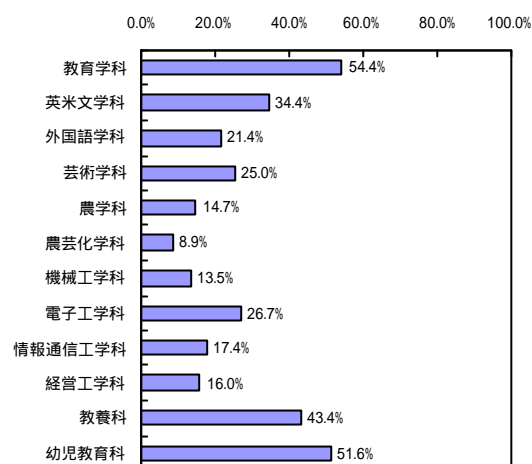


印象に残っている行事を複数あげてもらったところ、「音楽祭」が最も多く 66.9%、続いて「教養行事」が 60.3%、「体育祭」が 30.9%、「コスモス祭」が 22.5%、「新入生研修」が 14.3%、「ホテルマナー」が 13.8%と続いている。

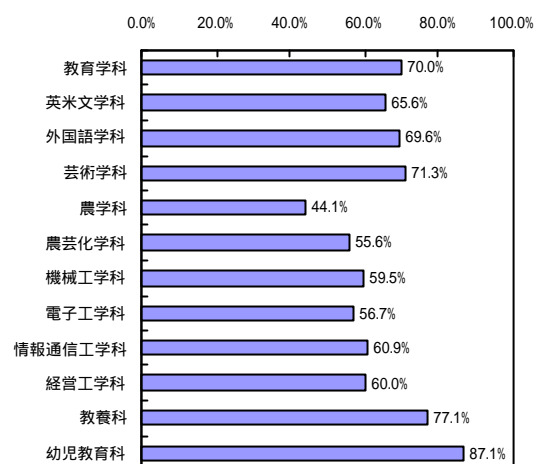
なお、「収穫祭」は農学部（農学科 76.5%、農芸化学科 73.3%）、「企業・工場見学」は主として工学部（機械工学科 43.2%、電子工学科 23.3%、情報通信工学科 26.1%、経営工学科 52.0%）独自の行事であるため、上記グラフにおける全体での平均値は低くなっているが、当該学部別の集計にも注目する必要がある。

「音楽祭」、特に第九を歌ったことは、在学生だけではなく卒業生にとっても大きな思い出になっていることがこの調査結果からもわかる。しかし、2 番目の「教養行事」については、在学生の評判が芳しくないと、見直しを検討している学科もあると聞く。この調査結果は教養行事が多くの卒業生から支持されていることを示しており、今後学部学科にとって貴重な参考意見になると思う。また、「ホテルマナー」など現在は一部の学科を除いては行われていない行事についても、それぞれ 1 割以上が『印象に残っている行事』としてあげている点も興味深い。

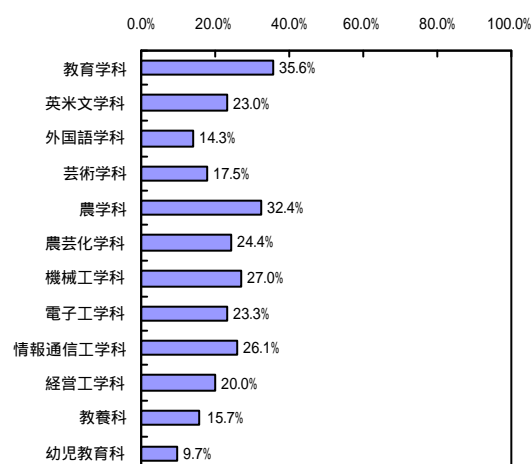
体育祭



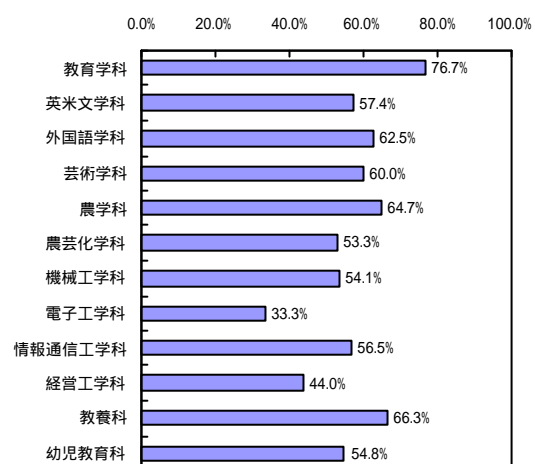
音楽祭



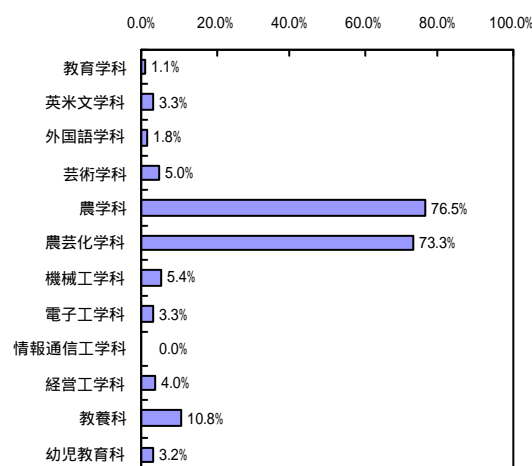
コスモス祭



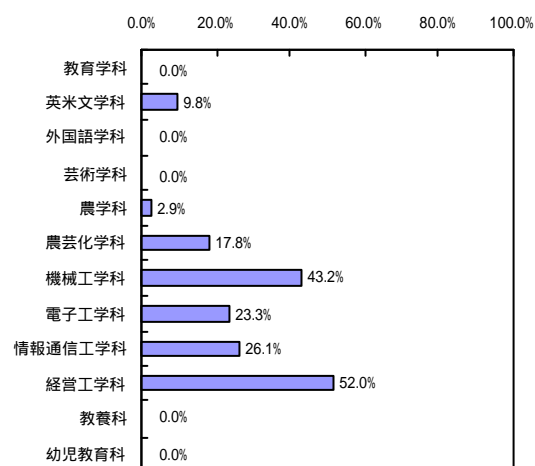
教養行事



収穫祭

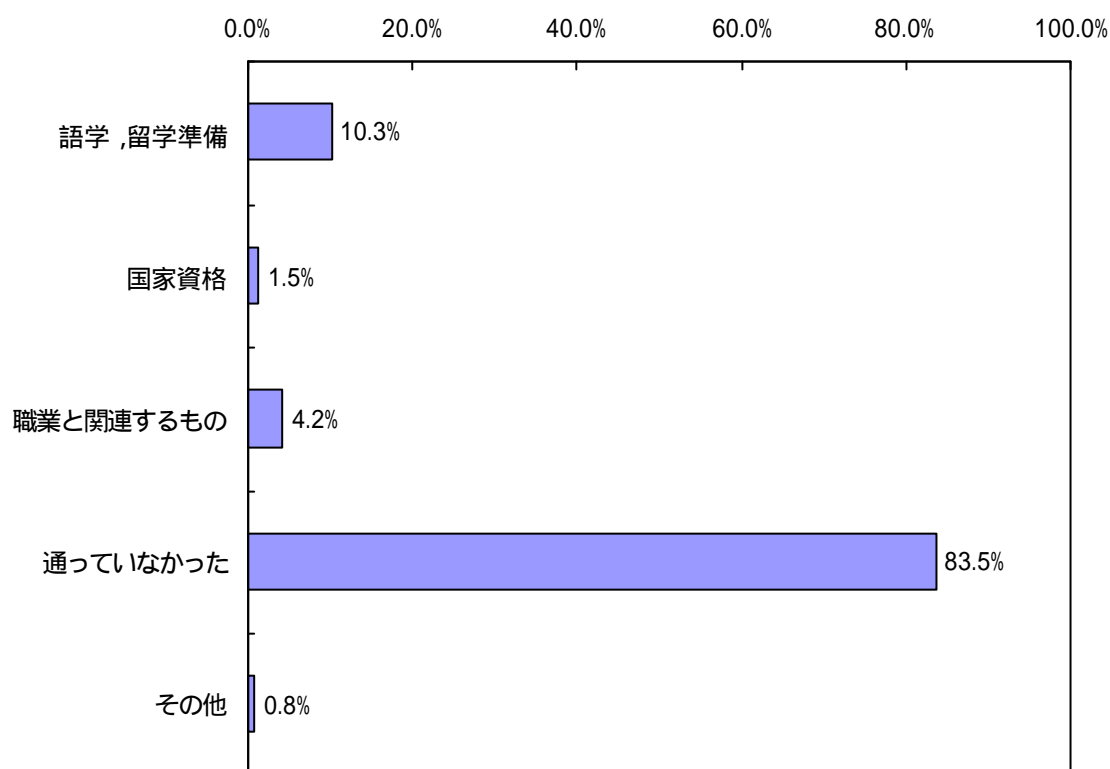


企業・工場見学



問 25 在学中，資格取得や語学などの学校に通っていましたか（複数可）

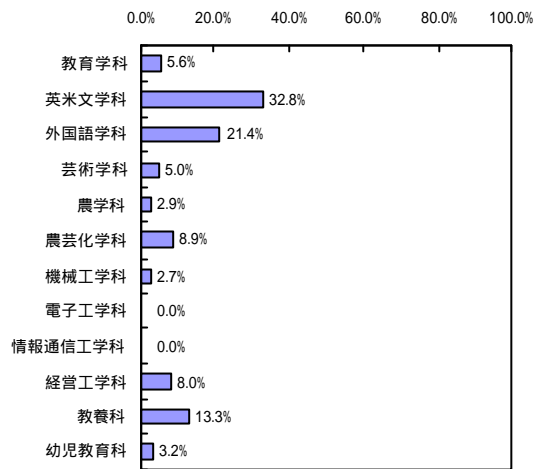
6 人に 1 人はダブル・スクールを経験している



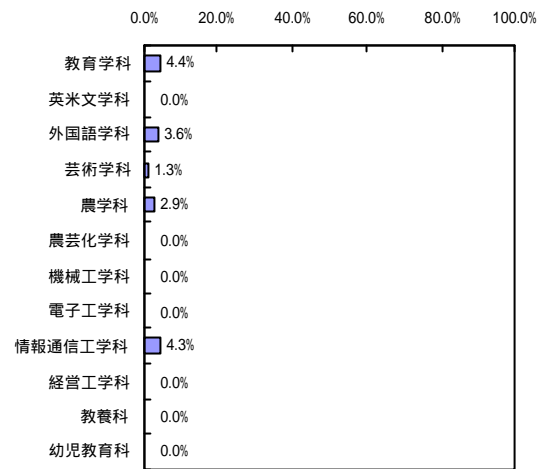
在学中に，資格の取得や語学などの学校に通っていたかについて尋ねてみた。通っていた人は 16% という結果になったが，その中でも「語学，留学準備」のためが 10.3% ということである。

ダブル・スクール経験者の 16% という率は決して少なくはない。6 人に 1 人が在学中時間をやりくりして資格取得や語学などの学校に通っていたそうであるが，特に語学などについては今後学内でも全学部の学生が履修できるような選択科目や，継続学習センターで開設する科目を増やすことで学生の要望に応えられると思われる。

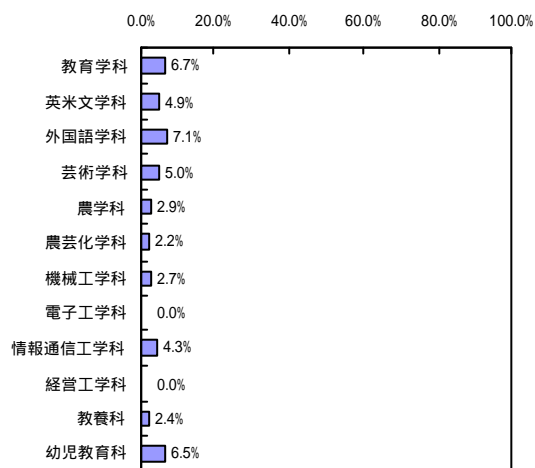
語学，留学準備



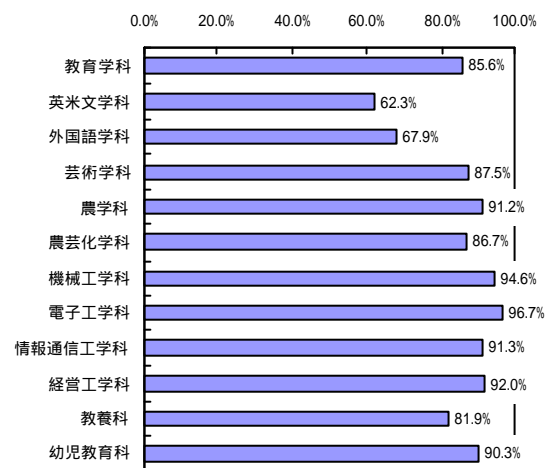
国家資格



職業と関連するもの



通っていなかった

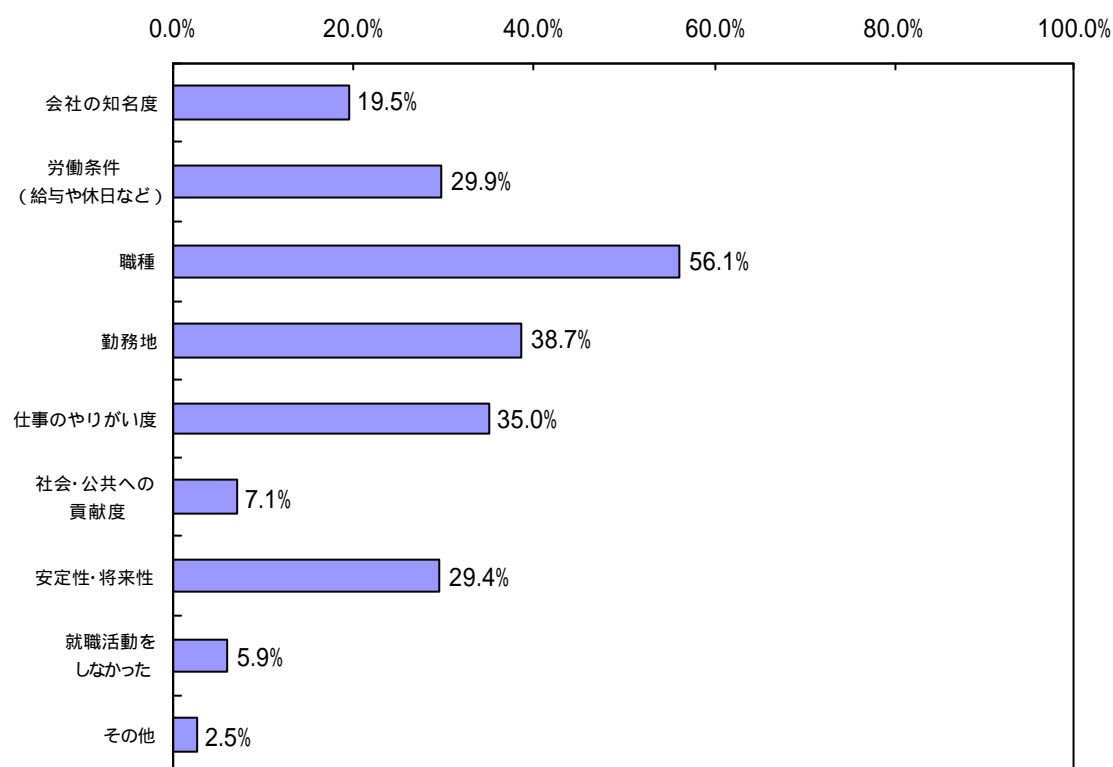




## 4 . 就 職

問 26 志望就職先を選択するときに重視したことはなんですか（複数可）

1 位職種，2 位勤務地，3 位やりがい度

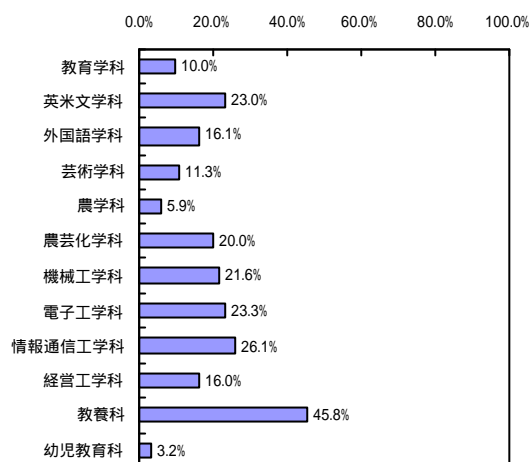


志望就職先を選択するときに重視したことを尋ねたところ，「職種」が 56.1% と多く，「勤務地」が 38.7%，「仕事のやりがい度」が 35.0% で，「労働条件」や「安定性・将来性」などは約 30% となっている。

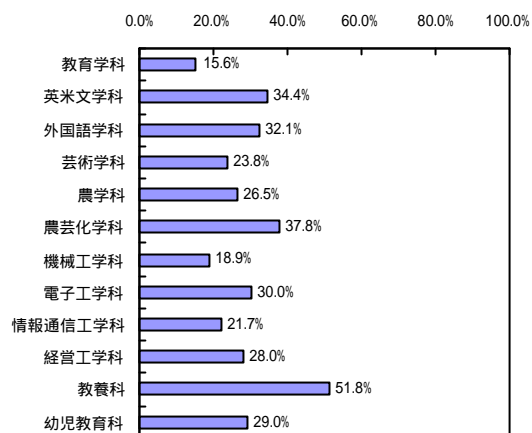
「職種」が選択の大きな条件になっていることから，求人資料においても職種についての情報を出来るだけ多く，かつ分かりやすくすることが必要であろう。その他，「勤務地」についても出来る限り詳しい情報を提供することも必要である。また，教養科では「労働条件」(51.8%)，「会社の知名度」(45.8%) を重視した傾向が顕著であった。



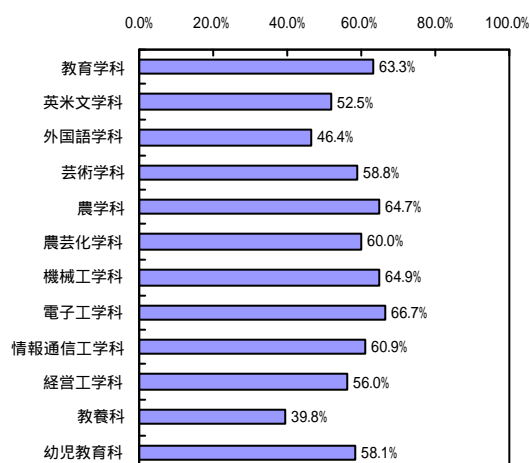
会社の知名度



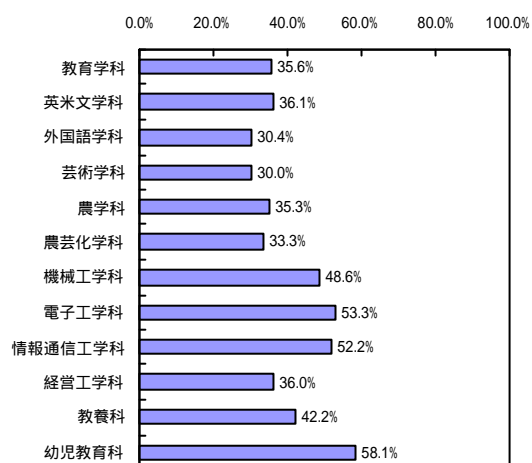
労働条件  
(給与や休日など)



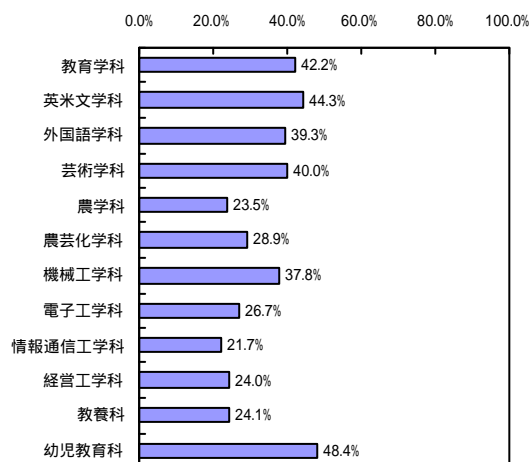
職種



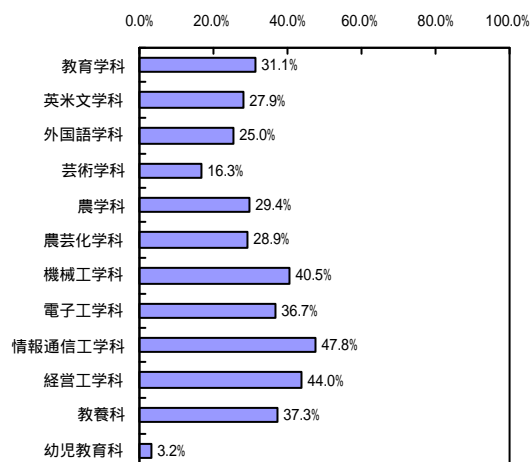
勤務地



仕事のやりがい度

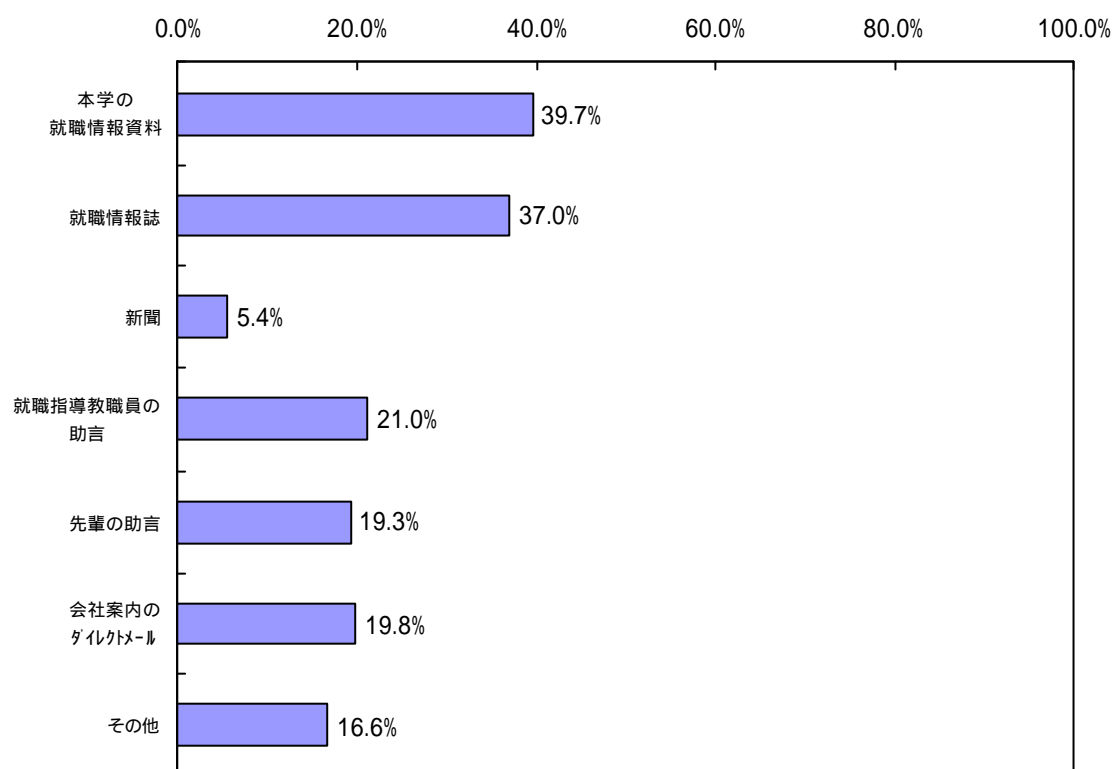


安定性・将来性



問 27 就職活動時に参考にした情報源はなんですか（複数可）

### 本学就職情報資料と就職情報誌



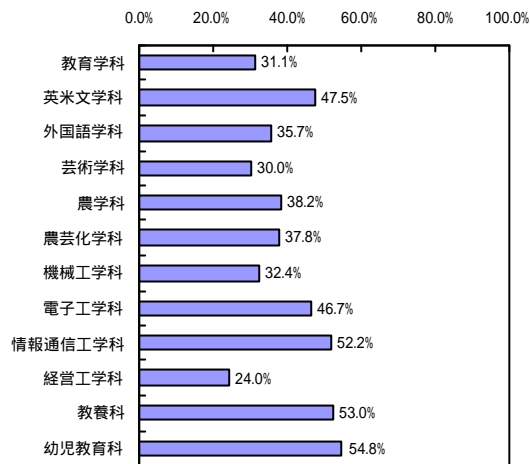
就職活動時に参考にした情報源を尋ねてみた。「本学の就職情報資料」が39.7%、一般の「就職情報誌」が37.0%、「就職指導教職員の助言」が21.0%、「会社案内のダイレクトメール」が19.8%、「先輩の助言」が19.3%、「新聞」が5.4%となった。

このことから、情報源がかなり分散していることがわかる。また、「本学の就職情報資料」が40%に満たないことは、過半数の学生が本学の資料に期待していないことになる。したがって、資料の内容と量を学生の期待に添ったものとするとともに、資料が充実していることを十分にPRする必要もあろう。また、「就職指導教職員の助言」を参考にしたと回答した学生が、外国語学科では3.6%、農学科で8.8%と1割にも満たないことから、教職員がもっと積極的に学生の相談に乗る姿勢が大切であろう。

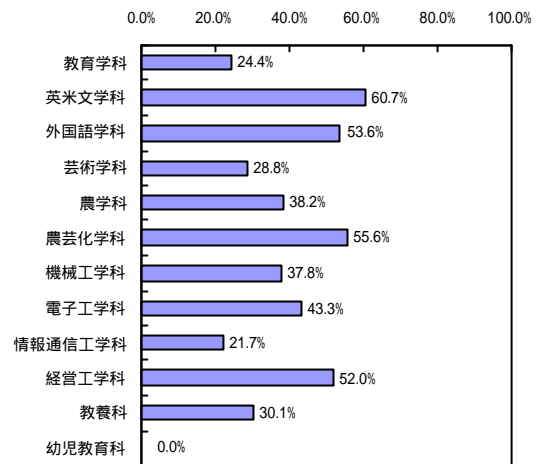
< 「その他」の意見 >

親の助言、知人の助言、教員の助言、他校の就職情報資料など

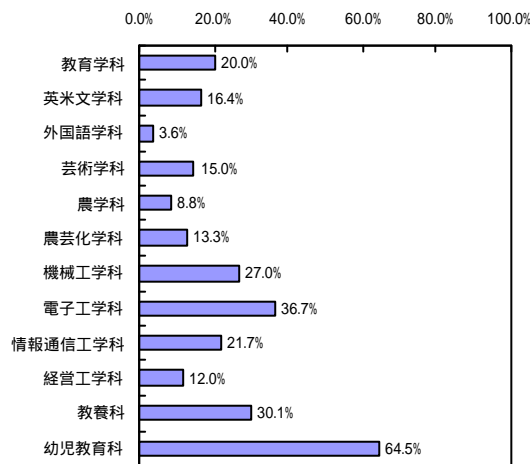
本学の就職情報資料



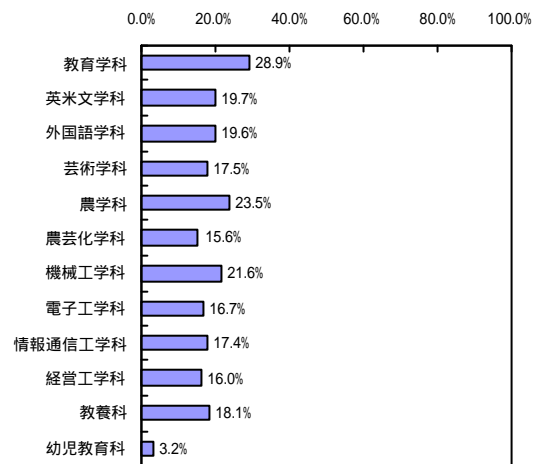
就職情報誌



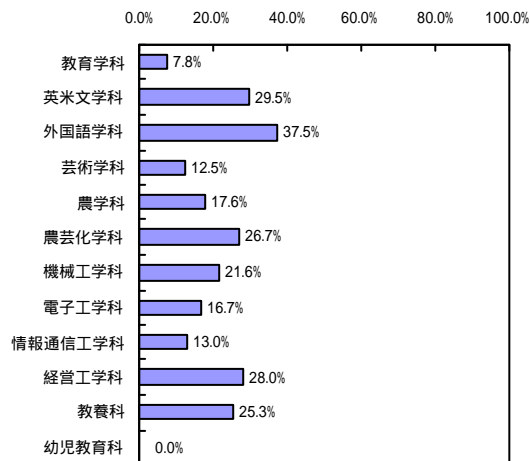
就職指導教職員の助言



先輩の助言

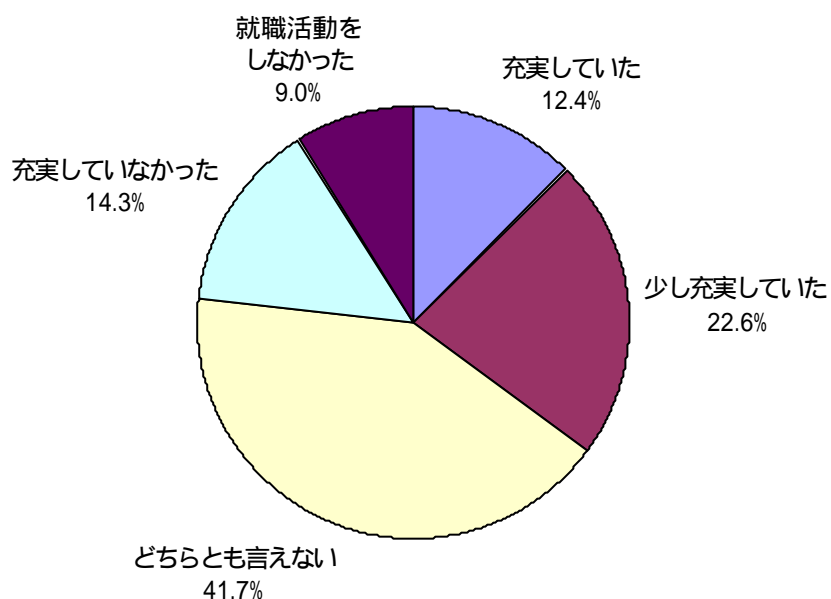


会社案内のダイレクトメール



問 28 就職関係の資料や情報提供は充実していましたか

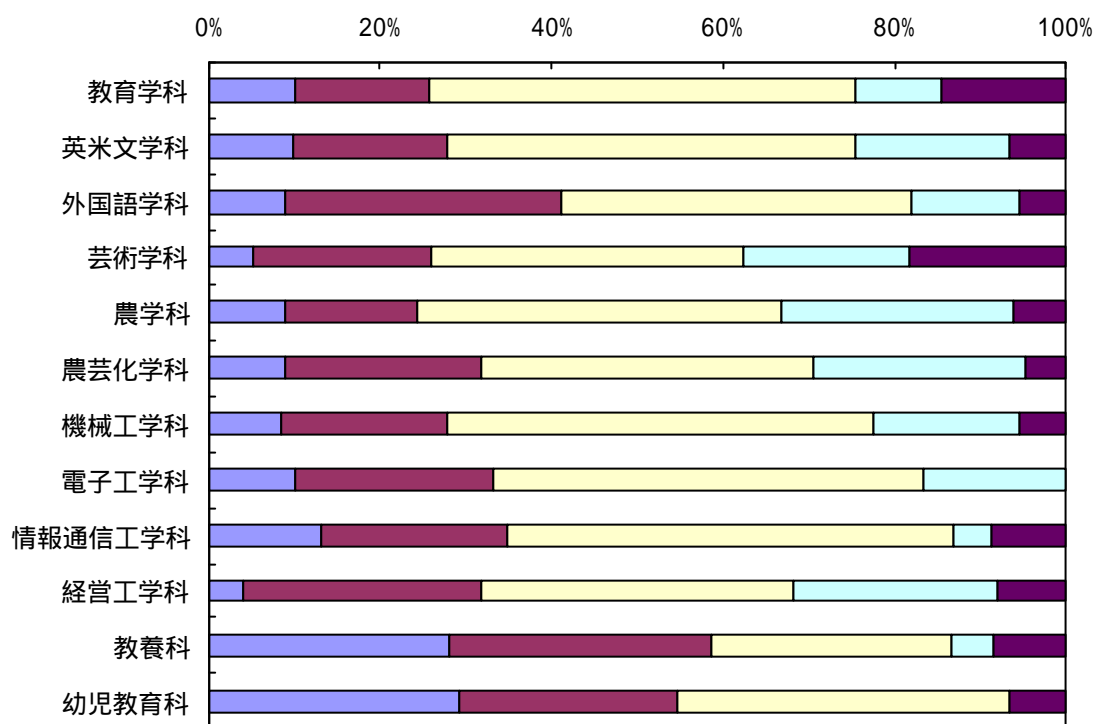
充実していたと感じた人 35.0%



就職関係の資料や情報提供は充実していましたかの設問に、「充実していた」が12.4%、「少し充実していた」が22.6%、「どちらとも言えない」が41.7%、「充実していなかった」が14.3%となった。

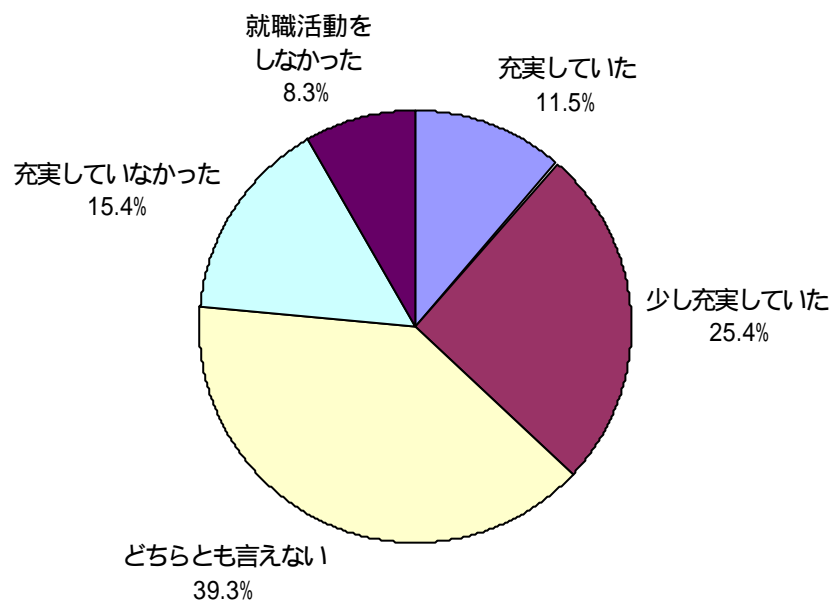
前問において、「本学の就職情報資料」の利用が40%に満たなかったことと併せ、資料の内容を充実させる必要があるだろう。内容の充実とは、前問の結果からも、「職種」(実際にどのような仕事なのか)についての可能な限りの詳しい説明と、「勤務地」の具体的な情報の充実であろう。

■ 充実していた ■ 少し充実していた ■ どちらとも言えない ■ 充実していなかった ■ 就職活動をしなかった



問 29 就職指導や就職ガイダンスは充実していましたか

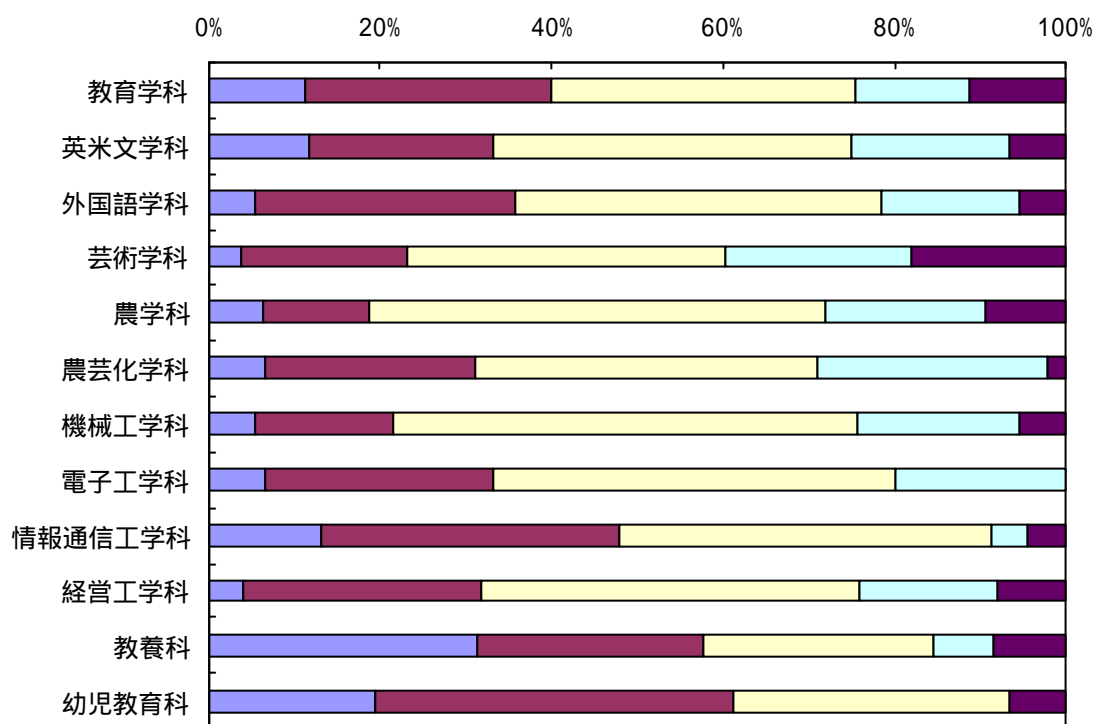
充実していたと感じた 36.9%



就職指導や就職ガイダンスは充実していましたかの設問に、「充実していた」が11.5%、「少し充実していた」が25.4%、「どちらとも言えない」が39.3%、「充実していなかった」が15.4%となった。

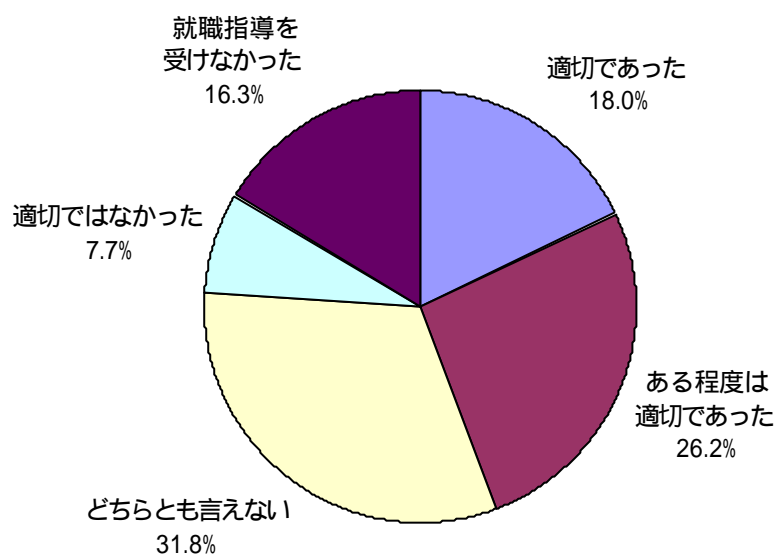
この結果から何かを読み取ることは難しいが、学生の要求に沿った支援活動となるように努力しなくてはならない。

■ 充実していた ■ 少し充実していた ■ どちらとも言えない ■ 充実していなかった ■ 就職活動をしなかった



問 30 就職指導の教職員の対応は適切でしたか

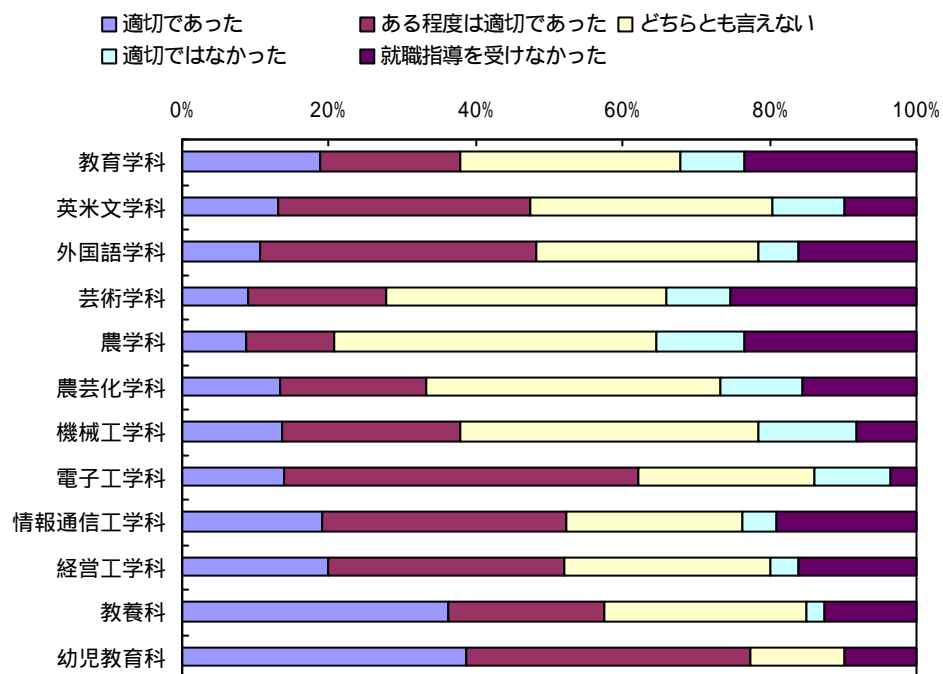
指導を受けなかった人を除くと満足した人約 5 割



就職指導の教職員の対応は適切であったかについて尋ねてみた。「適切であった」が 18.0%、「ある程度は適切であった」が 26.2%、「どちらとも言えない」が 31.8%、「適切ではなかった」が 7.7%となった。

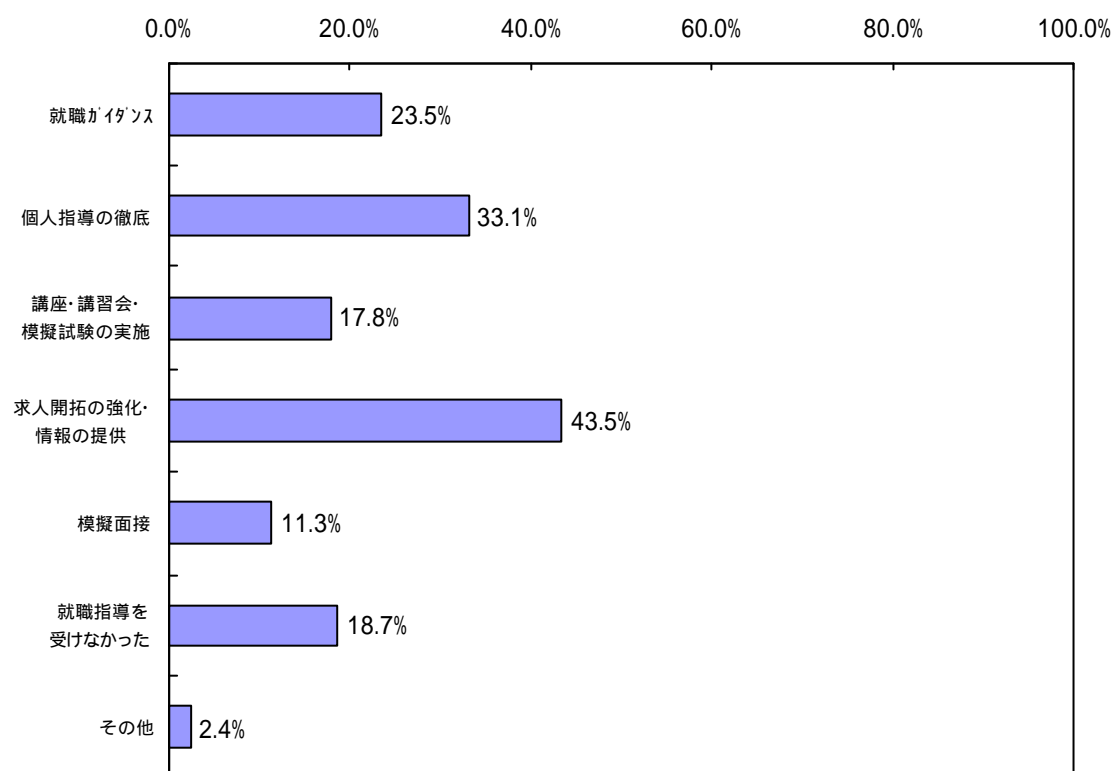
「就職指導を受けなかった」16.3%を除くと、「適切であった」「ある程度適切であった」の比率が 51.6%となり、教職員の対応は過半数の学生に評価されているといえる。また、自由記述の中には、教職員の対応が良かったと特記されていた回答が 19 件もあった。反対に、担当教職員の学生に対する姿勢が良くなかったとの意見が 8 件あった。不満の多くは、教職員が学生の考えを頭から否定し自分の意見を押し付けて不満感を生じさせたものであり、学生への対応については、教職員に対する教育も必要であることが読み取れる。





問 31 就職指導の観点から重要だと感じたものはなんですか（複数可）

### 求人開拓の強化・情報の提供と徹底した個別指導

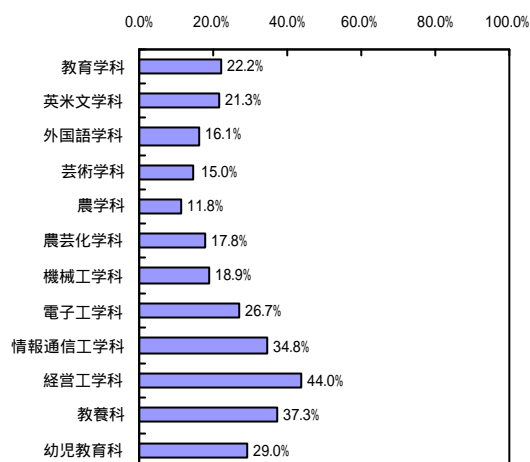


就職指導の観点から重要だと感じたものについて尋ねたところ、「求人開拓の強化・情報の提供」が 43.5% と多く、「個人指導の徹底」が 33.1%、「就職ガイダンス」が 23.5%、「講座・講習会・模擬試験の実施」が 17.8%、「模擬面接」が 11.3% という結果になった。

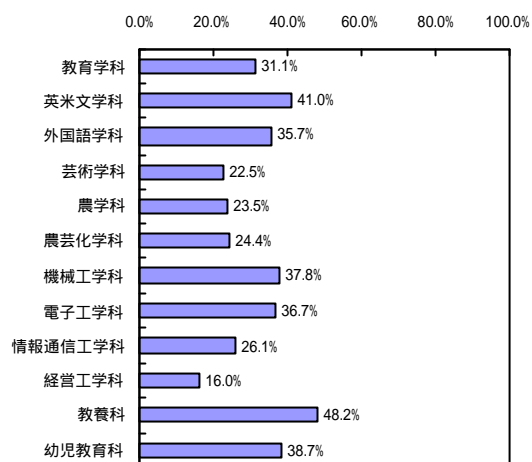
「情報の提供」については、本学への依頼企業と一般公募とを分離して考える必要がある。本学への依頼企業については、キーワードによる分類と職種を分かりやすく示すこと。また、自由記述において卒業生の情報が欲しかったなどの要求が 19 件ほどあったことから、求人情報に卒業生の数や卒業生への連絡方法なども記載できるようにすることなどを検討したい。

一般公募の企業については、情報を集めやすくするためにインターネットの利用方法の教育や、企業のホームページアドレスを表示することなどが大切となろう。

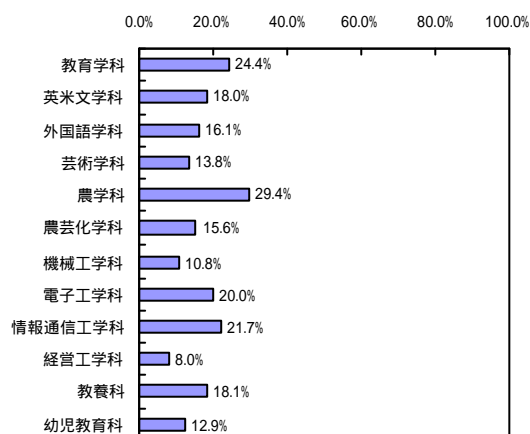
就職ガイダンス



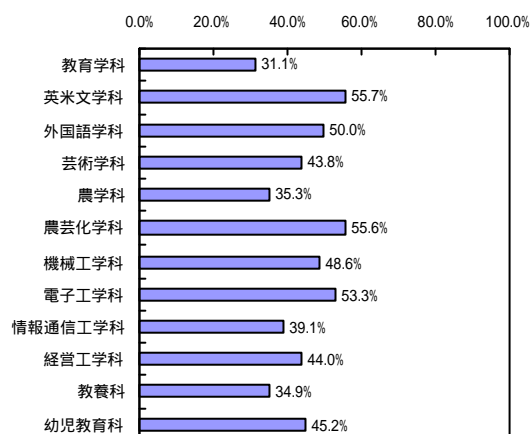
個人指導の徹底



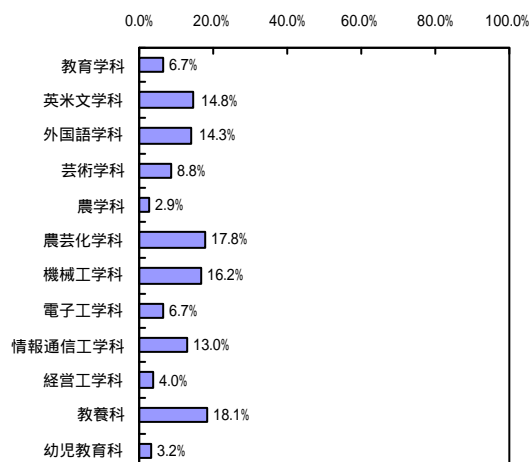
講座・講習会・  
模擬試験の実施



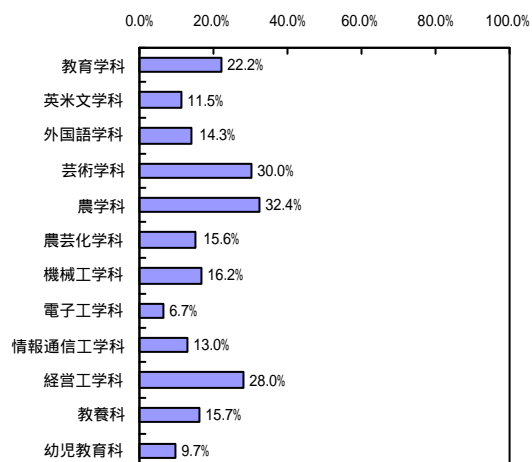
求人開拓の強化・  
情報の提供



模擬面接

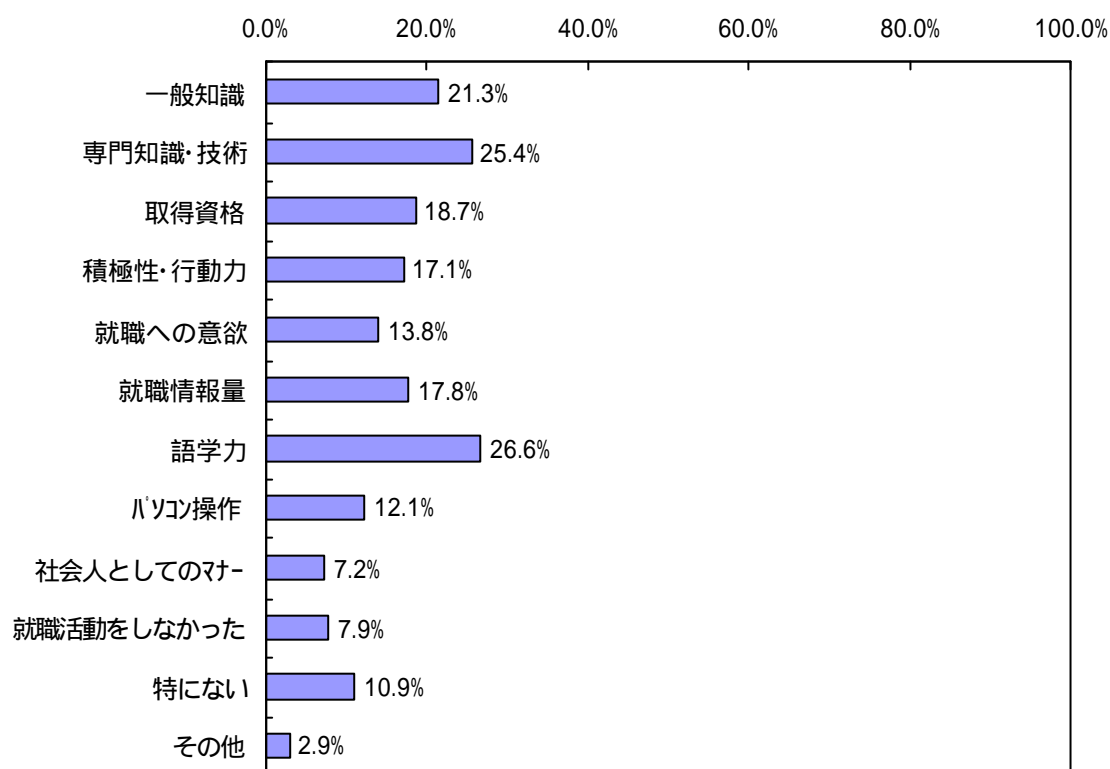


就職指導を受けなかった



問 32 就職活動を終えて自分に不足していたと感じたものはなんですか  
(複数可)

### 語学力と専門および一般知識

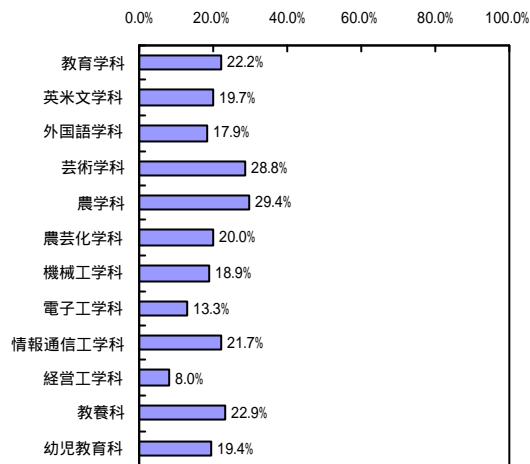


就職活動を終えて自分に不足していたと感じたものは何かについて尋ねた。「語学力」が 26.6%、「専門知識・技術」が 25.4%、「一般知識」が 21.3%、「取得資格」が 18.7%、「就職情報量」が 17.8%となり、「積極性・行動力」が 17.1%、「就職への意欲」が 13.8%と続いている。

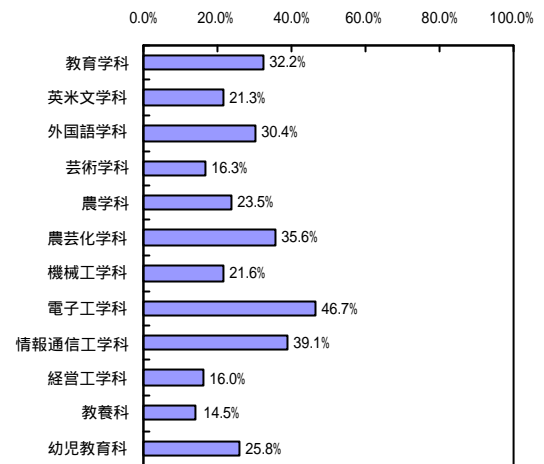
教育学科と幼児教育科が「語学力」不足を感じていないのは興味深い傾向と思われるが、その他の学科では「語学力」不足を感じている卒業生は少なくなく、一部の学科では 30%を超え 50%に達している。これに対し、現カリキュラムではコア 科目の英語の履修時間が少なく、1, 2 年次の英語の履修時間が以前のカリキュラムよりも減少しているのであるから、これが語学力の低下をもたらし、結果的に不満へつながることのないように、充分な対応が求められる。

また、「専門知識・技術」に不足を感じた割合が高いことも問題にしなければならない。特に選択回答率が 30%を超える学科においては、これらの内容をしっかりと教育する方策が求められるべきであろう。

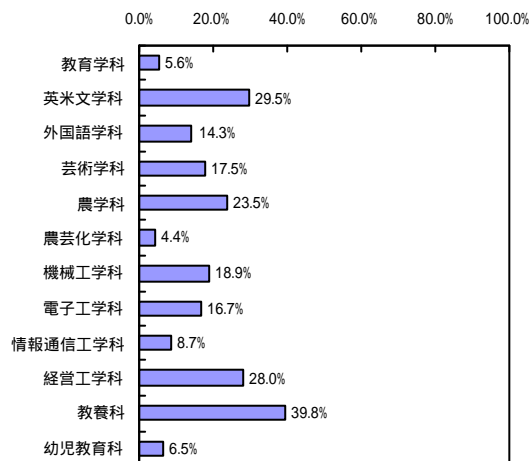
一般知識



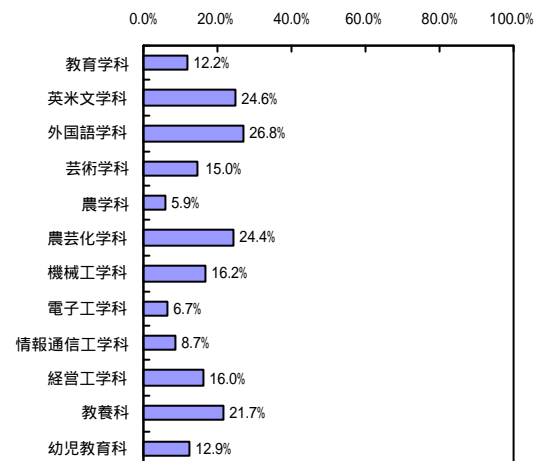
専門知識・技術



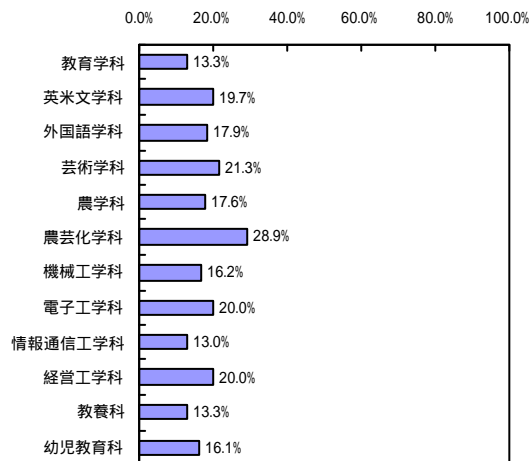
取得資格



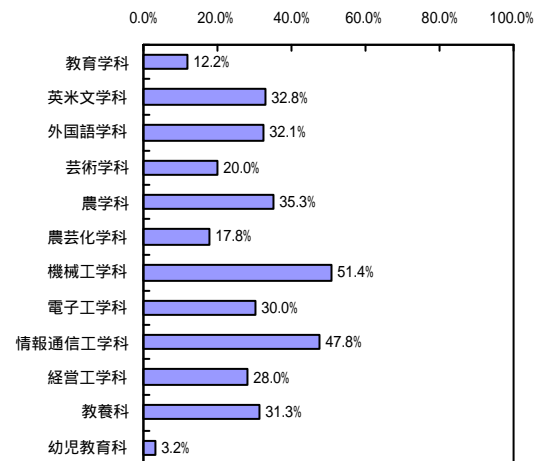
積極性・行動力



就職情報量

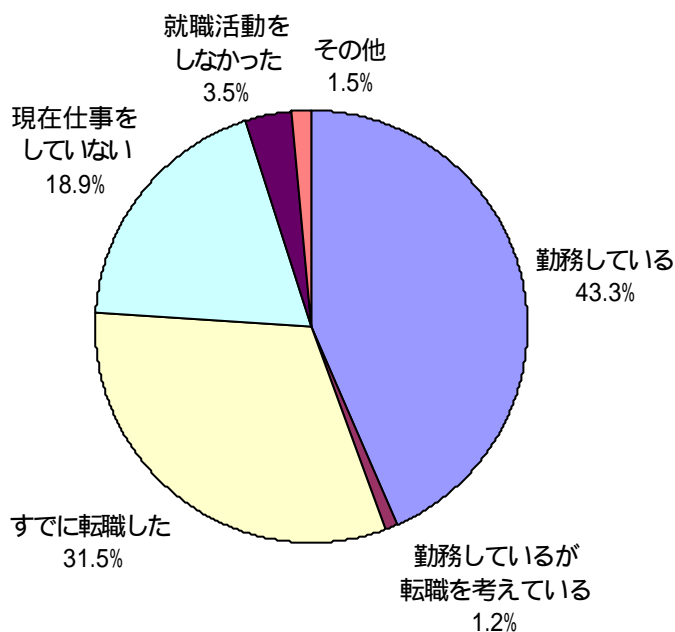


語学力



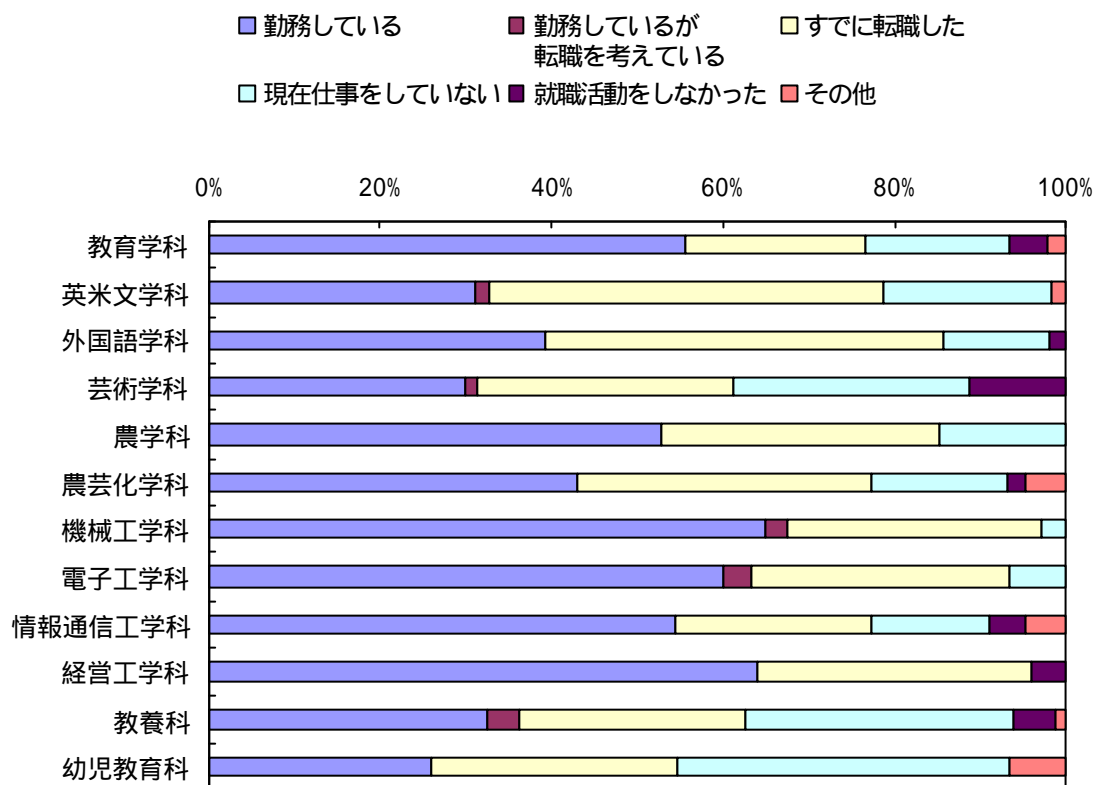
問 33 当時の就職先に現在も勤務していますか

転職した，もしくは転職を考えている人 32.7%



最初に就職したところに現在も勤務していますかと尋ねたところ，「勤務している」が 43.3%，「すでに転職した」が 31.5%，「現在仕事をしていない」が 18.9% という結果になった。

就職後に転職した者の比率が約 32% であり，かなりの転職率といえるが，工学部，教育学科，農学部では転職者が少ない。転職者が多い原因としては，社会情勢も大いに影響していると思われるが，就職活動時に，良く考えずに就職先を決めていることも要因として考えられる。



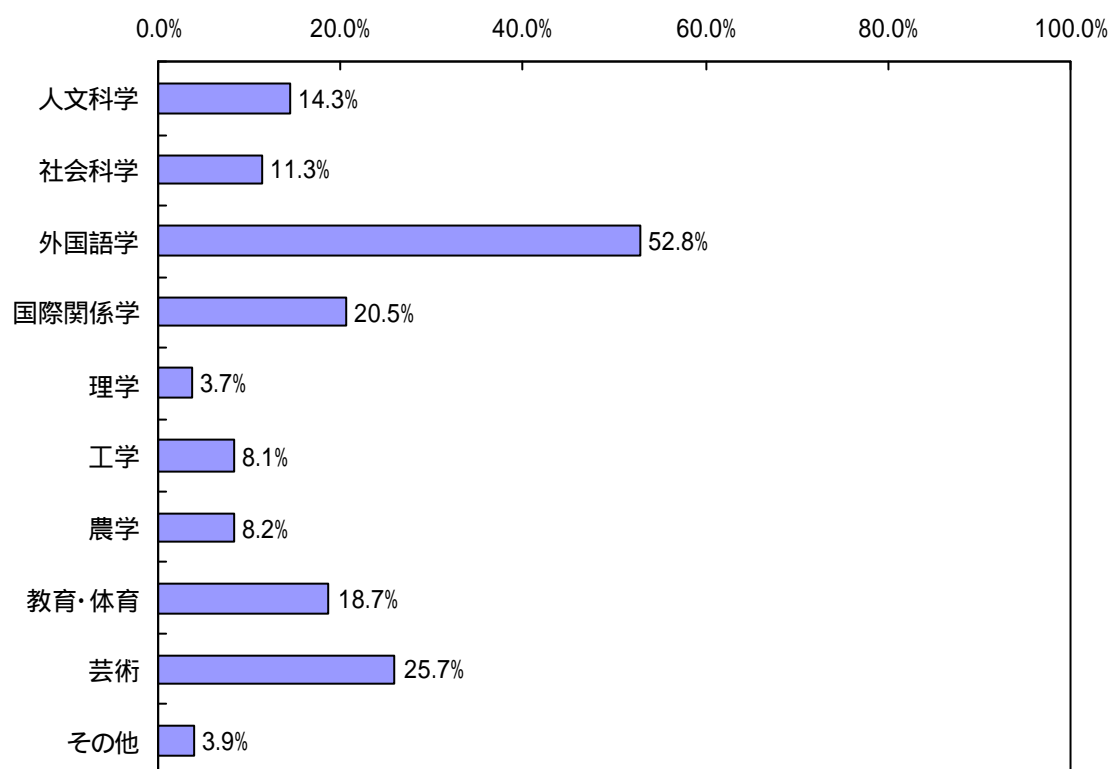




## 5 . 生涯學習

問 34 もう一度学びたい分野はありますか（複数可）

## 外国語

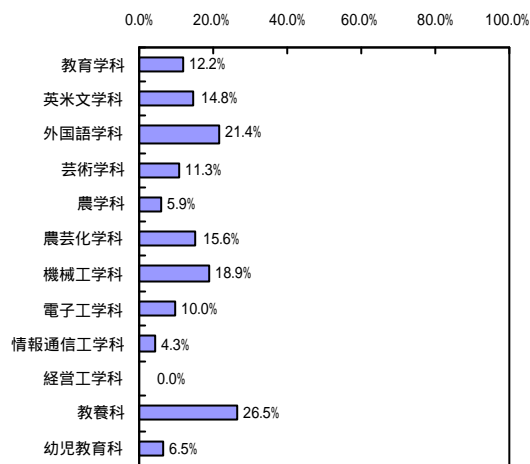


もう一度学びたいと思う分野について尋ねてみた。結果として、1位は「外国語学」で過半数の52.8%をも占めていた。これはどの分野の卒業生にも共通することから純粋な「外国語学」というよりはむしろ「外国語」の習得及び上達と認識したほうがよいであろう。問32および問40の結果からもそのことはうかがえる。

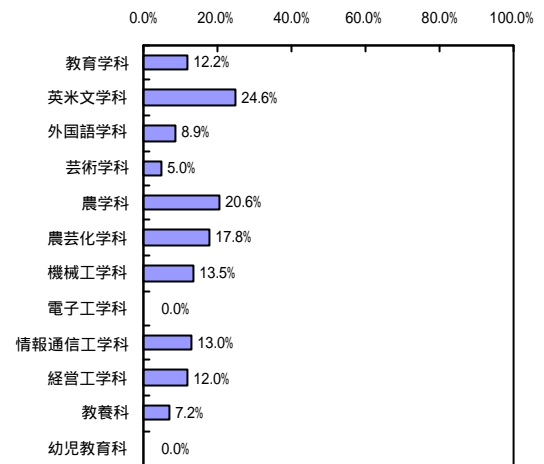
この理由としては、仕事や生活、また旅行などが国際的になり外国語の必要性が身近になったことなどがあげられよう。また、職場において、専門職でなくとも周りとの比較において外国語力が問われる時代となってきた背景も考えられる。「芸術」の25.7%に関しては芸術学科の卒業生65.0%が希望を示し、「教育・体育」の18.7%に関しては教育学科および幼児教育科の卒業生の過半数が希望する結果となり、専攻していた学科に依存する傾向のある分野も見られることが分かった。

現在、これらの要望への本学の対応としては、平成7年4月にオープンした継続学習センターの各講座の受講および科目等履修生として大学の授業への参加の道が開かれている。

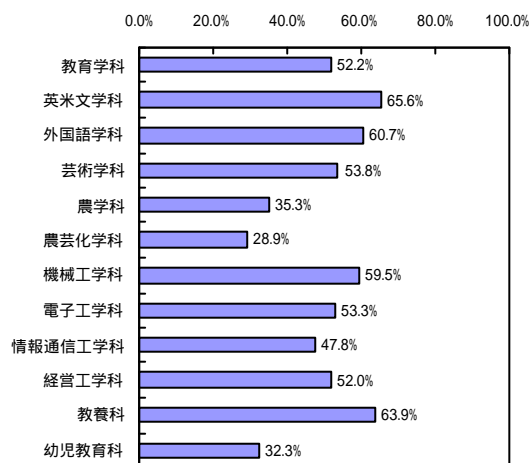
### 人文科学



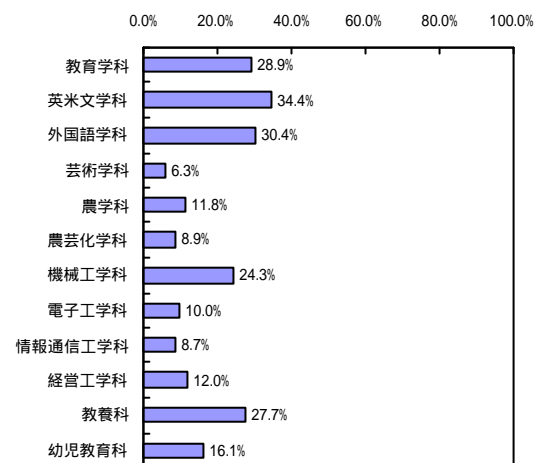
### 社会科学



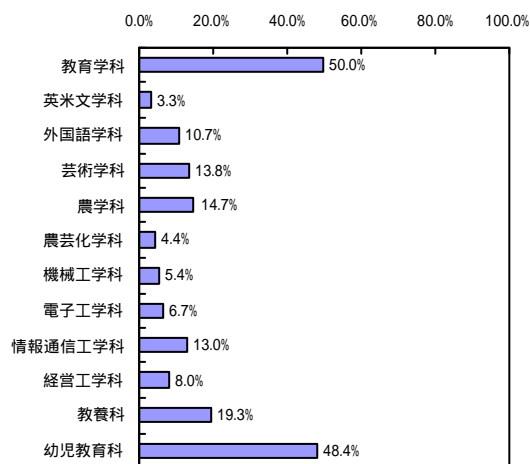
### 外国語学



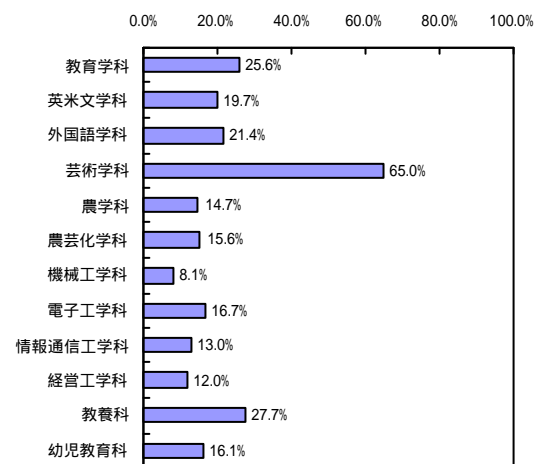
### 国際関係学



### 教育・体育

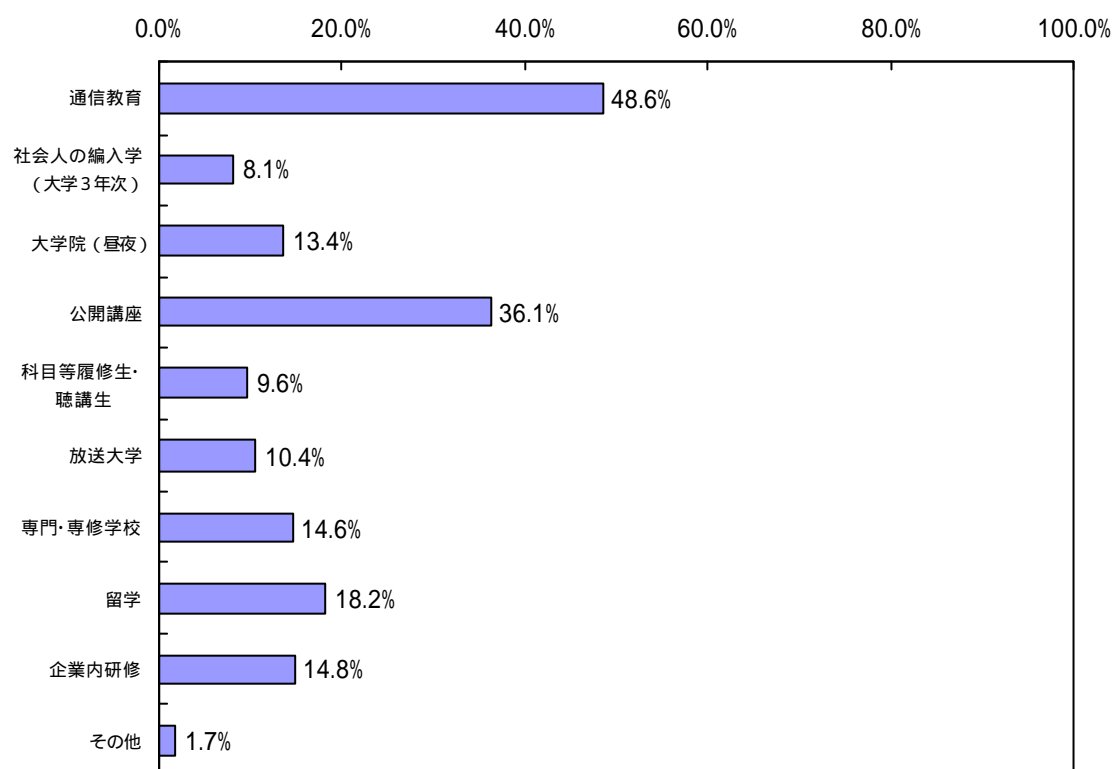


### 芸術



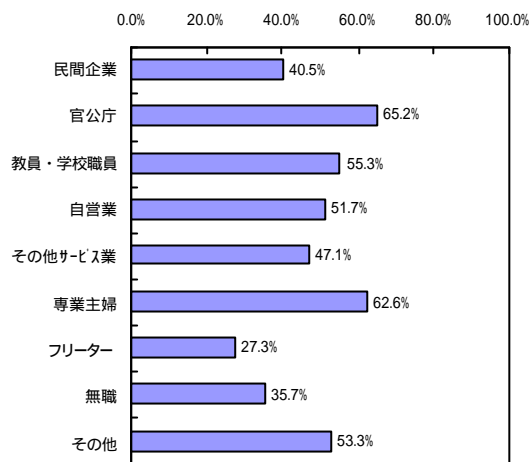
問 35 もう一度学ぶとすれば考えられる手段はなんですか（複数可）

### 通信教育と公開講座

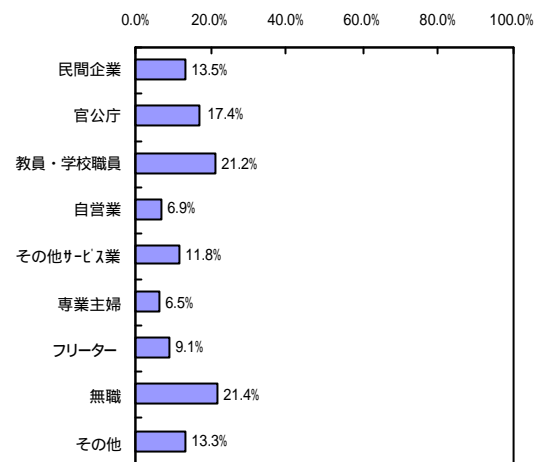


もう一度学ぶとした場合，その考えられる学びの手段について尋ねてみた。トップは「通信教育」で48.6%，続いて「公開講座」の36.1%という結果が得られた。「通信教育」を希望する理由としては，選択者がフリーター及び無職を除く人々に多く見られることから，日常の仕事で決まった時間が取れないために選択され得ることが推察される。また，「公開講座」については，自分の時間が空いたときを選んで，時間的に集約された興味ある内容の講座を学ぶ機会が得られれば，参加したいという意見の現われではないかと考えられる。また，「専門・専修学校」は無職の人が就職のために資格などを取得するために希望していることがうかがえる。

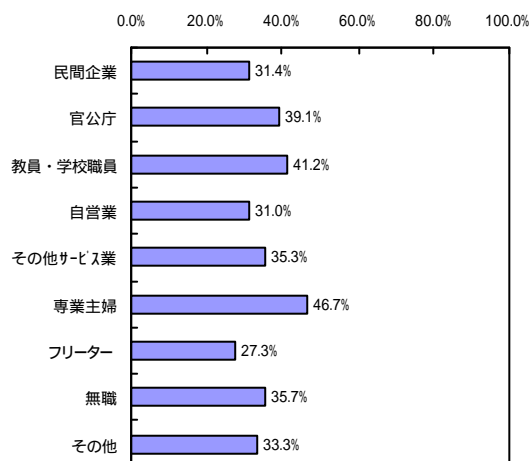
通信教育



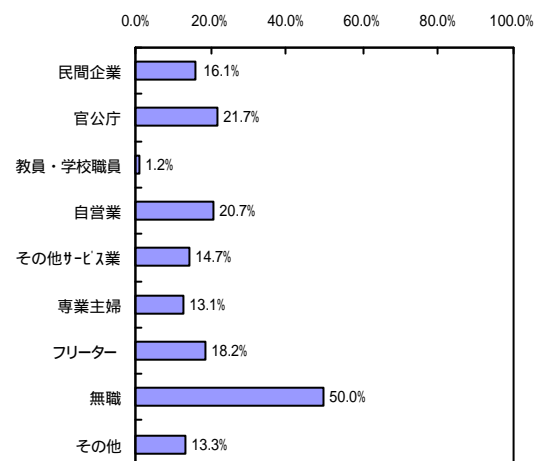
大学院（昼夜）



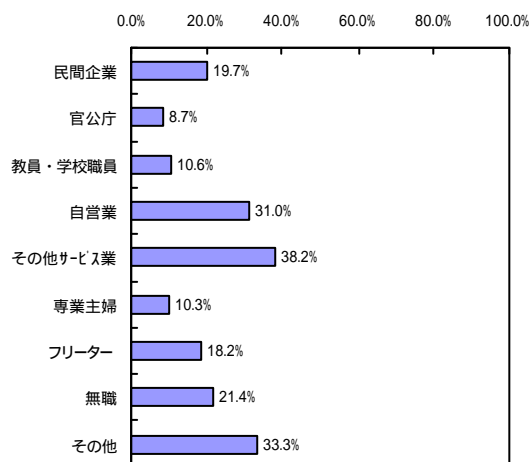
公開講座



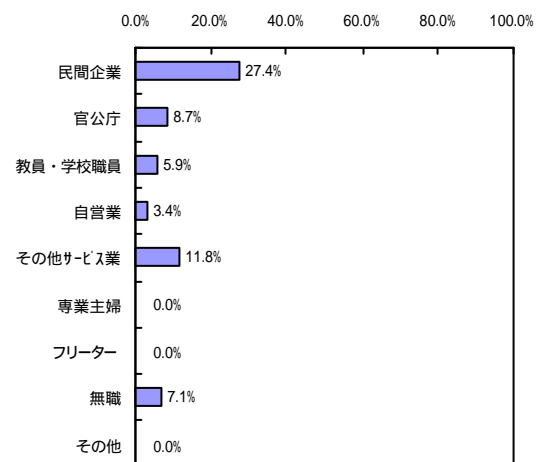
専門・専修学校



留学

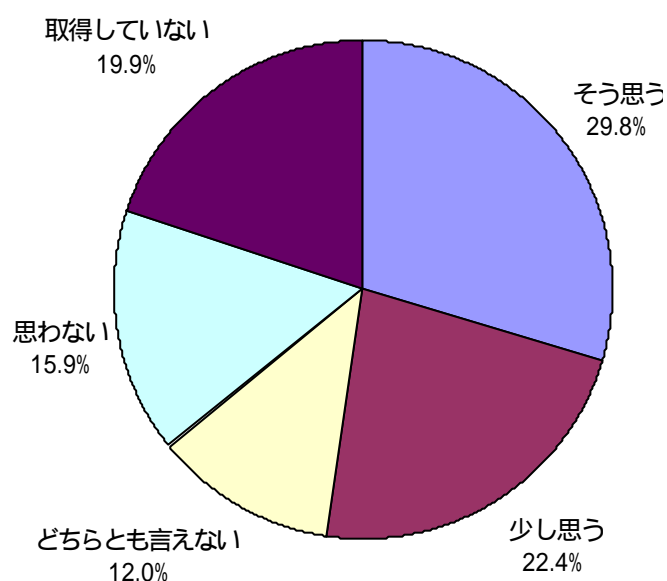


企業内研修



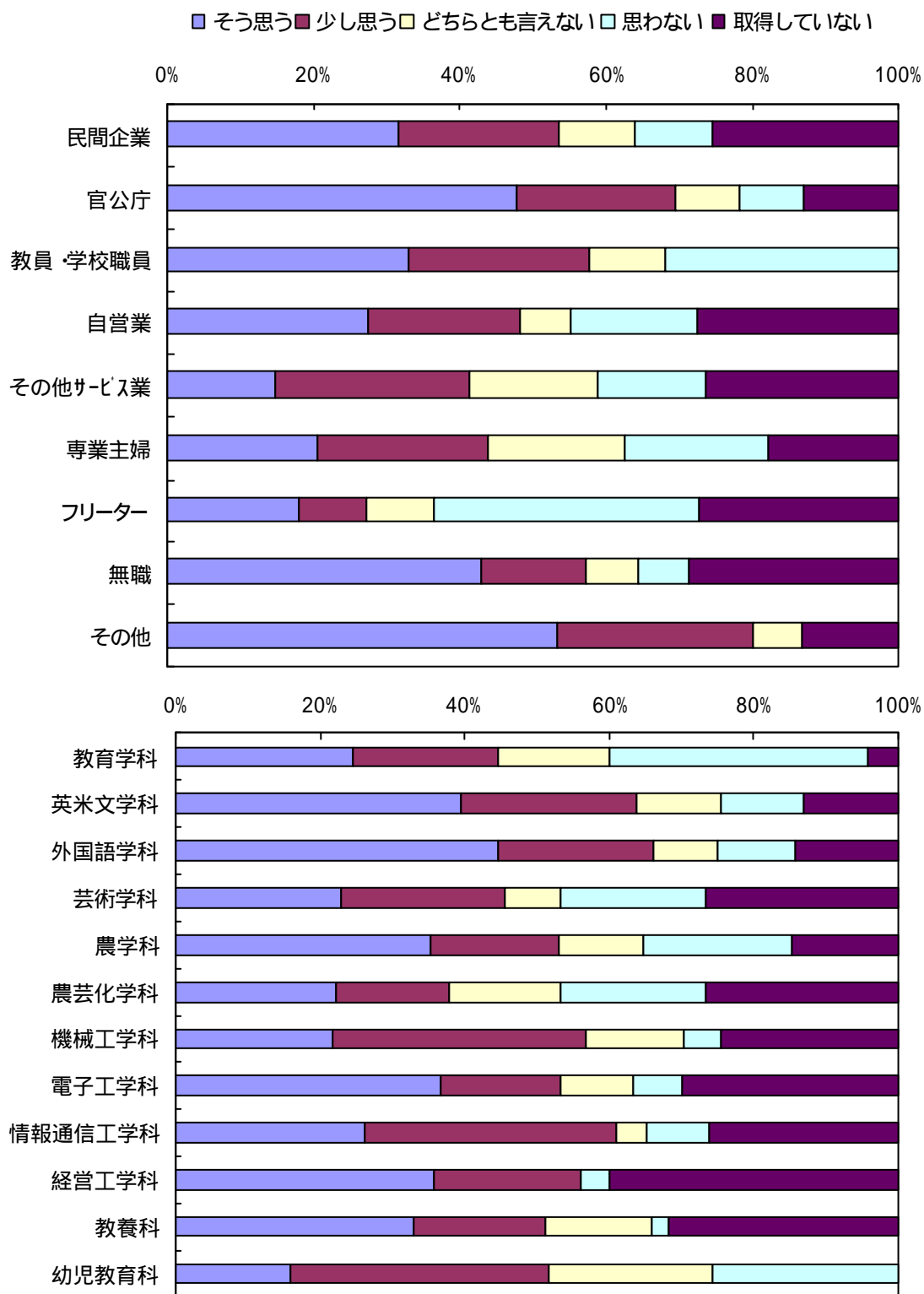
問 36 現在取得している資格をグレードアップしたいですか

上級の資格へと考えている人 52.2%



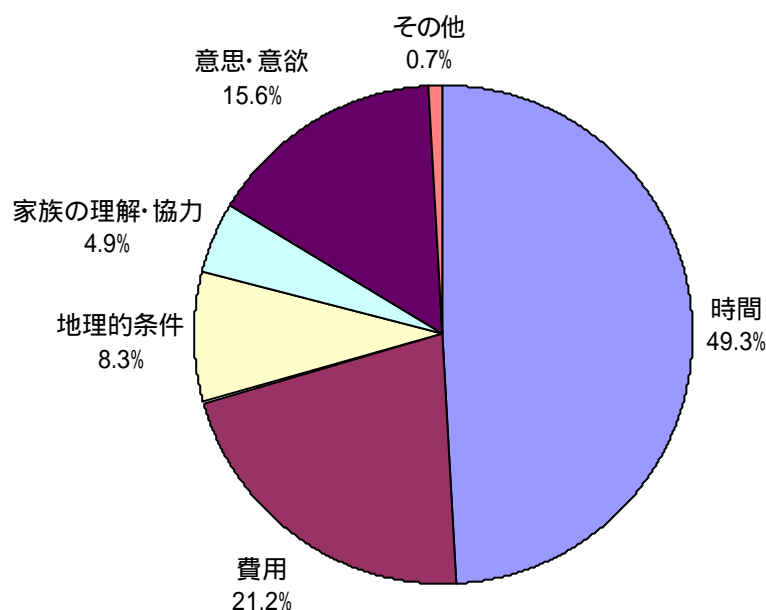
現在、取得している資格がある人で、その資格をグレードアップしたいかについて尋ねてみた。80%が何らかの資格を持っていることを示す回答結果であり、この割合は卒業後に資格を取得した者が多いことを示しているのだろう。その資格のグレードアップについて、「そう思う」が29.8%、「少し思う」が22.4%で合計すると、上級の資格へと考えている人は52.2%と高い割合を示した。

近年、就職および雇用に関して資格に対する要求が急速に増加し、職場での更なる資格取得も雇用者サイドの要求としてなされてきている。また、労働省により資格取得促進の対策も始まってきていることから、今後更に資格取得に対する意識が増加してくることが推察され、生涯学習においての資格取得に対する意識も益々高まってくることが予想される。



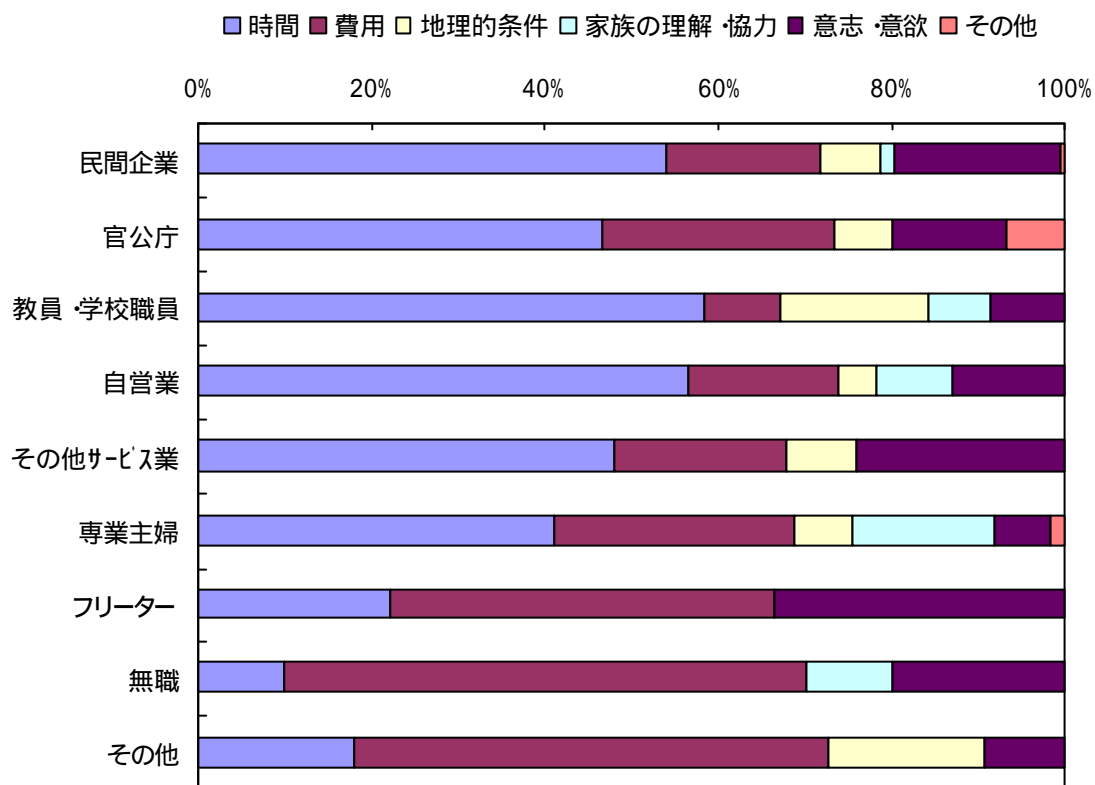
問 37 継続的学習を行う場合障害になると思われることはなんですか

### 時間



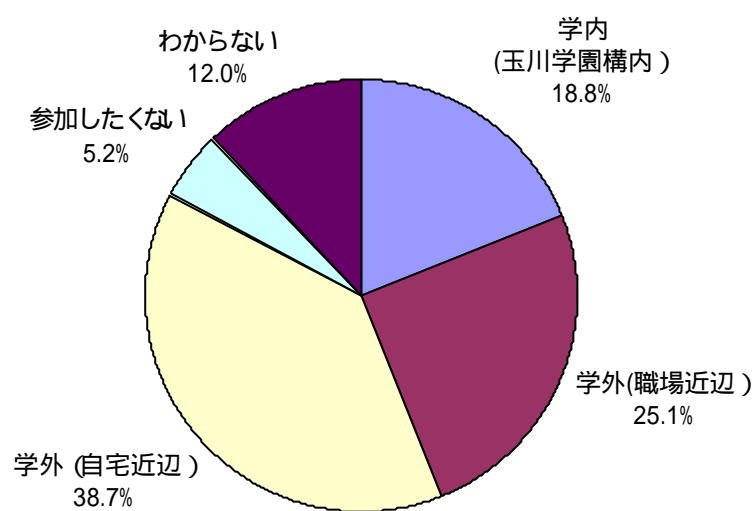
継続的学習を行なう場合に障害になることについて尋ねたところ、「時間」が49.3%と最も多く、ついで「費用」が21.2%、継続するという意味で「意思・意欲」が15.6%と続いている。このことから、時間的にコンパクトに参加できる継続学習のメニューが望まれていることが推察される。また、比較的時間に余裕があるフリーターや無職の層にとっては「費用」の占める割合も高い。このことから、継続学習においては対象とする受講生によっては、時間のみならず、講座の費用を考慮する必要があるかもしれない。





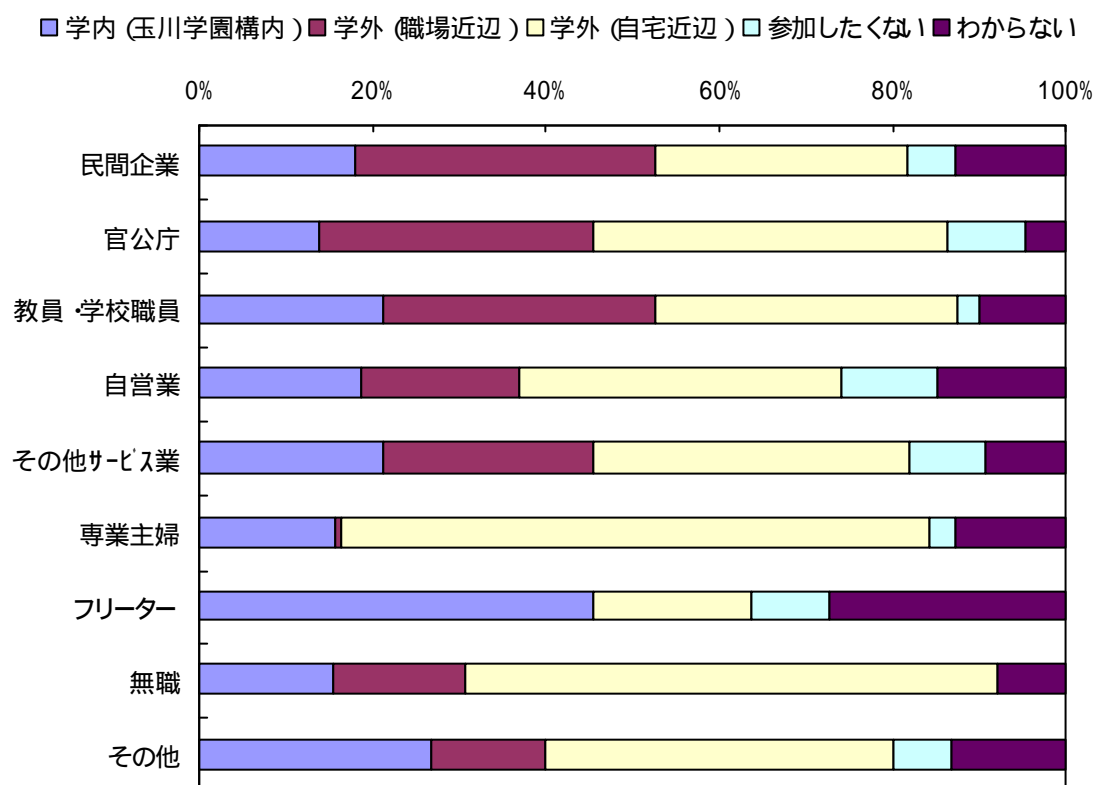
問 38 本学公開講座についてどのような“地理的条件”であれば参加したいですか

### 自宅の近く



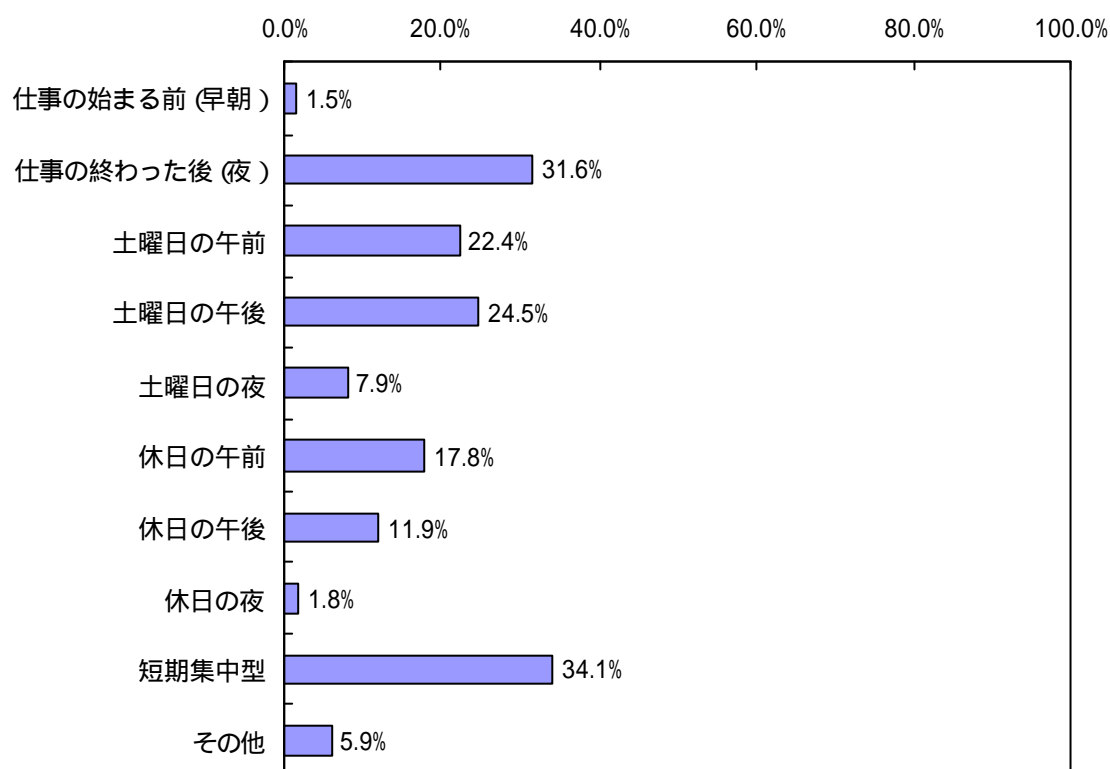
公開講座についてどのような「地理的条件」であれば参加しようと思うかについて尋ねた。「自宅近辺」が 38.7%と最も多く、「職場近辺」が 25.1%、「玉川学園構内」が 18.8%と続いている。「自宅近辺」及び「職場近辺」が多いのは、やはり前問で『時間』が一番大きな割合を示したことに一致していると思われる。それでも、「玉川学園構内」が約 20%を占めることは、本学で公開講座を行なう意義にもつながることであり喜ばしいことである。

現在、本学継続学習センターは玉川学園前駅から少し離れた文学部第3校舎を使用するケースが多い。このアンケートからは、本学施設の中でも、少しでも地理的条件の良い駅に近い施設での講座、あるいは都心でのサテライト講座などの開講が望まれていることも推測される。



問 39 本学公開講座についてどのような“ 時間的条件 ”であれば参加したいですか（複数可）

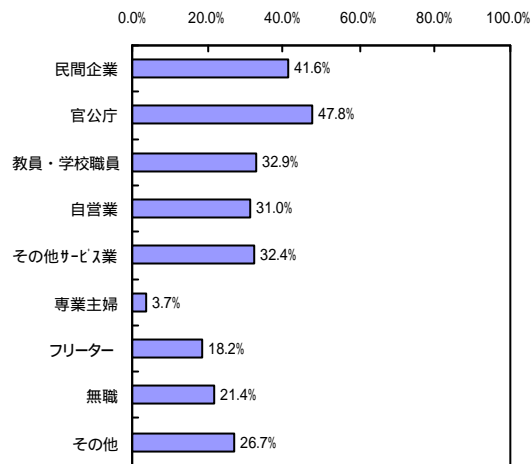
### 短期集中型と平日夜



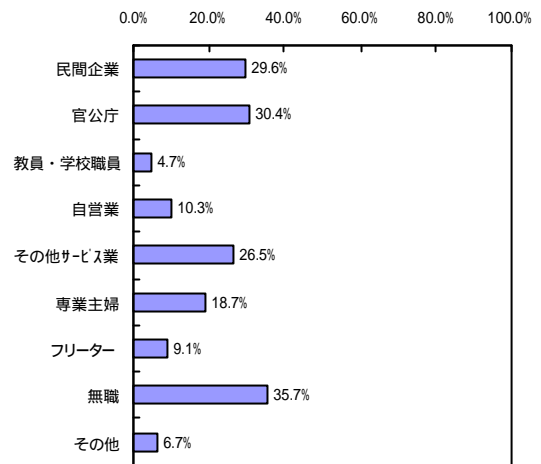
公開講座についてどのような“ 時間的条件 ”であれば参加しようと思うかについて尋ねた。「短期集中型」が34.1%と最も多く、続いて「仕事の終わった後（夜）」31.6%、「土曜日の午後」24.5%、「土曜日の午前」22.4%という結果が得られた。教員・学校職員に着目してみると「短期集中型」と「土曜日の午後」の割合が高かった。これは職場の体制がまだ週休2日制になっていないためと考えられる。一方、週休2日制の整備されてきた一般企業や官公庁は「土曜日の午前」の希望も多くなっている。

これらの結果から、公開講座の時間的設定の要求がうかがわれる。「短期集中型」が高い割合を示したのも、自分の時間を効率良く利用したいという気持ちの表われであると推察される。また、前問に関して「仕事の終わった後（夜）」に通える場所という地理的条件も考慮する必要があることが示唆される。

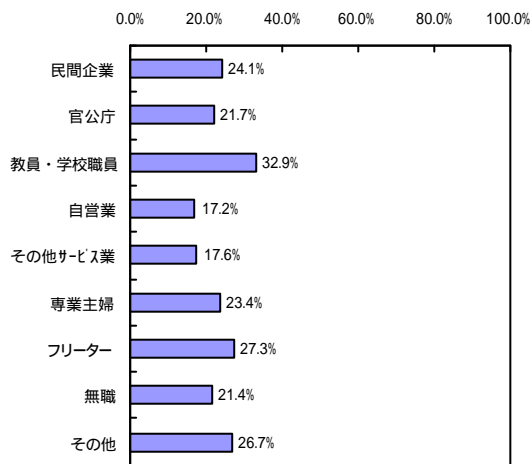
仕事の終わった後(夜)



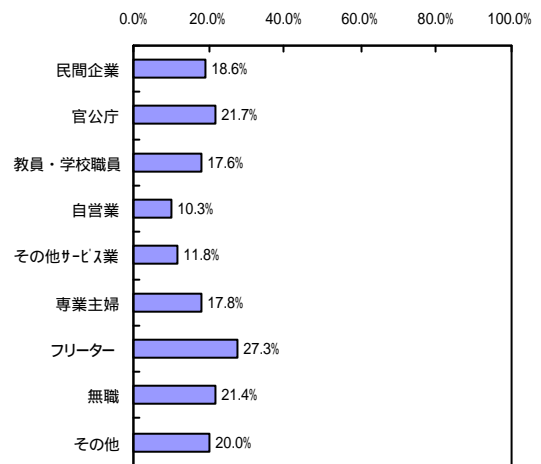
土曜日の午前



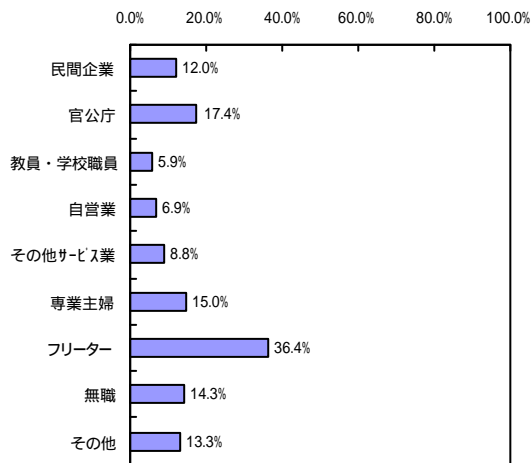
土曜日の午後



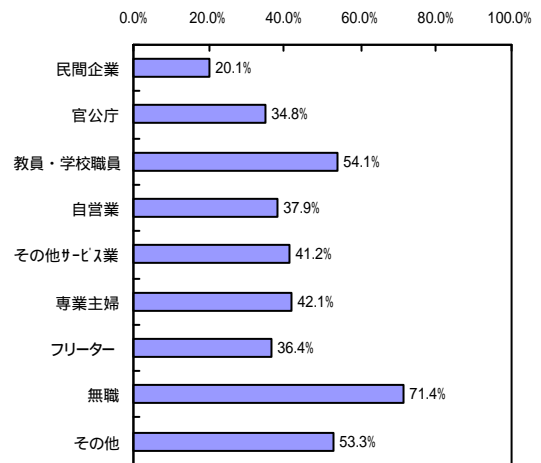
休日の午前



休日の午後

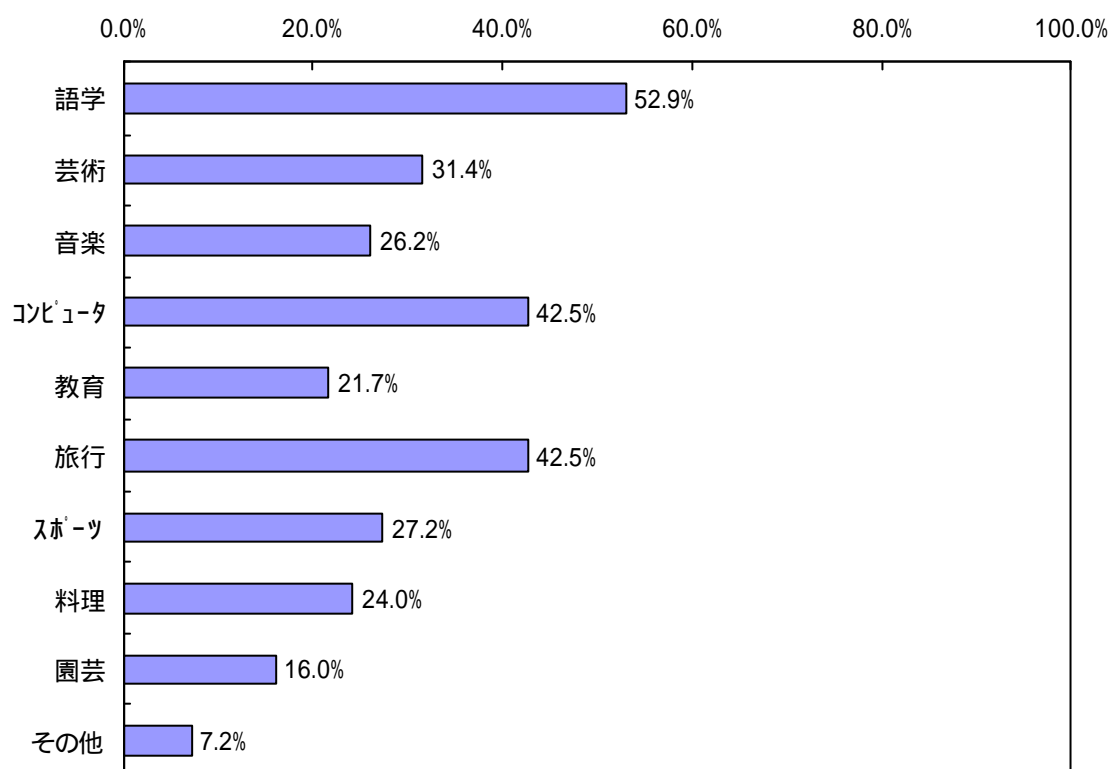


短期集中型



問 40 現在興味・関心のあることはなんですか（複数可）

1 位語学，2 位コンピュータ，旅行



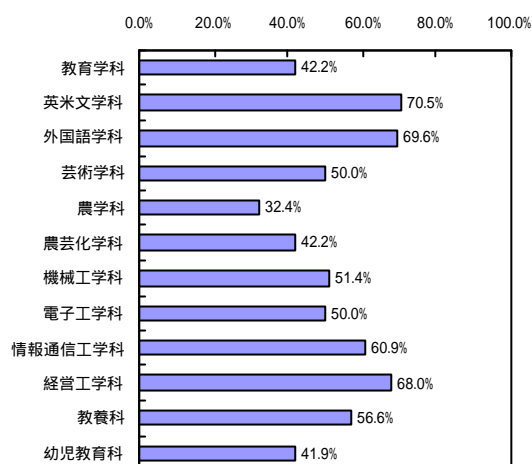
現在，興味や関心のあることは何かについて尋ねてみた。「語学」が 52.9%，「コンピュータ」と「旅行」がそれに続いた。「語学」と「コンピュータ」は専攻学科に関わらず広い分野の出身者の回答において高い割合を示した。また，「芸術」に関しては，芸術学科出身者に突出して高い割合が見られたことも注目すべき結果であろう。

「語学」がトップの理由としては，問 34 の結果と同様に語学を専門とする職場でなくとも語学力が問われる時代になってきたことも一つの要因と考えられる。

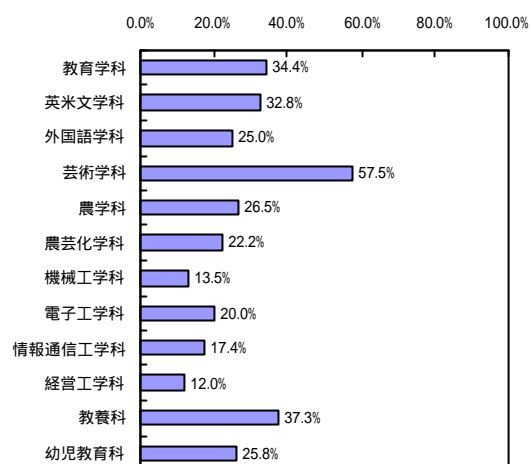
< 「その他」の意見 >

育児，心理学，福祉，医学など

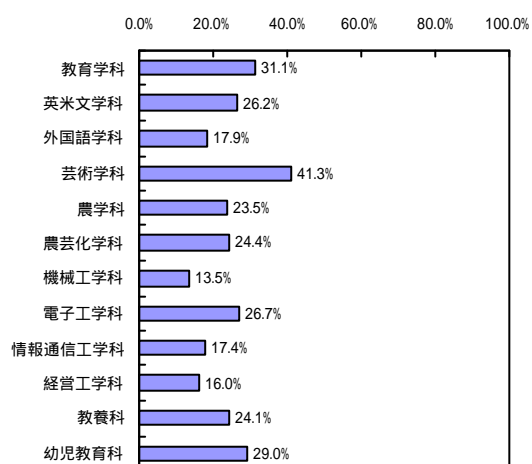
## 語学



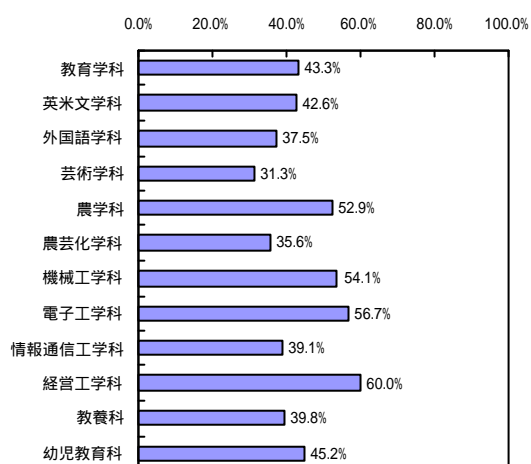
## 芸術



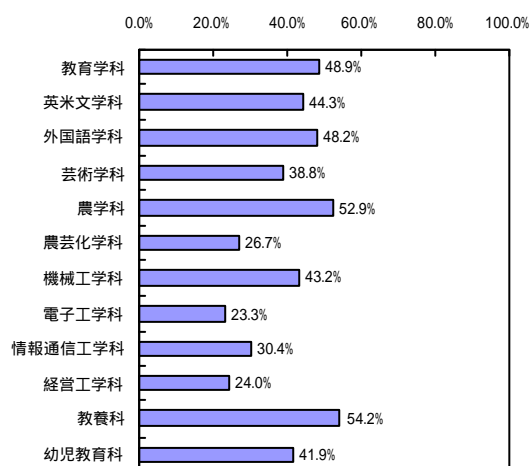
## 音楽



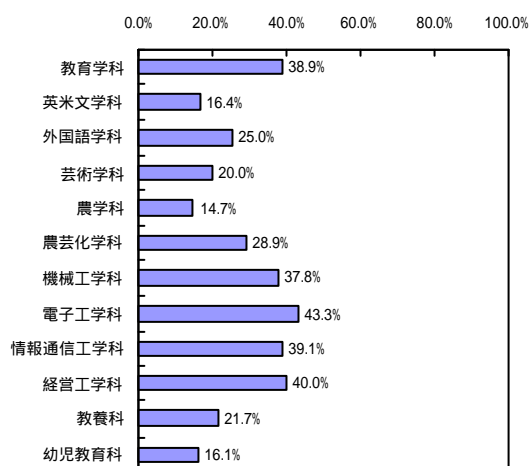
## コンピュータ



## 旅行



## スポーツ



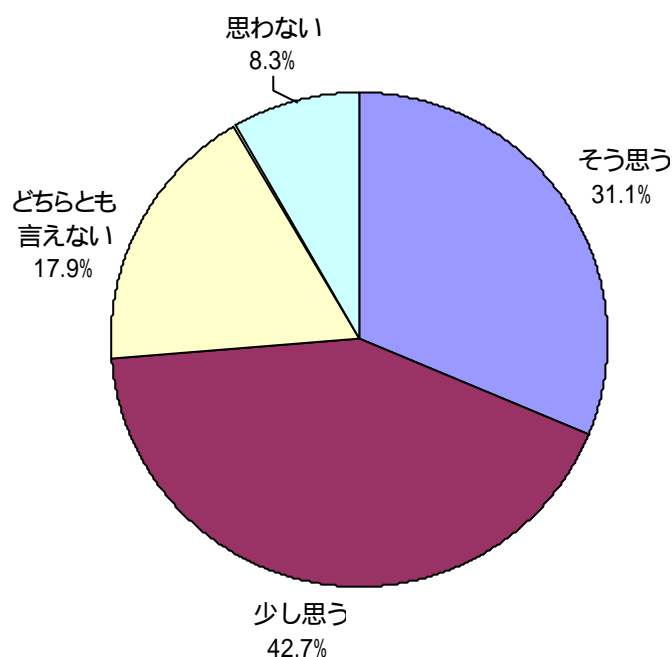




## 6 . 満 足 度

問 41 大学で学んだことが現在の仕事や生活に役立っていると思いますか

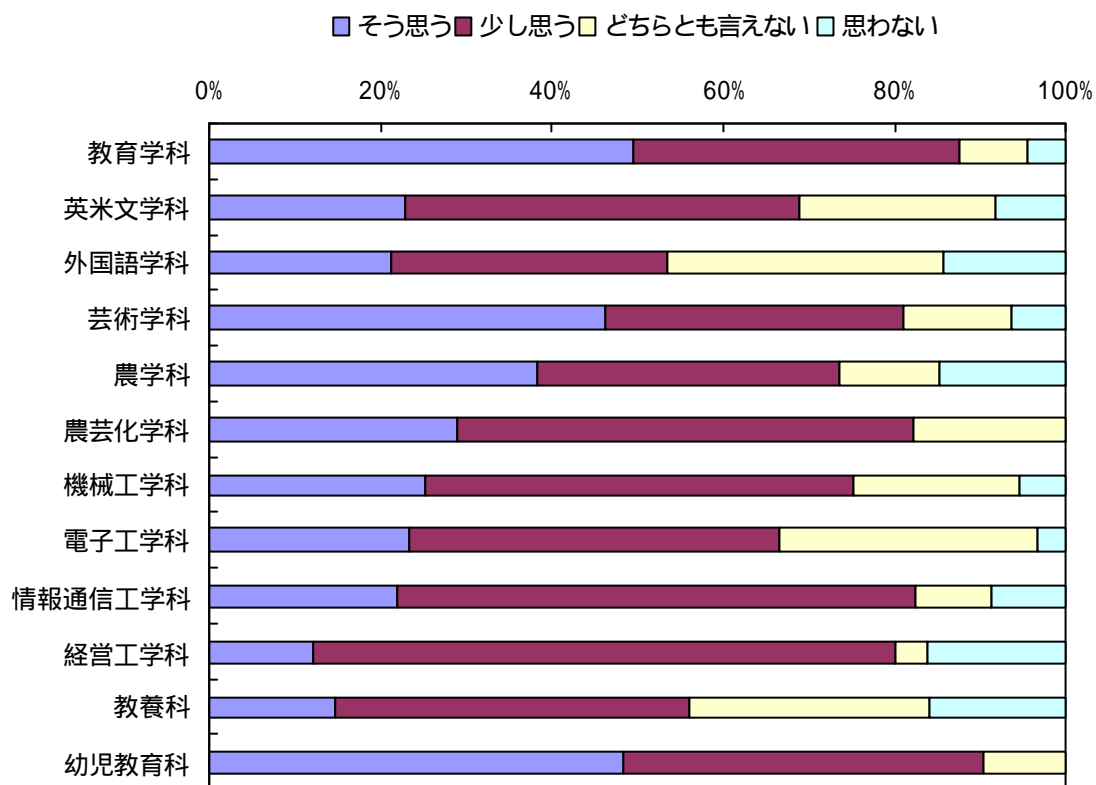
少しでも役立っていると感じた人 73.8%



総合的な評価として、大学で学んだことが現在の仕事や生活に役立っているのかを尋ねてみた。「そう思う」が31.1%で、「少し思う」が42.7%、また、「どちらとも言えない」が17.9%で、「思わない」は8.3%という結果になった。実際の仕事や生活のなかで直接に大学で学んだ専門分野とつながる場面はそう多くはないと思うが、そのような中で「そう思う」と「少し思う」の合わせての73.8%は、決して悪い数字ではないような気がする。

役立ったという回答は、教育学科と幼児教育科に多く、これは、資格取得（問15）とそれに結びつく学生生活の結果といえる。問15でポジティブな回答の多かった芸術学科、情報通信工学科が高いのもわかりやすい。この点で、農芸化学科、経営工学科の傾向は特異である。役立っているという点に結びつく要因を、これまでの回答結果と対応させてみたい。

「どちらとも言えない」以下の評価が多いのは、教養科と外国語学科である。教養科とは、即戦力としての知識でないものであるから当然のようにも受け取れる。ただ

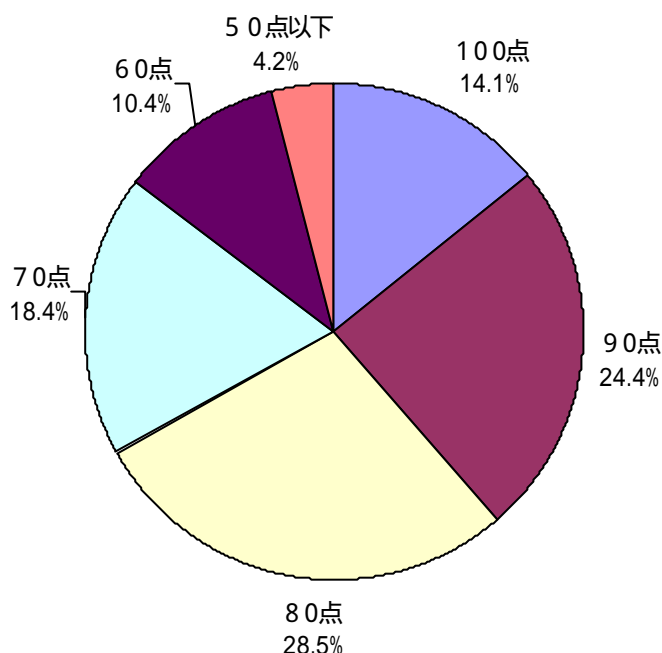


し、それでよしとする肯定的なとらえ方は、問 42 で満足度が低いことをみるとできないであろう。役立っていると言えない回答は、満足度 80%未満が多いということとも一致している。

言語テクニクに主眼があるはずの外国語学科が『役立っていない』意識は問題である。むしろ英米文学科に「少し思う」という層が多いのは何が要因であろうか？  
また、基礎的な技術を修得して、役立ち得るはずの工学部や農芸化学科で「そう思う」が少ないのも、問題かもしれない。ただし、いずれも「少し思う」がかなりあって救われているようだ。

問 42 大学生生活の満足度は 100 点満点中どのくらいですか

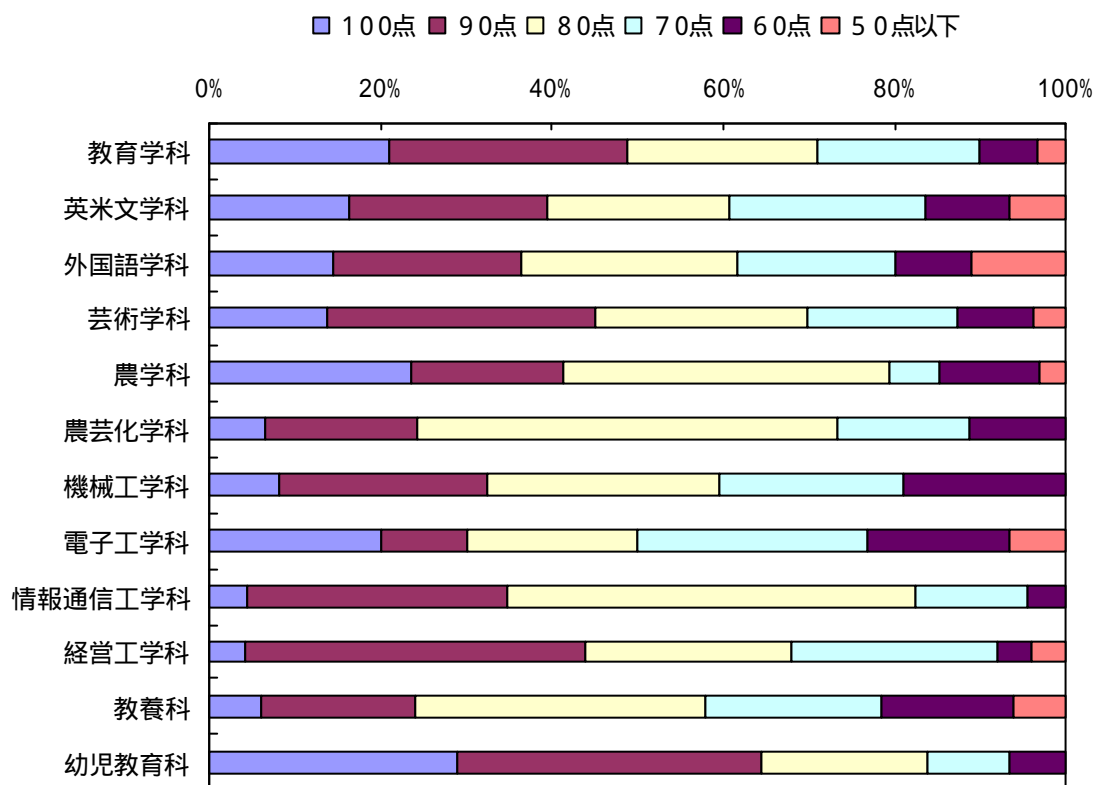
80 点以上が約 7 割



総合的な評価として、さらに大学生活での満足度を直接に点数評価にて尋ねてみた。「100点」が 14.1%、「90点」が 24.4%、「80点」が 28.5%、「70点」が 18.4%、「60点」が 10.4%、「50点」が 4.2%という結果になった。この結果より、一般的に満足点として評価されるであろう「80点以上」は 67.0%ということになる。しかしこの設問に対する学科別評価には、矛盾があるようだ。

例えば、「100点」を与えたのが最低の情報通信工学科が、「80点」まで広げると最高に近い評価を得ている。この原因は何だろうか？逆に「100点」の多い電子が「80点」レベルでは最低である。「90点」までが低い農芸化学科が「80点」では高い方に位置することも特徴といえよう。

これら総合評価は、全体の項目との関係を厳しくチェックする必要があるだろう。例えば、受験生に勧めるかという問5では、84.2%が「勧める」としている。これは、本設問の「70点」以上(85.4%)にほぼ一致しており、興味深い。また、傾向の一致という点では、問17の直接世話になった教員の指導に対する満足度とかなり似てい



ることも、重要な示唆を含んでいると言えよう。

このような点を踏まえて、各設問に対する回答結果を、総合評価との対応を念頭に分析する必要がある。卒業後に役立つようなテクニックあるいは資格を磨く過程と、満足度に結びつく要因を知って、それを育てるにはどのようなポイントに力点を置くべきかということ进行を考察し、実行・実施していく必要がある。



# . 調 査 票

2 1 世紀に向けて、より魅力と活力に溢れる玉川大学、玉川学園女子短期大学の教育創造のための基礎調査

\* 文中の「本学」は、玉川大学および玉川学園女子短期大学をいいます。

Q1 卒業学科を教えてください

教育学科	英米文学科	外国語学科	芸術学科	農学科	農芸化学科
機械工学科	電子工学科	情報通信工学科	経営工学科	教養科	幼児教育科

Q2 性別を教えてください

男性      女性

Q3 年齢を教えてください

2 9 歳以下      3 0 ~ 3 4 歳      3 5 歳以上

Q4 職業を教えてください

民間企業	官公庁	教員・学校職員	自営業	その他サービス業
学生	専業主婦	フリーター	無職	その他 (      )

Q5 本学受験を決めた時期はいつごろですか

中学生時代	高校 1 年生	高校 2 年生	高校 3 年生	高校卒業後	その他 (      )
-------	---------	---------	---------	-------	--------------

Q6 本学受験を決めた “ きっかけ ” はなんですか ( 複数可 )

教師に勧められた	親・親戚に勧められた	知人・友人に勧められた	自分で選んだ	その他 (      )
予備校より	新聞・雑誌より			

Q7 本学受験を決めた “ 理由 ” はなんですか ( 複数可 )

校風	志望学科	取得資格・免許	教授陣	自然環境	施設・設備
地理的条件	学力	受験科目	入試日程	親や周囲の人の勧め	その他 (      )

Q8 本学の志望順位はどこですか

第一志望      第二志望      第三志望      前記以外

Q9 本学への入学形態はどれですか

一般入学試験      推薦入学試験      学内入学試験 ( 高等部 )      帰国子女入学試験

Q10 入学時に期待していたことはなんですか ( 複数可 )

全人教育	専門分野の学習	資格の取得	その他 (      )
友人	自由な時間	特になかった	

Q11 本学への進学相談を受けた場合あなたは本学を勧めますか

勧める      まあまあ勧める      わからない      勧めない

Q12 本学のイメージはあなたの周囲ではどのようなだと思いますか ( 複数可 )

知名度が高い	校名を知っている程度	お坊ちゃん、お嬢ちゃん学校	施設・設備が充実している
幼稚園から大学まである	学費が高い	よく知られていない	その他 (      )

Q13 本学の “ 学費 ” は教育内容や施設・設備と比べてどのように思いますか

高い      やや高い      適正である      やや低い      低い

Q14 本学の教育において “ 数量的 ” に不足していたと感じたものはなんですか ( 複数可 )

教員	職員	学部・学科	図書館の専門書	取得可能資格	教室	実験・研究設備	視聴覚施設
コンピュータ施設	体育施設	学生厚生施設	食堂	冷暖房設備	特になかった	その他 (      )	

Q15 卒業後本学を訪ねたことがありますか

1 0 回以上      5 ~ 9 回      3 ~ 4 回      1 ~ 2 回      ない

Q16 本学の卒業生として誇れることはなんですか ( 複数可 )

師弟関係	カリキュラム	友人	自然環境	その他 (      )
施設・設備	卒業研究	教養行事	特にない	

Q17 卒業生の立場から本学の教育に期待することはなんですか ( 複数可 )

一般知識	基礎的な専門知識	高度な専門知識	社会人としてのマナー	その他 (      )
語学力	国際感覚	資格取得	他大学との単位互換	

Q18 授業において自分が打ち込める科目はありましたか

たくさんあった      少しあった      あまりなかった      なかった

Q19 意見や考えを求められる授業はありましたか

たくさんあった      少しあった      あまりなかった      なかった

Q20 授業内容の理解に努力しましたか

たくさんした      少しした      あまりしなかった      しなかった

Q21 資格取得につながる科目はありましたか

たくさんあった      少しあった      あまりなかった      なかった

Q22 在学中、資格取得や語学などの学校に通っていましたか ( 複数可 )

語学、留学準備	国家資格	職業と関連するもの	通っていなかった	その他 (      )
---------	------	-----------	----------	--------------

Q23 授業等において熱意を感じる先生はいましたか

たくさんいた      少しいた      あまりいなかった      いなかった

Q24 卒業研究担当教員 ( 短大は担任 ) の指導に満足しましたか

満足した      まあまあ満足した      どちらとも言えない      満足しなかった



Q25 不安や悩みを相談した相手は誰ですか（複数可）

友人      両親      兄弟姉妹      担任      担任以外の教員      学生部      その他（ ）

Q26 アルバイトはしていましたか

週末のみ      長期休暇中      平日夜間      平日日中週数回      平日日中ほぼ毎日      していなかった

Q27 クラブ・サークル活動に参加していましたか（主とするもの）

体育会      文化会（研究会、同好会）      直属会      学内サークル      学外サークル      参加していなかった

Q28 コスモス祭・収穫祭にどのような立場で参加しましたか（主とするもの）

実行委員      クラブ部展      学科・学部展スタッフ      模擬店      見学者として      参加しなかった

Q29 昼食はどのようにしていましたか（主とするもの）

学内食堂      弁当持参      学外で購入      学外で食べる      その他（ ）

Q30 空き時間によく利用した場所はどこですか（複数可）

学内食堂      空き教室      視聴覚施設      図書館  
コンピュータ施設      体育施設      学外の喫茶店など      その他（ ）

Q31 印象に残っている行事はなんですか（複数可）

体育祭      音楽祭      コスモス祭      収穫祭      教養行事  
企業・工場見学      ホテルマナー      新入生研修      特にない      その他（ ）

Q32 志望就職先を選択するときに重視したことはなんですか（複数可）

会社の知名度      労働条件（給与や休日など）      職種      勤務地      仕事のやりがい度  
社会・公共への貢献度      安定性・将来性      就職活動をしなかった      その他（ ）

Q33 就職活動時に参考にした情報源はなんですか（複数可）

本学の就職情報資料      就職情報誌      新聞      就職指導教職員の助言  
先輩の助言      会社案内のダイレクトメール      その他（ ）

Q34 就職関係の資料や情報提供は充実していましたか

充実していた      少し充実していた      どちらとも言えない      充実していなかった      就職活動をしなかった

Q35 就職指導や就職ガイダンスは充実していましたか

充実していた      少し充実していた      どちらとも言えない      充実していなかった      就職活動をしなかった

Q36 就職指導の教職員の対応は適切でしたか

適切であった      ある程度は適切であった      どちらとも言えない      適切ではなかった  
就職指導を受けなかった

Q37 就職指導の観点から重要だと感じたものはなんですか（複数可）

就職ガイダンス      個人指導の徹底      講座・講習会・模試の実施  
求人開拓の強化・情報の提供      模擬面接      就職指導を受けなかった      その他（ ）

Q38 就職活動を終えて自分に不足していたと感じたものはなんですか（複数可）

一般知識      専門知識・技術      取得資格      積極性・行動力  
就職への意欲      就職情報量      語学力      パソコン操作  
社会人としてのマナー      就職活動をしなかった      特にない      その他（ ）

Q39 当時の就職先に現在も勤務していますか

勤務している      勤務しているが転職を考えている      すでに転職した  
現在仕事をしていない      就職活動をしなかった      その他（ ）

Q40 もう一度学びたい分野はありますか（複数可）

人文科学      社会科学      外国語学      国際関係学      理学  
工学      農学      教育・体育      芸術      その他（ ）

Q41 もう一度学ぶとすれば考えられる手段はなんですか（複数可）

通信教育      社会人の編入（大学3年次）      大学院（昼夜）      公開講座      科目等履修生・聴講生  
放送大学      専門・専修学校      留学      企業内研修      その他（ ）

Q42 現在取得している資格をグレードアップしたいですか

そう思う      少し思う      どちらとも言えない      思わない      取得していない

Q43 継続的学習を行う場合障害になると思われることはなんですか

時間      費用      地理的条件      家族の理解・協力      意思・意欲      その他（ ）

Q44 本学公開講座についてどのような“地理的条件”であれば参加したいですか

学内（玉川学園構内）      学外（職場近辺）      学外（自宅近辺）      参加したくない      わからない

Q45 本学公開講座についてどのような“時間的条件”であれば参加したいですか（複数可）

仕事の始まる前（早朝）      仕事の終わった後（夜）      土曜日の午前      土曜日の午後  
土曜日の夜      休日の午前      休日の午後      休日の夜      短期集中型      その他（ ）

Q46 現在興味・関心のあることはなんですか（複数可）

語学      芸術      音楽      コンピュータ  
教育      旅行      スポーツ      料理      園芸      その他（ ）

Q47 大学で学んだことが現在の仕事や生活に役立っていると思いますか

そう思う      少し思う      どちらとも言えない      思わない

Q48 大学生活の満足度は100点満点中どのくらいですか

100点      90点      80点      70点      60点      50点以下

本調査の設問設定・考察等については、「1998 年度玉川学園教育研究活動等点検調査委員会」が設置する下記の専門分科会と、そこから選出いただいた5人の委員および教育調査企画室からなる「卒業生アンケートワーキンググループ」が中心となって作業を行った。

---

#### 卒業生アンケートワーキンググループ

入試広報関係専門分科会	松 香 光 夫	委員（まとめ役）
教 務 関 係 専 門 分 科 会	久保田義正	委員
学生生活関係専門分科会	小 田 真 幸	委員
就職指導関係専門分科会	柳 原 直 人	委員
継続学習関係専門分科会	相 原 威	委員
教 育 調 査 企 画 室	小 川 久 夫	室長
” 学校調査課	齊 藤 文 則	課長代理
” 学校調査課	五十嵐麻子	係員

#### 活動記録

1998 年	6 月	・ 第 1 回ワーキンググループ会議開催
	7 月	・ 第 2 回ワーキンググループ会議開催 ・ 第 2 回教育研究活動等点検調査委員会(中間報告)
	9 月	<アンケート調査実施(～10月中旬)>
	11 月	・ 第 3 回ワーキンググループ会議開催
	12 月	・ 第 4 回ワーキンググループ会議開催
1999 年	1 月	・ 第 3 回教育研究活動等点検調査委員会(報告)
	3 月	<報告書(冊子)作成・発行>

---

最後に、本調査をまとめるにあたり多数の貴重な資料が得られたことは誠に有り難いことである。これも、本調査の趣旨を理解していただき、ご多用の中、時間を割いて回答に協力いただいた卒業生の皆様のお陰であり、ここに心から感謝申し上げる次第である。

21世紀に向けて,より魅力と活力に溢れる玉川大学・  
玉川学園女子短期大学の教育創造のための基礎調査

---

1999年3月1日発行

発行者 玉川学園教育研究活動等点検調査委員会

編集者 卒業生アンケートワーキンググループ

印刷所 玉川学園教育関連事業部教材制作課